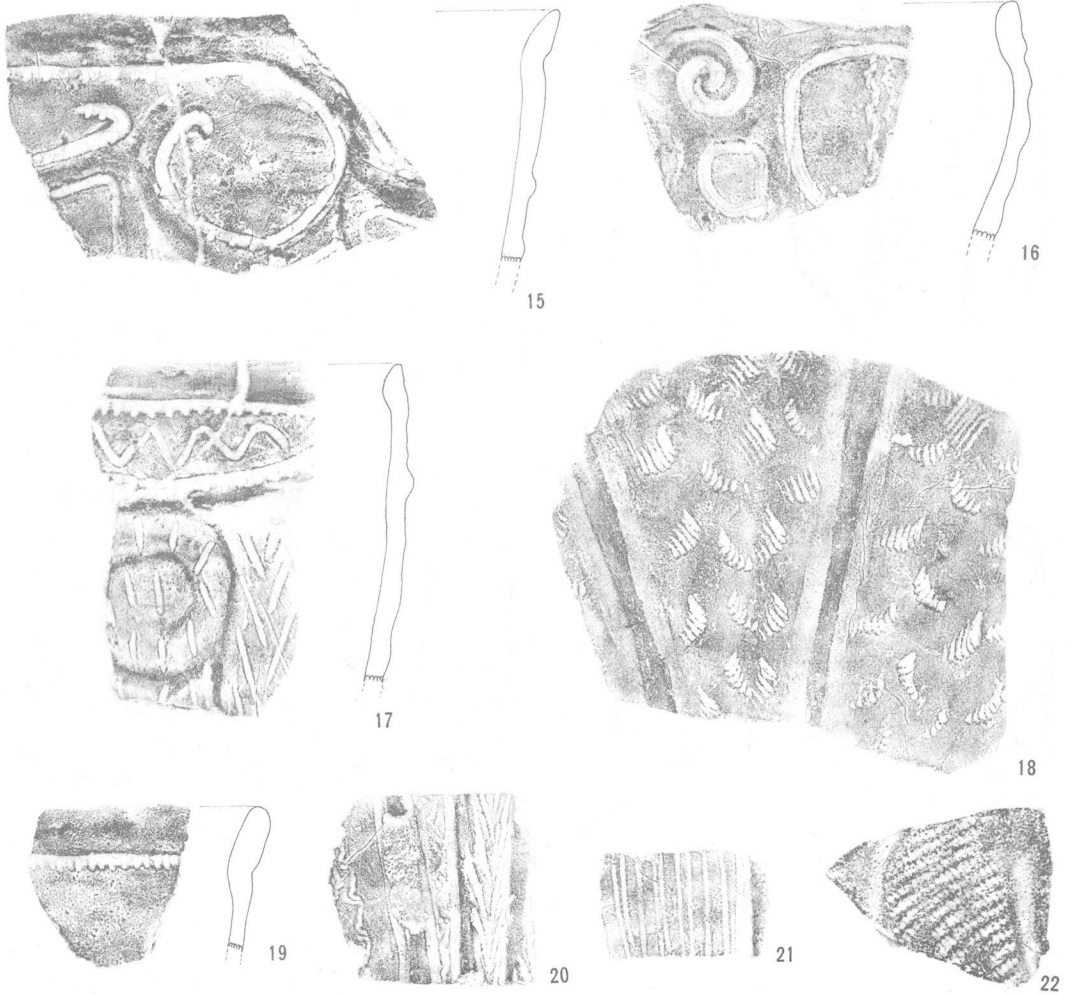


第157図 第31号住居址覆土出土土器(1/3)

これらの土器は曾利Ⅲ式期に比定でき得るであろう。

石器はすべて床面よりの出土で14点である。その内訳は打製石斧11点、磨製定角石斧・特殊敲打器・横刃形石器各1点ずつである。外に硬砂岩の剥片28片、砂岩質のもの2片、緑泥片岩質のもの1点が出土している。

1～6は打製石斧である。6は撓形、他は短冊形である。1はa類、2～4はb類、5はc類、6はd類である。石質は1・4は緑泥岩、2・3・6は硬砂岩、5は緑泥片岩である。図示したほかに5点の打製石斧があり、すべて破損しており短冊形である。

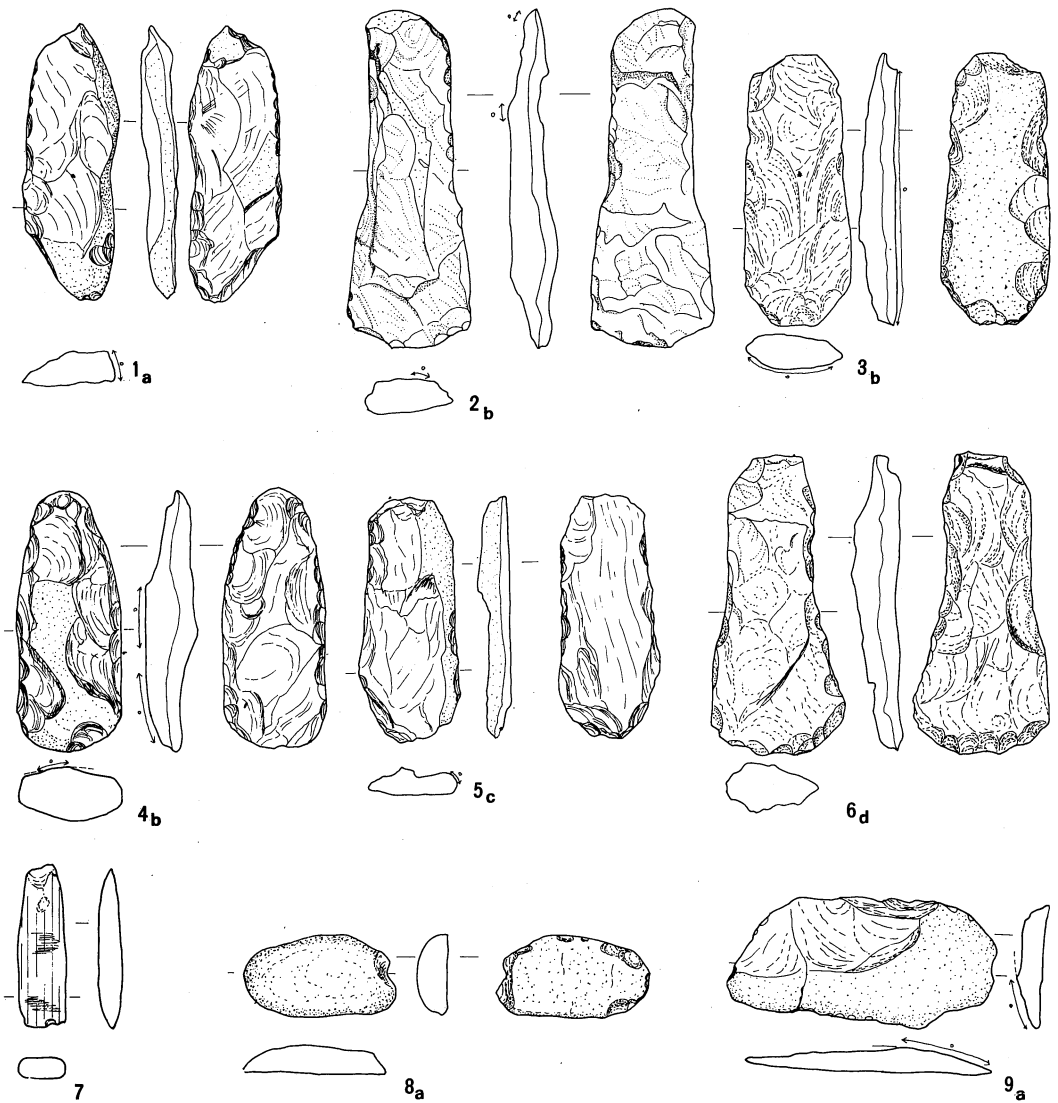


第158図 第31号住居址床面出土土器（ $\frac{1}{3}$ ）

7は緑泥岩製の磨製の定角石斧である。刃部にわずか破損部がみられる。

8は特殊敲打器でまったくの自然石を利用したa類に属する。硬砂岩製である。

9は硬砂岩製の横刃形石器でa類である。



第159図 第31号住居址床面出土石器 (1/3)

### 30 第32号住居址 (第100~163図)

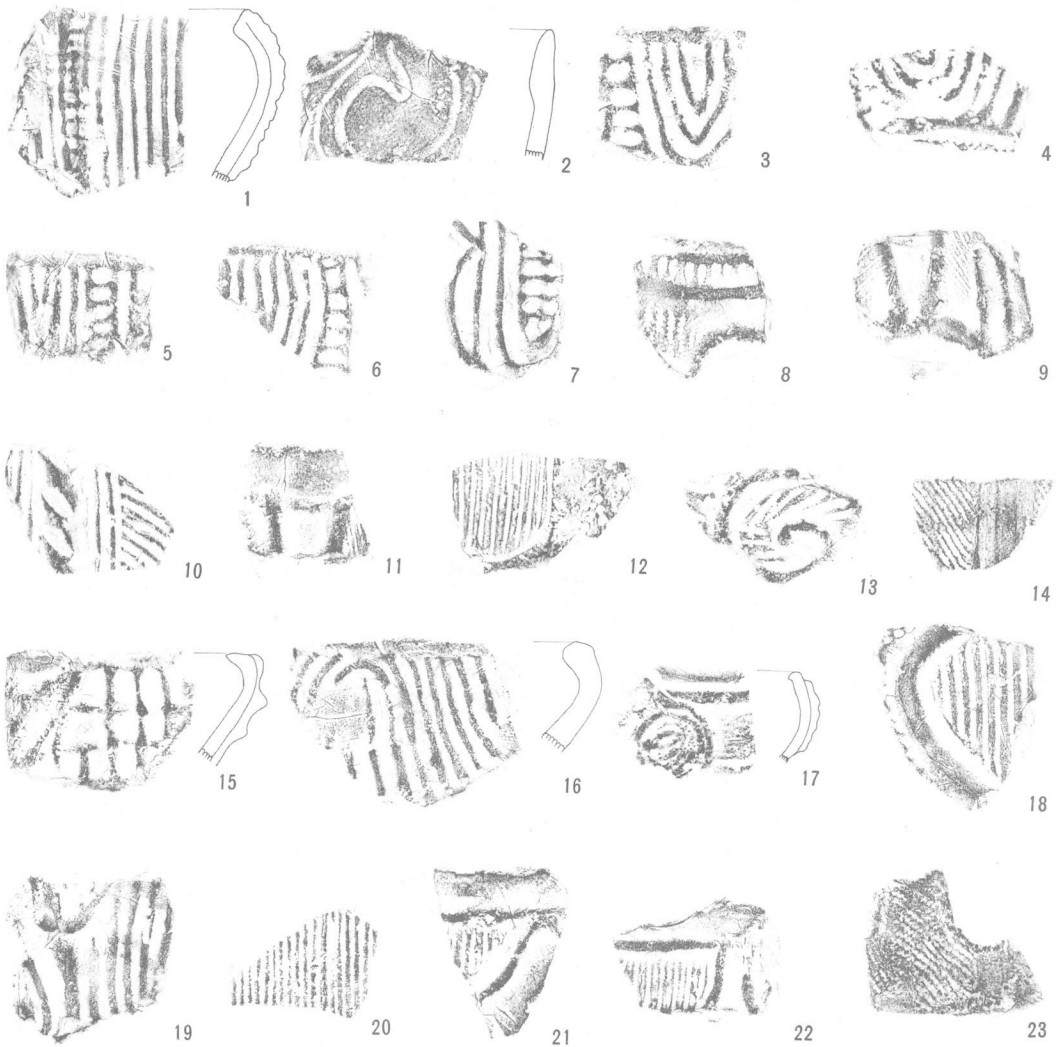
#### 遺構 (第160図)

当住居址に第30号住居址の北に接するものである。第30号住居址との間には多くの土塚がありその復合関係はプランからでははっきりしない。第30号住居址との床面差は20cm前後を測ることができる。

プラン・大きさはまったく不明である。床面はあまりタタキがされてない。



第160图 第32号住居址実測図 (S =  $\frac{1}{80}$ )



第161図 第32号住居址出土土器（壺、1～14は覆土、15～23は床面出土）

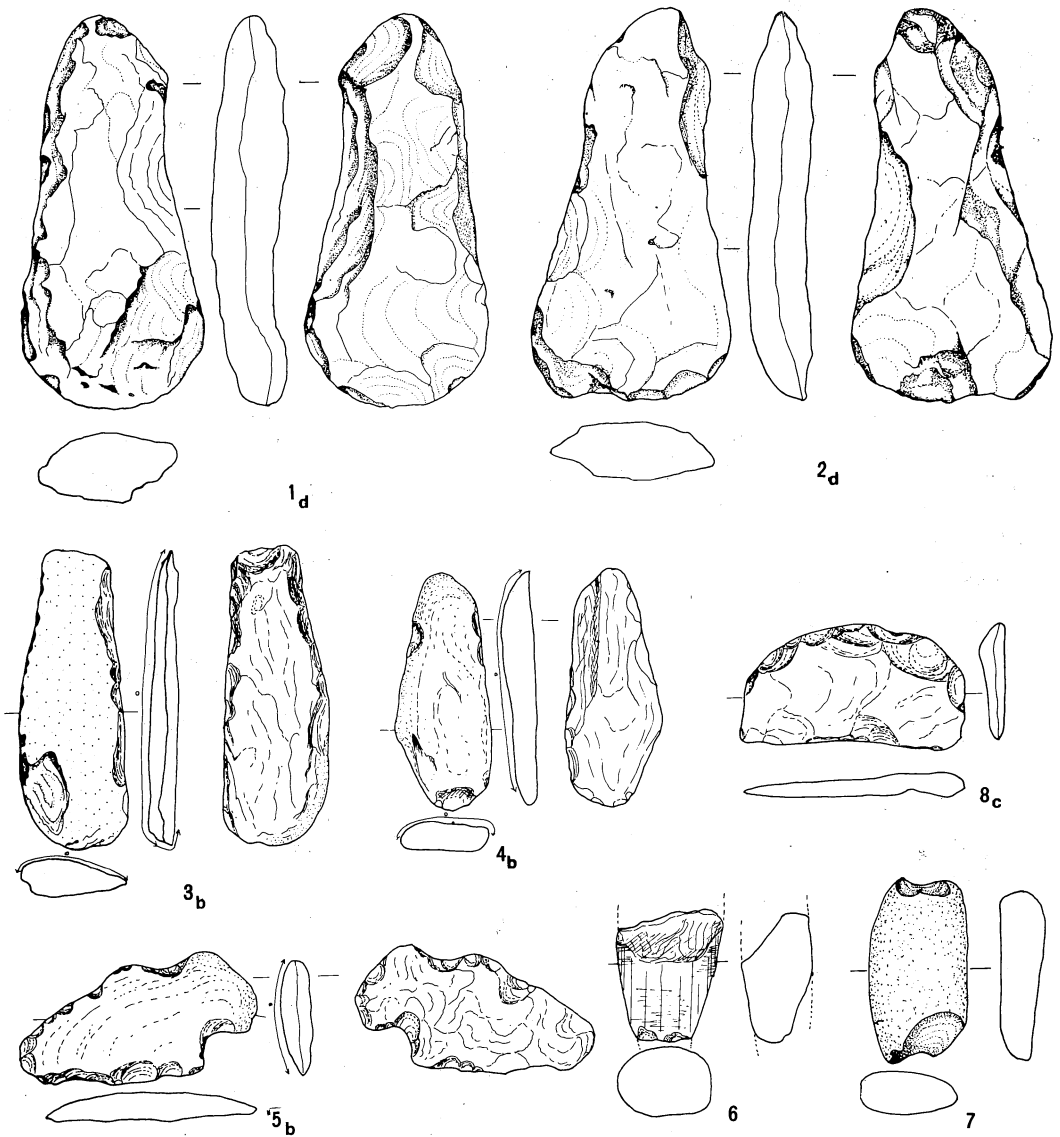
炉は石組みで、75×50cmを測る。西側は抜かれたものか炉石はない。内部は舟底形に掘られ焼土が充満している。

炉の南東床面に石皿（第163図-17）が発見されている。

**遺物（第161～163図）**

土器は比較的少ない。覆土出土のもの（1～4）と床面出土のもの（15～23）との間には時間差はみられない。

曾利Ⅰ式に総じて類似するものである。14はやや後出するものである。21・22は楕形文を持



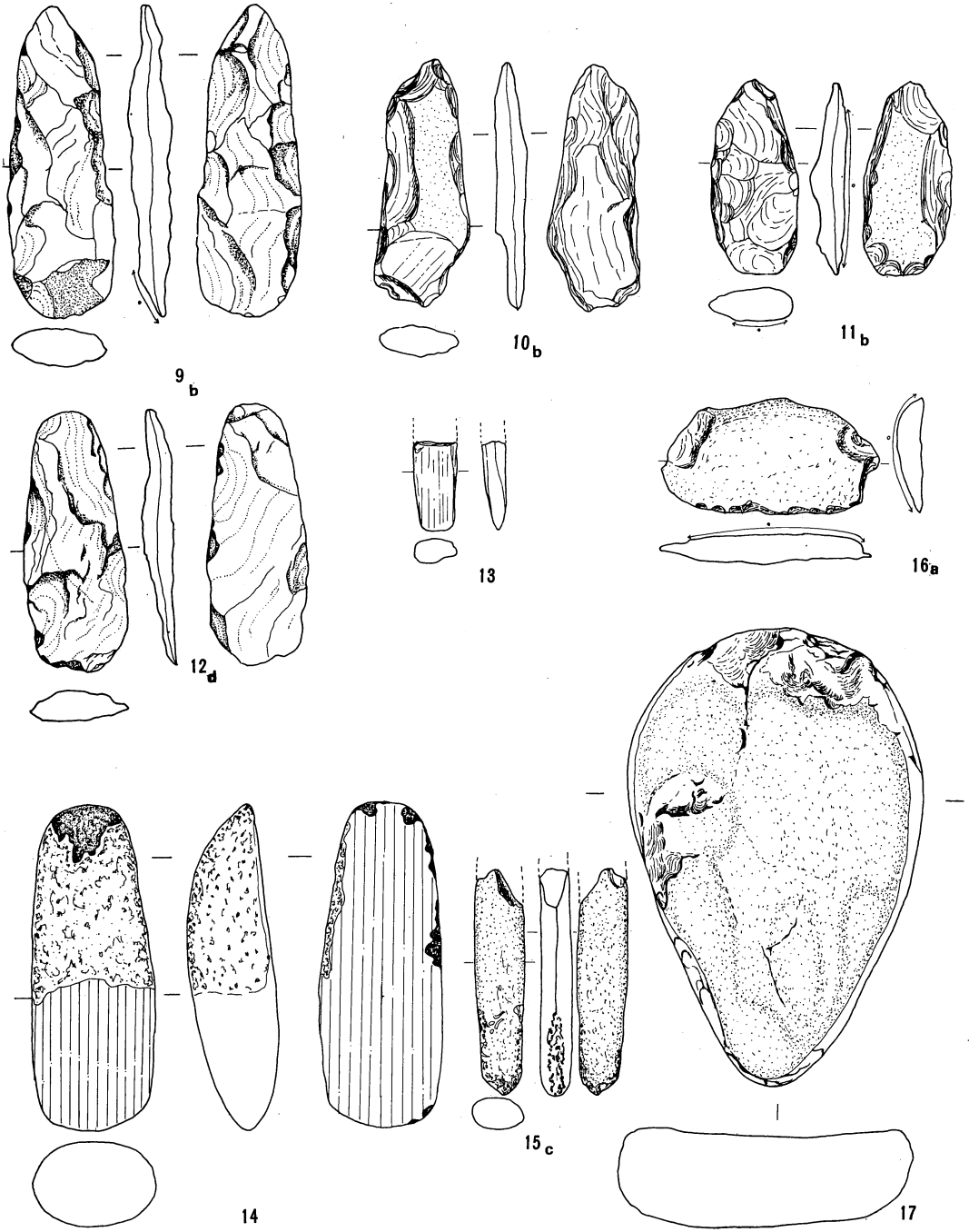
第162図 第32号住居址覆土出土石器 (1/3)

ちやや先行する。

住居址は曾利Ⅰ式期の初頭に位置付けられよう。

石器は土器の出土量に比べて多く全部で25点出土している。覆土より11点、床面より14点の出土である。

覆土出土の石器の内訳は打製石斧7点、大形粗製石匙・磨製乳棒状石斧・石錘・横刃形石器



第163図 第32号住居址床面出土石器 (17は  $\frac{1}{2}$ 、他は  $\frac{1}{3}$ )

各1点ずつである。打製石斧7点のうち完形品は4点である。形態的には撓形2点のほかは短冊形である。

床面出土石器の内訳は打製石斧8点、磨製定角石斧、磨製蛤刃石斧・敲打器、横刃形石器、石皿・大形粗製石匙各1点ずつである。8点の打製石斧のうち完形品は4点である。すべて短冊形である。大形粗製石匙はつまみ部のみで形態は不明である。

1～4、9～12は打製石斧である。1・2は撓形、他は短冊形である。自然面を両面に持つa類、自然面を測面ないしは刃・頭部に持つc類はなく、b類（3・4、9～12）とd類（1・2）だけである。石質は1・2・9・12が硬砂岩、3・4・11が緑泥岩、10が安山岩である。

13は緑泥岩製の磨製定角石斧で頭部を欠いている。14は緑泥岩製の磨製蛤刃石斧である。片面頭部側は敲打痕を残して磨かれていない。また頭部にも細かい敲打痕が残っている。6は磨製の乳棒状石斧の胴部破片である。石質は凝灰岩である。

5は硬砂岩製の横形の大形粗製石匙で調整は丹念な方である。

7は硬砂岩製の縦形の礫石錘である。15は細長い緑岩岩の測面を利用した敲打器c類である。

8・16はともに硬砂岩製の横刃形石器で8はc類、16はa類である。

17は砂岩製の石皿で炉の南東床面より出土したものである。表面はわずかに凹面をつくるが全体を利用している。

### 31 第33号住居址（第152、164～166図）

#### 遺構（第152図）

本住居址は第30号住居址の南にあつて同一床面レベルで複合することはすでに述べたところである。

プランは北壁が短くなる隅丸台形である。大きさは南北4.0m、東西南壁4.3m、北壁3.5mを測ることができる。住居址の主軸方向はS-19°-Wである。

壁高は一定せず、北東部が40cmと最も高く南に行くに従い低くなって25cmである。西壁はも一軒住居址があるのか、わずか4～5cmのものである。

床面は部分的に凹む所があるが、全体に固くたたきしめられており良好である。

支柱穴はP<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>・P<sub>4</sub>・P<sub>9</sub>・P<sub>10</sub>の5本と考えられる。

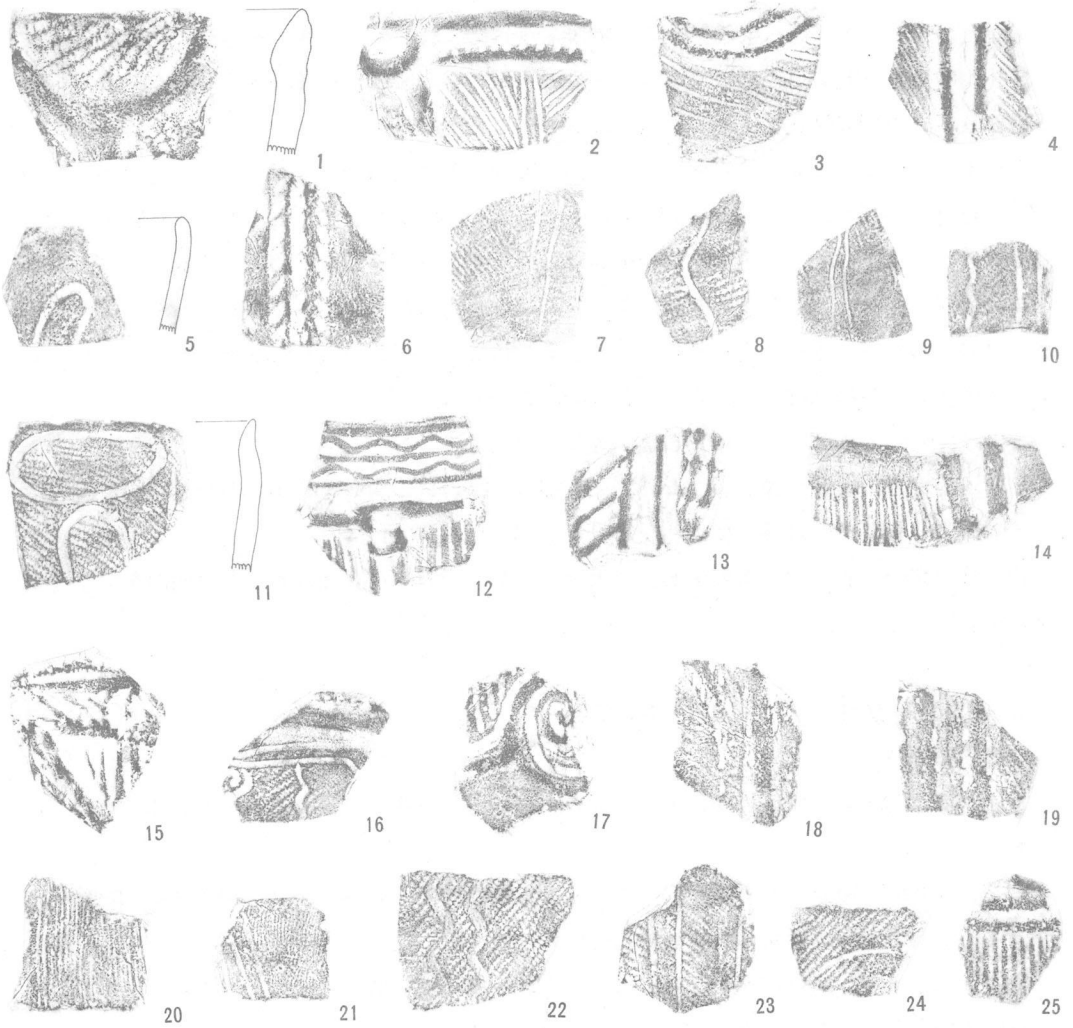
炉は住居址中央北寄りに位置し、長方形の石組み炉である。大きさは外形100×85cm、内形で65×45cmを測る。内部は床面を25cmほどやや舟底状に掘り込んでいる。炉石は西・北・東の三方では縦長に用いている。南側は3個の小さな石を横長にすえ、その上に細長い石をやはり横長にのせている。2段に炉石を組んであるところは第18・22号住に類似する。焼土は炉内に充満している。

#### 遺物（第164～166図）

出土土器は少ない。覆土出土のもの（1～10）と床面出土のもの（11～25）とがあるが時間差はみられない。

縄文を持つ一群とそうでないものとに大別できる。縄文を持つものの中には、後出する結節



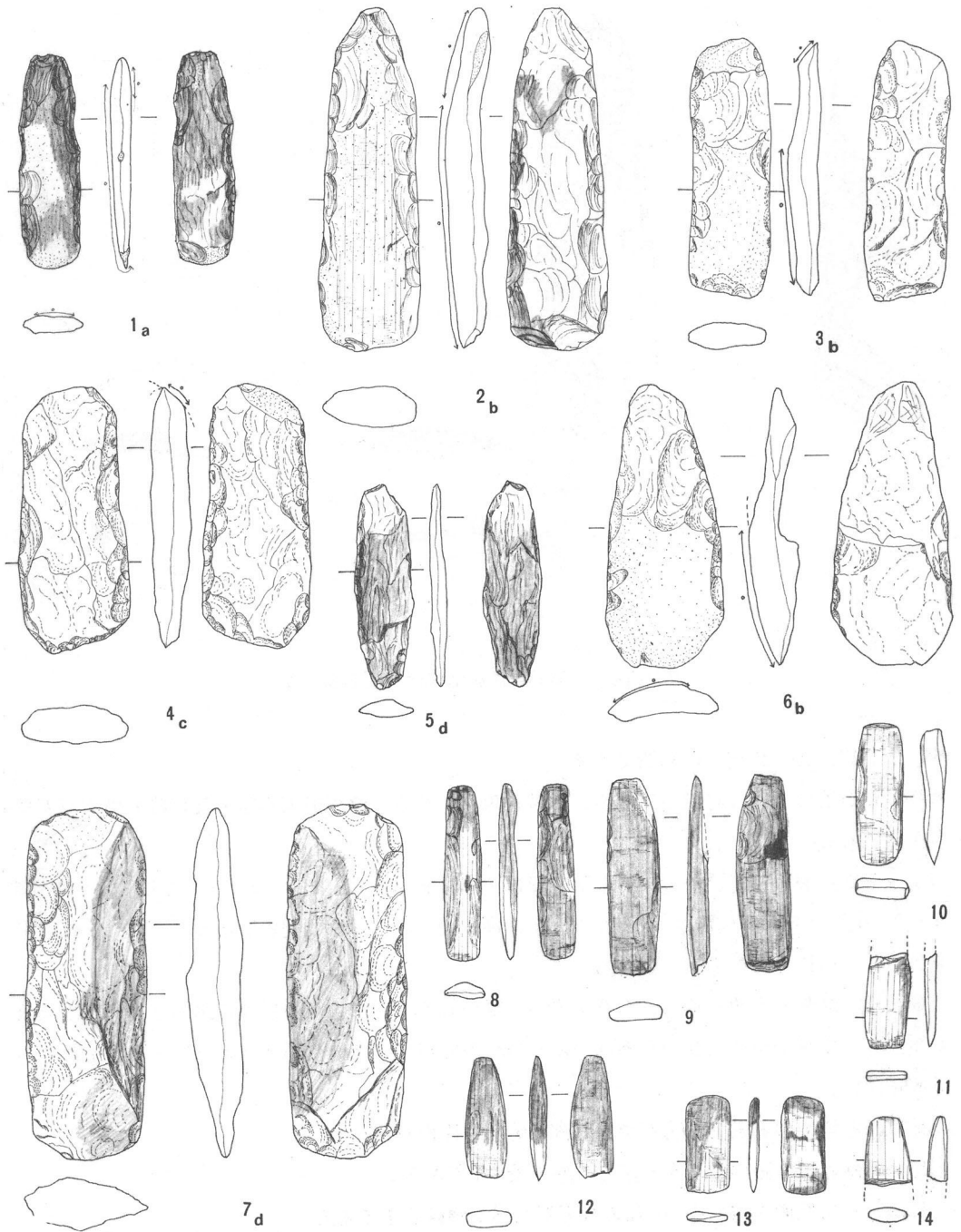


第164図 第33号住居址出土土器（ $\frac{1}{3}$ 、1～10は覆土、11～25は床面出土）

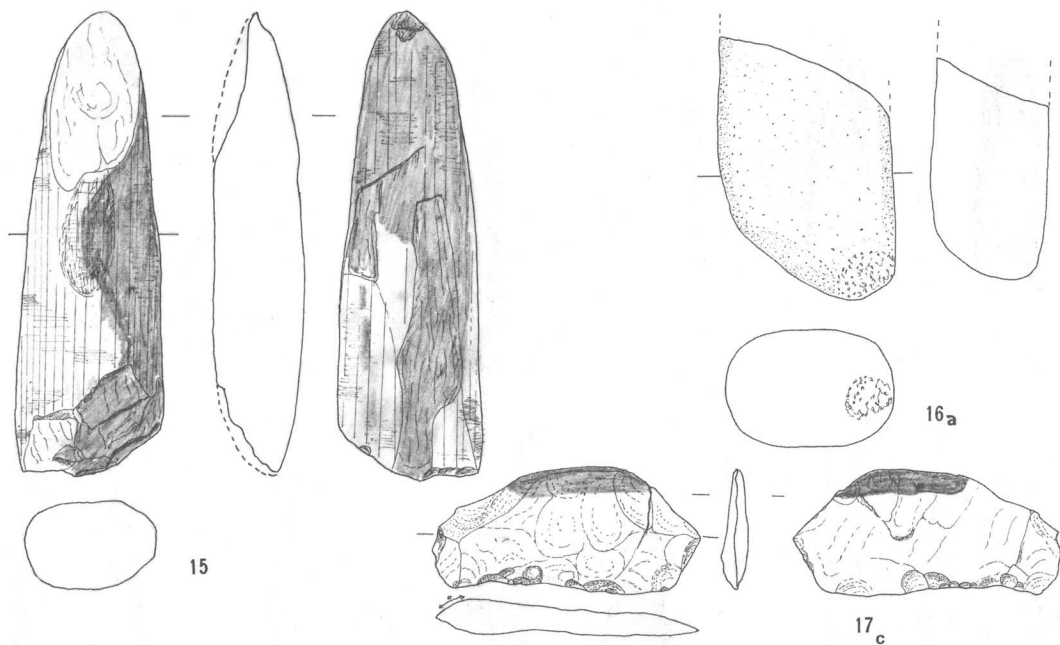
縄文を持つものはない。これらの縄文を持つ土器は曾利期の前半に共伴することが知られている。

土器の時期は曾利Ⅰ式要素もみられるが曾利Ⅱ式期に比定されるであろう。

次に石器であるがすべて床面出土で19点である。第152図中に示した住居址北西壁に12点の石器が重なって出土している。これらの石器は多い少ないは別として黒色タール状のものがぬらされている。石器実測図中黒色のぼかしのある部分が塗彩された所である。炭化物の付着とは明らかに異なっているが、何であるかははっきりしない。うるしの可能性も考えられる。1・2



第165图 第33号住居址床面出土石器 (1/3)



第166図 第33号住居址床面出土石器 (1/3)

5、7～13、15・17がその石器である。

19点の石器の内訳は打製石斧9点、磨製定角石斧6点、磨製蛤刃石斧・敲打器・横刃形石器各1点である。

1～7は打製石斧で、6の撓形を除き短冊形である。1はa類、2・3・6はb類、4はc類5・7はd類である。石質は2～4、6・7が硬砂岩、1・5は緑泥岩である。このほかに刃部を欠損した短冊形のものが2点ある。

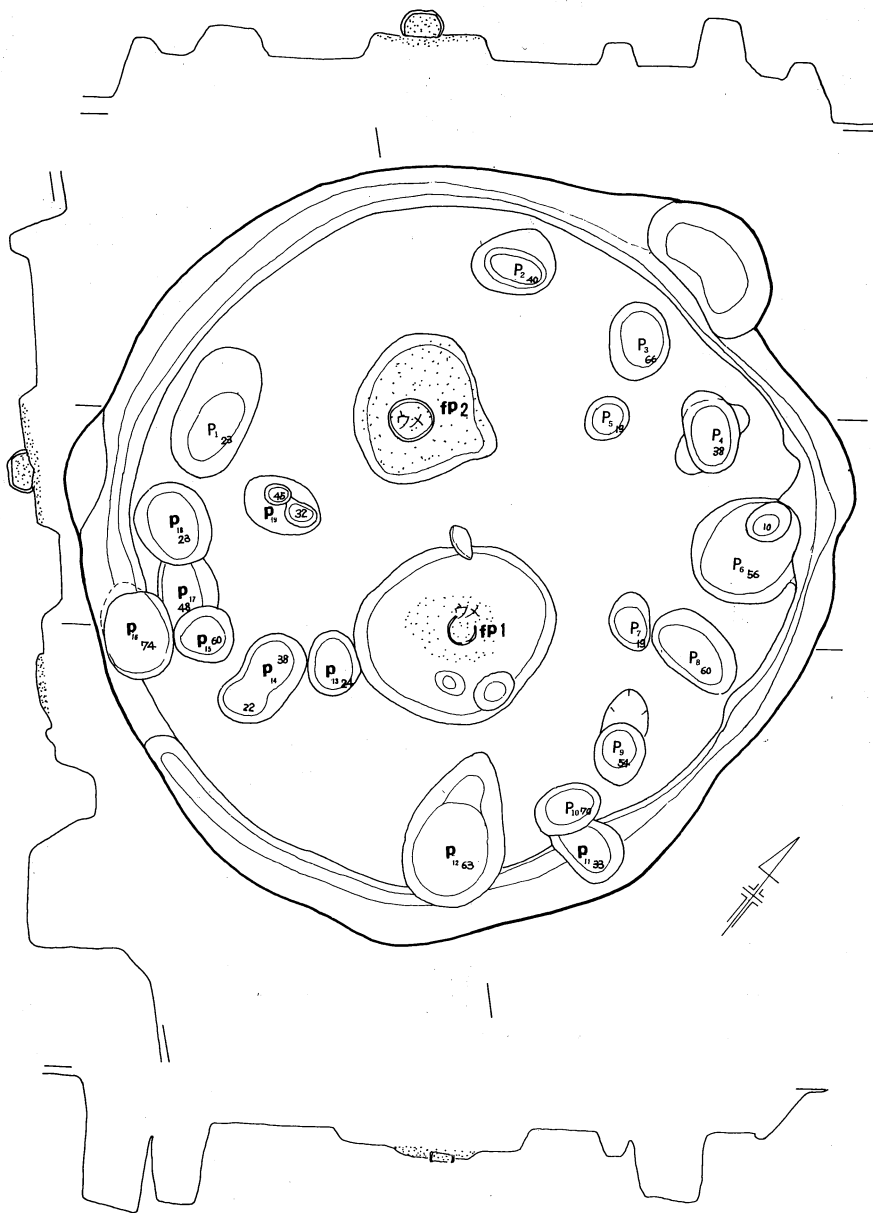
8～14は磨製の定角石斧で、石質はすべて緑泥岩である。他の住居址に比べて非常に出土量が多い。また9はやや大きいが他は小ぶりのもので14を除き先に述べたように一括出土しており興味深い。

15は緑泥岩製の磨製の蛤刃石斧で頭部と刃部の片面を損っている。

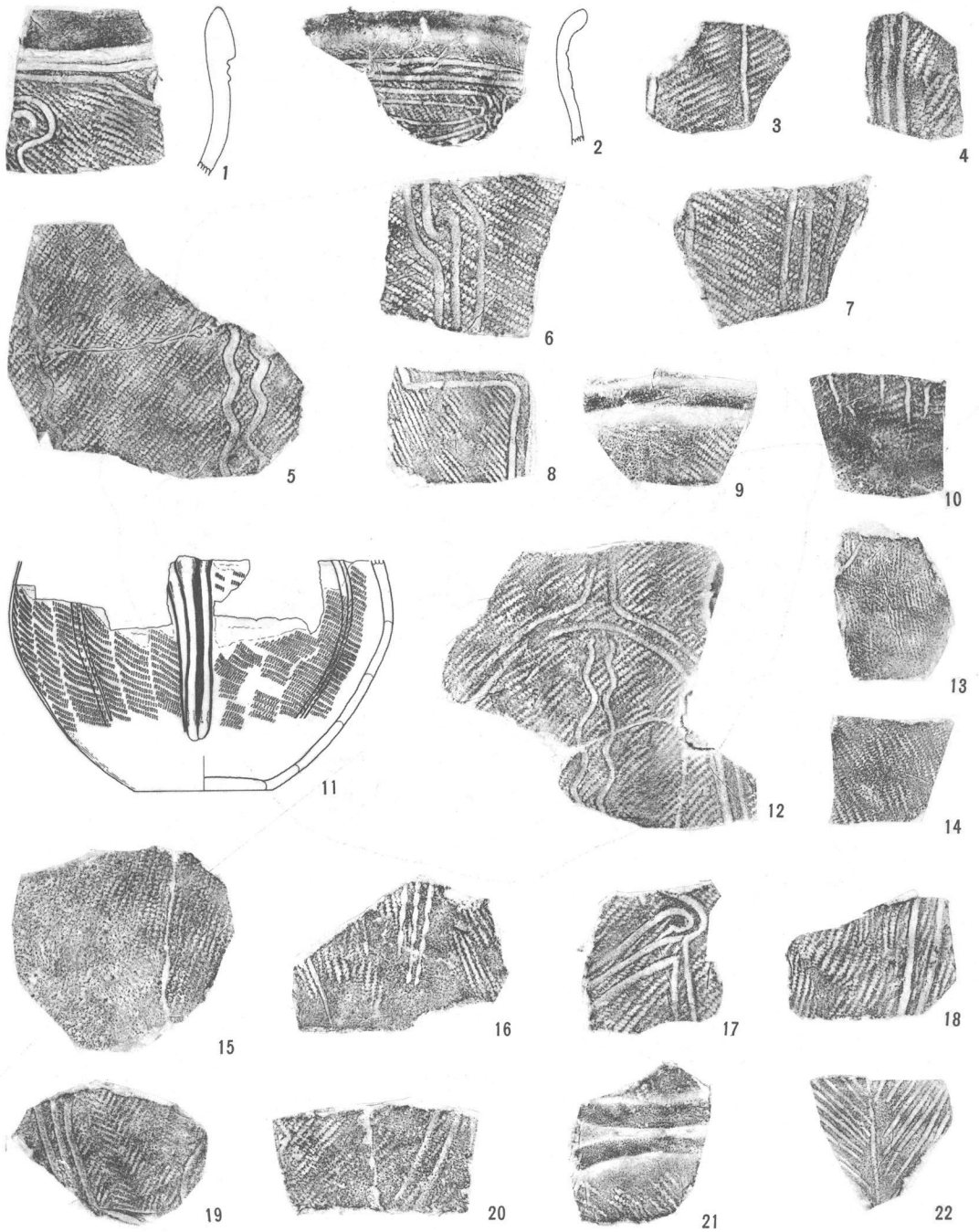
16は硬砂岩製の礫の端部を利用した敲打器a類である。

17は全く自然面を持たないc類の横刃形石器で硬砂岩製である。

硬砂岩質の剝片9片と砂岩質のもの1点が出土している。

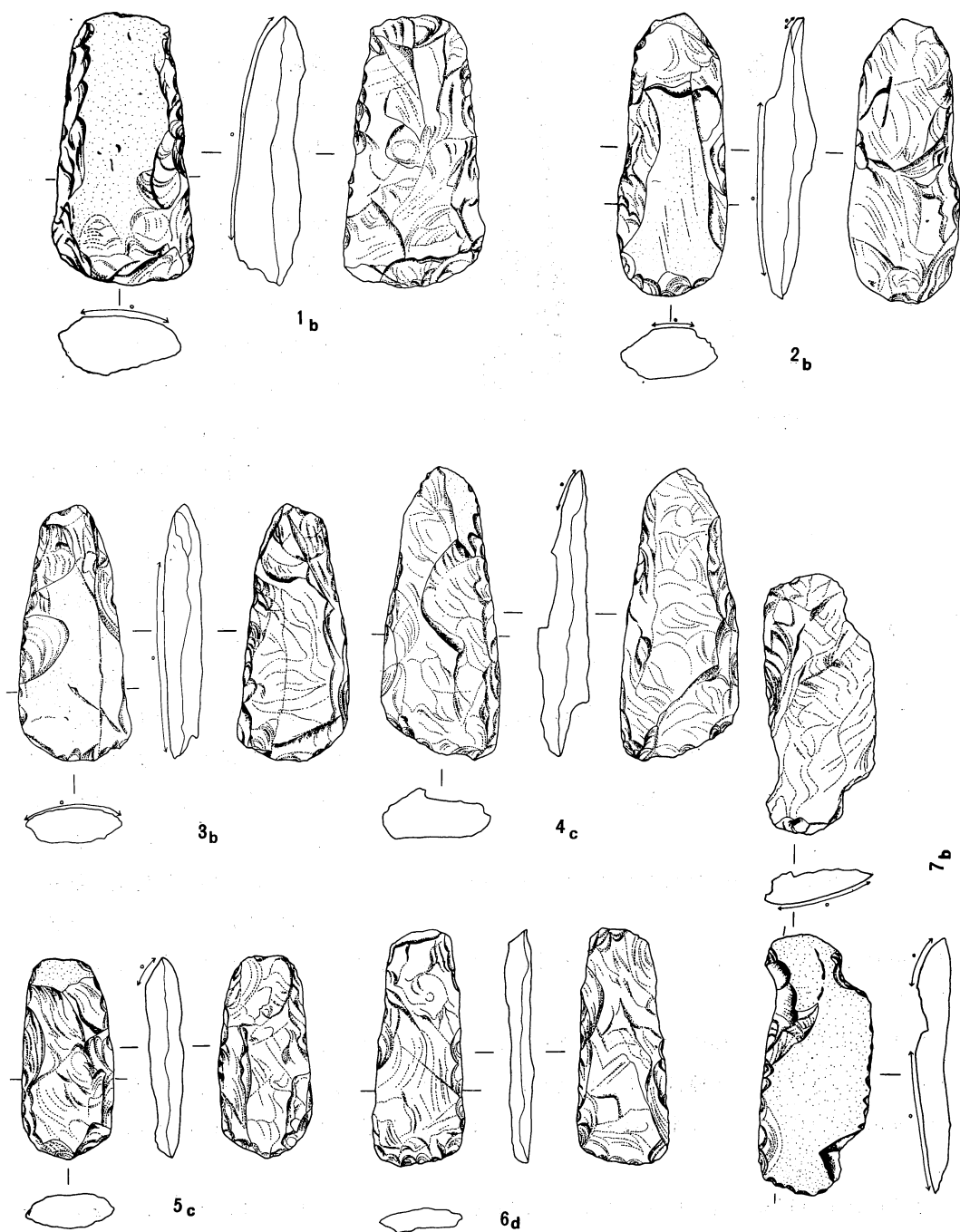


第167图 第34号住居址实测图 (S =  $\frac{1}{60}$ )



第168図 第34号住居址出土土器

(11は釜、他はき、1~10は覆土、12~22は床面出土、11は炉(2)内埋設土器)



第169图 第34号住居址床面出土石器 (1/3)

32 第34号住居址（第167～170  
図）

遺構（第167図）

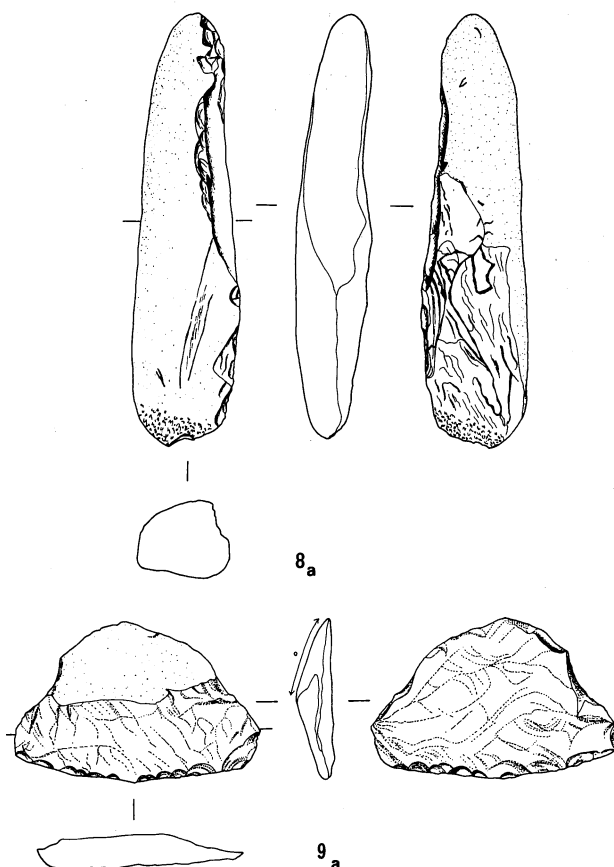
本住居址は第30号・33号住居址の東に位置し、その東側には土塚も住居址もない。南と西側は調査未区域のためはっきりしない。

平面プランは不整ながら円形を呈し、径6.1mを測る。

壁高はほぼ一定し35～40cmを測る。床面は良くたたきしめられており非常に良好である。

主柱穴は4本を基本とすると考えられ、柱の移動がみられる。

住居址中央南側に炉1（fP<sub>1</sub>）北側に炉2（fP<sub>2</sub>）との二つの炉がある。上部はどちらも覆土が充満しており、貼り床の痕跡はまったくなかった。柱の動きなどから考えるに、同時に2個の炉の存在は考えにくく、どちらが古いかはわからないが、一つの炉の存在しか考えられない。住居址の拡張あるいは建て直しによる炉の移動に



第170図 第34号住居址床面出土石器（ $\frac{1}{3}$ ）

よる所産と考えたい。炉1・2ともに石組み炉で炉石は完全に抜かれており、中央部に埋設土器を持っている。

炉1は160×140cmの楕円形に15cmほど掘られ、さらに内部が10cmほど70×50cmの楕円形に掘られている。外側の第1段は炉石のすえられていた痕跡である。中央部焼土内に深鉢形土器の胴部が埋設されていた。完全にはまわっておらず、また非常にもろいため復元実測はできなかった。

炉2は100×115cmの五角形状に20cmほど床面が掘られている。炉1同様中央部に深鉢形土器の底部（第168図-11）が埋められていた。両者の埋設土器には時間差は認められない。

遺物（第168～170図）

土器の出土量は少ない。1～10が覆土、12～22が床面出土のもので11は炉2内埋設土器であるが時間差は認め難い。

22を除き縄文を持つものであるが結節縄文はまったくみうけられない。

11は深鉢形土器の胴下半部で、隆帯による懸重文によって器面を二文し、その間を3本を一組みとする懸垂沈線によってさらに4区分している。磨り消し縄文はみられない。曾利Ⅱ式期に比定される。他の土器も同時期と思われる。

石器は13点出土し、すべて床面出土である。内訳は打製石斧10点、大形粗製石匙・敲打器・横刃形石器各1点ずつである。打製石斧は撓形に近いものもあるがすべて短冊形である。

1～6はすべて硬砂岩製の打製石斧で3・4は撓形に近いが、すべて短冊形である。1～3はb類、4・5はc類、6はd類である。図示した外に短冊形の欠損品4点がある。石質はすべて硬破岩である。

7は硬砂岩製の大型粗製石匙で刃部の一部を欠いている。横形のものでb類である。

8は緑泥岩の自然石の一端を利用した敲打器のa類で測面部を欠いている。

9は硬砂岩製の横刃形石器でa類である。

### 33 第35号住居址（第171～173図）

#### 遺構（第171・172図）

本住居址は第37号住居址の北西ほぼ9mの所にあり、縄文中期の住居址第32・第34号住居址の北東に位置している。中央部貼床下には第41号住居址がある。主軸はS-117°-Wである。

平面プランは不正ながら南壁と北壁のふくらんだ隅丸長方形である。大きさは、東壁・西壁は一辺4m、中央部で4.7mを測る。北壁は4.5m、南壁はやや長くて4.7mである。

壁高は、壁がやや低くて35cm前後、他は高くて45cm前後を測ることができる。

中央部床面は第41号住居址への貼床である。貼り床面は大体10cmほどの厚さで、ロームによるもので、わずかに凹凸はみられるが、良くたたかれ良好である。

主柱穴は4本と考えられるが、P<sub>10</sub>を除いてはやや浅く問題が残る。

竈は東壁北寄りにあり、壁を15cmほど80度の角度で挟り込んで構築している。大きさは長軸80cm、短軸50cmである。上部に自然石が4個みられた外には袖石などの特別の施設はまったくみられなかった。火床面は床面をほんのわずかにくぼめただけで、焼土は10cm堆積している。上面はローム粒と黒色土・焼土の混合土で覆われている。

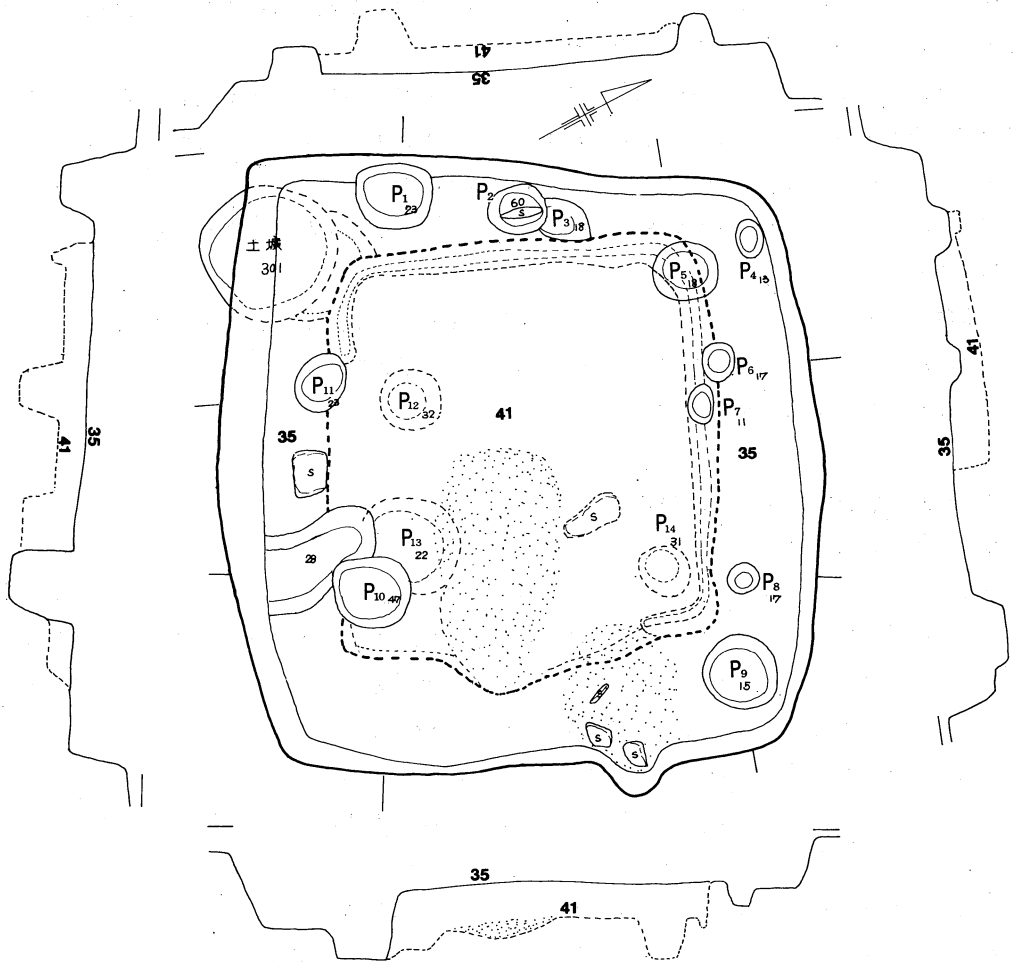
#### 遺物（第173図）

出土土器には土師器と須恵器とがあり、数量表にみるとおり出土量は少ない。須恵器は甕・高台付坏・蓋があり、土師器では甕と坏だけである。

1は土師器の小形甕の口縁部で半分ほどしかない。赤褐色を呈し、胎土中には砂粒を含んでいる。ロクロ造りで右回りのものを利用している。口唇は強く外反し、薄くなっている。胴部には幅広なロクロ痕がみられる。

2は須恵器の環形土器で口縁を欠いている。胎土に砂粒を含んで暗青色に焼かれている。底部は厚いが体部は薄くなり凹凸が激しい。ロクロの回転は左回りである。底部の切り離し技法は静糸の糸切りによると思われる、中央部は手持ちのヘラによって削られてやや上げ底風になっている。



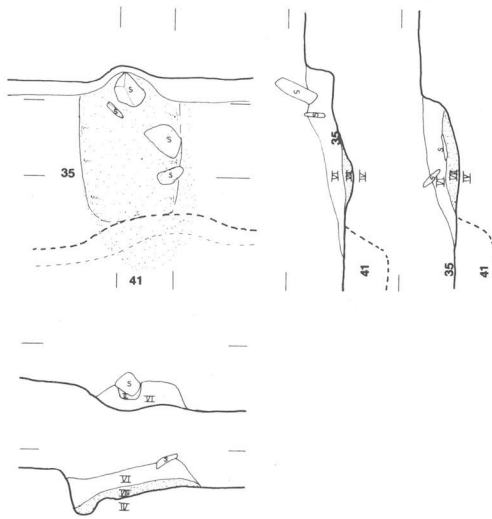


第171図 第35・41号住居址実測図 (S =  $\frac{1}{60}$ )

3 はやはり須恵器の坏である。口縁部を欠いて半分ほどからの図上復元である。器高は高いものと思われる。底部は厚く体部は薄くなっている。底部の切り離しは回転ヘラ切りによっており、その後周辺部を5～6回による手持ちヘラ削りを行っている。わずかであるが上げ底である。

4 は須恵器の高台付坏である。胎土中に砂粒を含み、黒青色に焼かれている。ロクロは右回りである。口唇は内そぎで尖り、底部は高台から急に下がっている。回転ヘラ削りののち、高台をつけ、測面は回転利用の横ナデを行っている。高台下端は丸味を持っている。

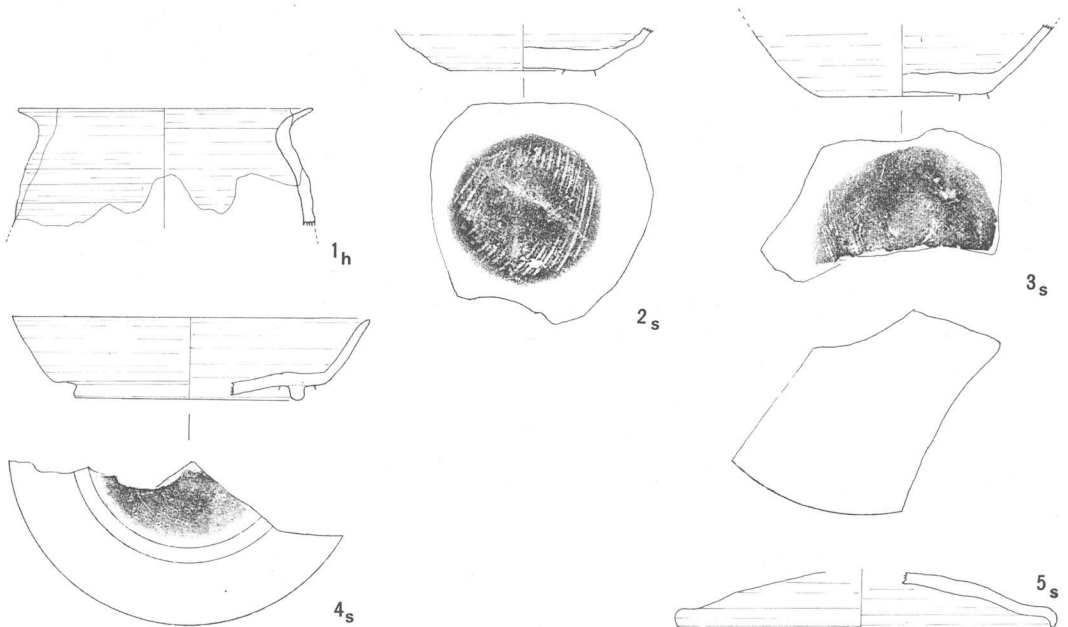
5 は器恵器の蓋である。器厚はほぼ一定し、内屈する下端を簡単に曲げて口縁としている。



第172図 第35号住居址竈実測図 (S =  $\frac{1}{40}$ )

器形	部分	土師	須恵	小計
甕	実測	1		1
	口縁	2		2
	胴部	12	1	13
	底部	3		3
坏	実測		2	2
	口縁		2	2
	体部	1	1	2
	底部	1	3	4
高台 付坏	実測		1	1
	底部		2	2
蓋	実測		1	1
	口縁		1	1
小計		20	14	34

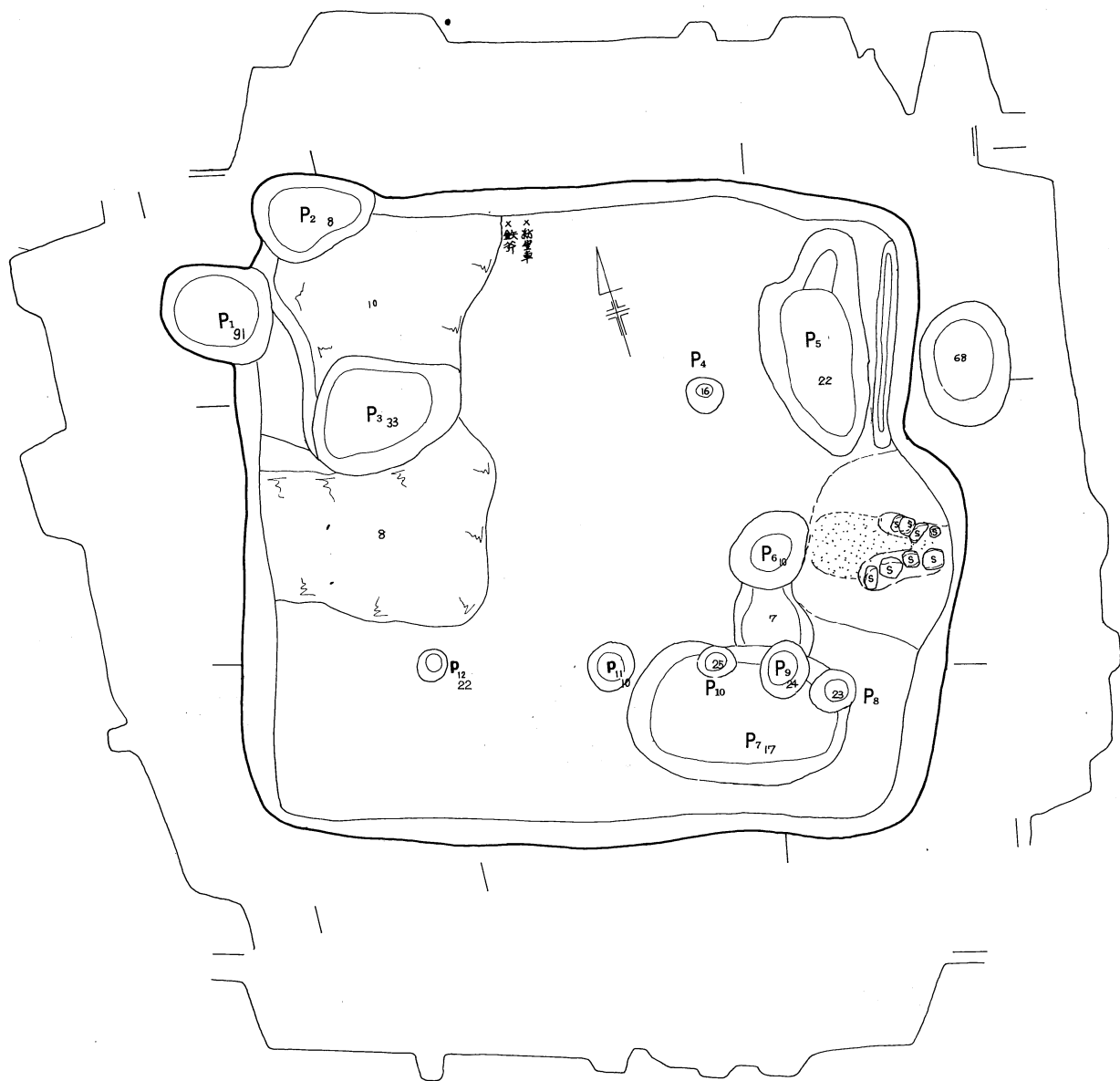
第35号住居址出土土器数量表



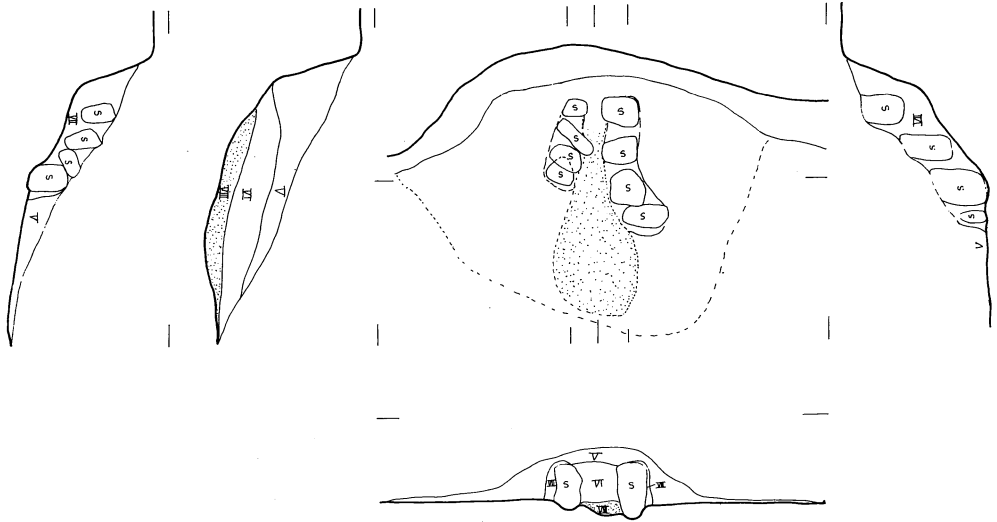
第173図 第35号住居址出土土器 ( $\frac{1}{3}$ )

ロクロは右回りである。暗青色を呈し、砂粒をわずかに含んでいる。

出土土器は奈良時代末～平安時代初頭にかけてのものと思われる。



第174図 第36号住居址実測図 (S =  $\frac{1}{60}$ )



第175図 第36号住居址竈実測図 (S =  $\frac{1}{40}$ )

### 34 第36号住居址 (第174～179図)

#### 遺構 (第174・175図)

当住居址は第37号住居址の西に隣接するものである。プランは隅丸方形を呈し、大きさは5.8×5.7mである。主軸方向S-110°-Wである。

壁高は高く60～70cmを測る。壁の立ち上がりまややゆるやかである。床面は北西部に浅い凹部があるが全体に平坦で良くたたきしめられており良好である。

支柱穴はP<sub>4</sub>、P<sub>8</sub>・P<sub>9</sub>、P<sub>12</sub>、P<sub>3</sub>の4本と考えられるが住居址の大きさ、深さに比べて柱穴が小さく浅いのが気にかかる。

竈は東壁やや南寄りにあり、壁を70cmほど35度の角度で浅鉢状に挟り込ませて構築している。現存する石組みより前方に焼土がかなりみられ、また石組みの間が狭すぎること、石組みより前面まで基底部の掘り込みがあることなどからして、燃烧部は崩落ないしは破壊され、煙道部の石組みが残ったものと考えたい。石は床面をあまりくぼめることなくロームで固めている。

北壁ぎわやや西寄り床面上より鉄斧(第179図-1)と鉄製の紡垂車(第179図-2)が出土している。

#### 遺物 (第176～179図)

遺物としては土器・須恵器類と鉄製品がある。

出土土器は数量表にみるとおり多く、須恵器が卓越している。土師器は甕を主体としている。須恵器は甕・坏が多くついで蓋となっている。灰釉陶器はまったく出土していない。

1～7は甕形土器である。破片からの図上復元によるもののみで器形を知り得るものはまったくない。

器形	部分	土師	須恵	小計
甕	実測	2	1	3
	口縁	6	1	7
	胴部	28	10	38
	底部	10 (実4)		10
坏	実測		6	6
	口縁		15	15
	体部		8	8
	底部	1	5	6
鉢	実測		1	1
高台付	実測			
	底部			
壺	口縁		3	3
台付皿	実測		1	1
蓋	実測		2	2
	口縁		10	10
	天井		9	9
小計		47	72	119

第36号住居址出土土器  
数量表

1は土師器の甕で、肩がつり上がった感じの甕で頸部の両端に段を持たせている。黄褐色を呈し、胎土中には砂粒を含んでいる。口頸部内外面とも横ナデをしている。胴部は縦方向のハケ目が内外面とも施される。

2は土師器でぶ厚く胎土に砂粒を多く含み黄褐色に焼かれている。口唇は薄く尖がる。胴はあまり張らないものである。口唇外面には横ナデが、内面には非常に疎なハケ目が施される。胴部外面には粗い縦方向のハケ目が、内面には一定しないが、横方向のハケ目が施されている。

3～6は土師器の甕形土器の底部である。3は右回りのロクロを用いたもので、底部内面には幅広なロクロ痕を残している。回転糸切技法によって切り離される。細かい砂粒を含み白黄褐色を呈している。

4・5は木ノ葉底を持つもので、ともに大きな砂粒を含み土師器の焼きとはみえない。4の内面には斜走するハケ目がみられる。5の外面には2同様粗いハケ目が縦方向に施される。

6は3～5に比べると立ち上がりやゆるやかでふくらみを持っている。紐積みの痕跡を明瞭に残して整形は悪い。内面には横方向のハケ目がみられる。

7は須恵器の甕形土器である。頸部両端に段を有し口唇はやや肥厚する。外面には叩き目、内面青海波を残している。ロクロを利用して、回転方向は不明である。

8は須恵器の鉢形土器である。高台は厚くしっかりとふんばっている。体部下端はしめが甘く肥厚している。黒青色を呈し胎土にはわずかに砂粒を含んでいる。ロクロは左回転で、回転ヘラ削りのため切り離し技法は不明である。高台を付けた後、両測面に回転利用の横ナデを行っている。

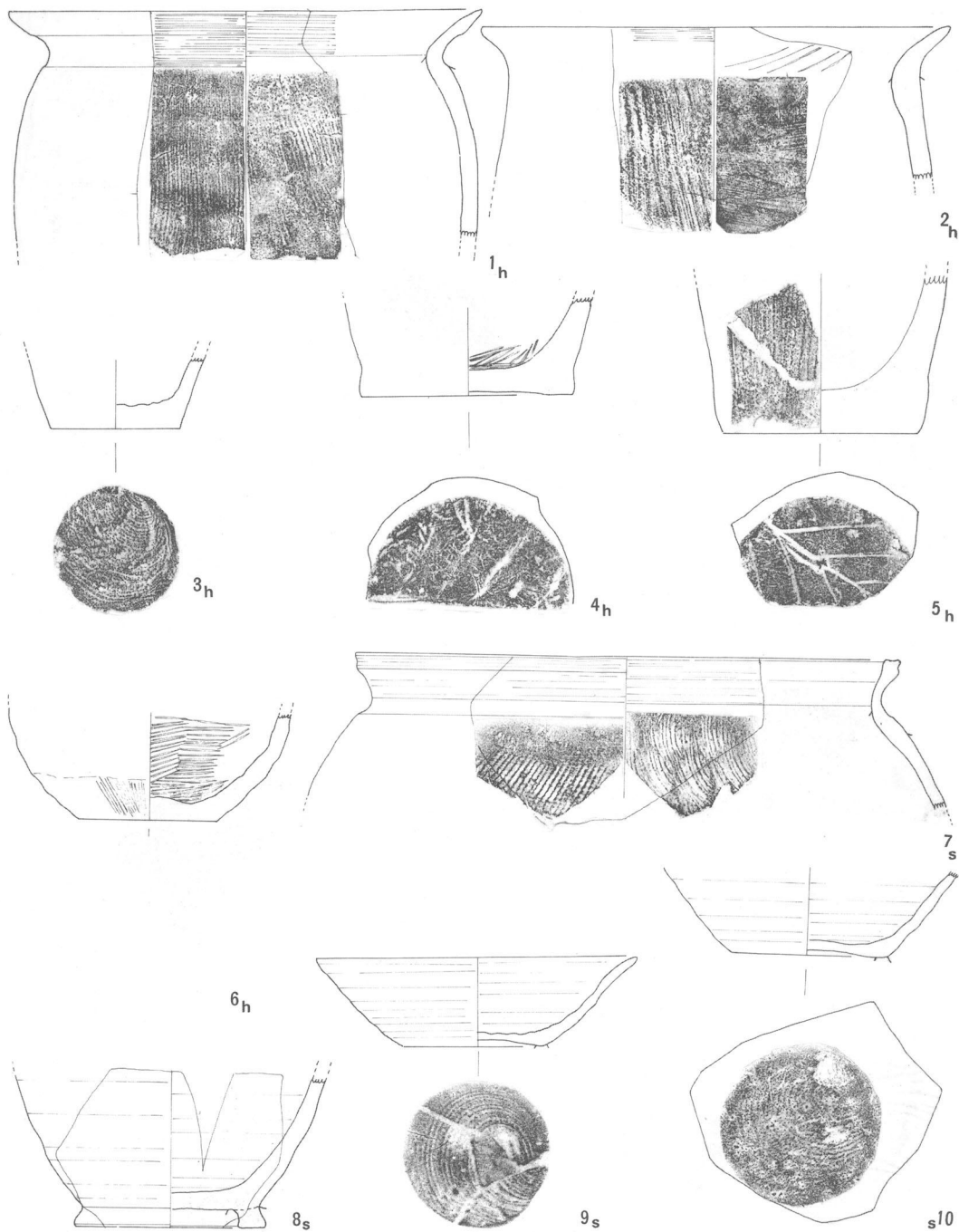
9～14はすべて須恵器の坏形土器である。9を除き完形のものはない。

9は赤褐色を呈し砂粒を含んでいる。体中央に強いしめがみられ、口唇は肥厚しやや外反ぎみである。切り離しは回転糸切り技法で、その際糸が深く入ったためか極端な上げ底となっている。底部周辺から体部下端にかけては回転ヘラ削りが行われている。ロクロは左回りである。

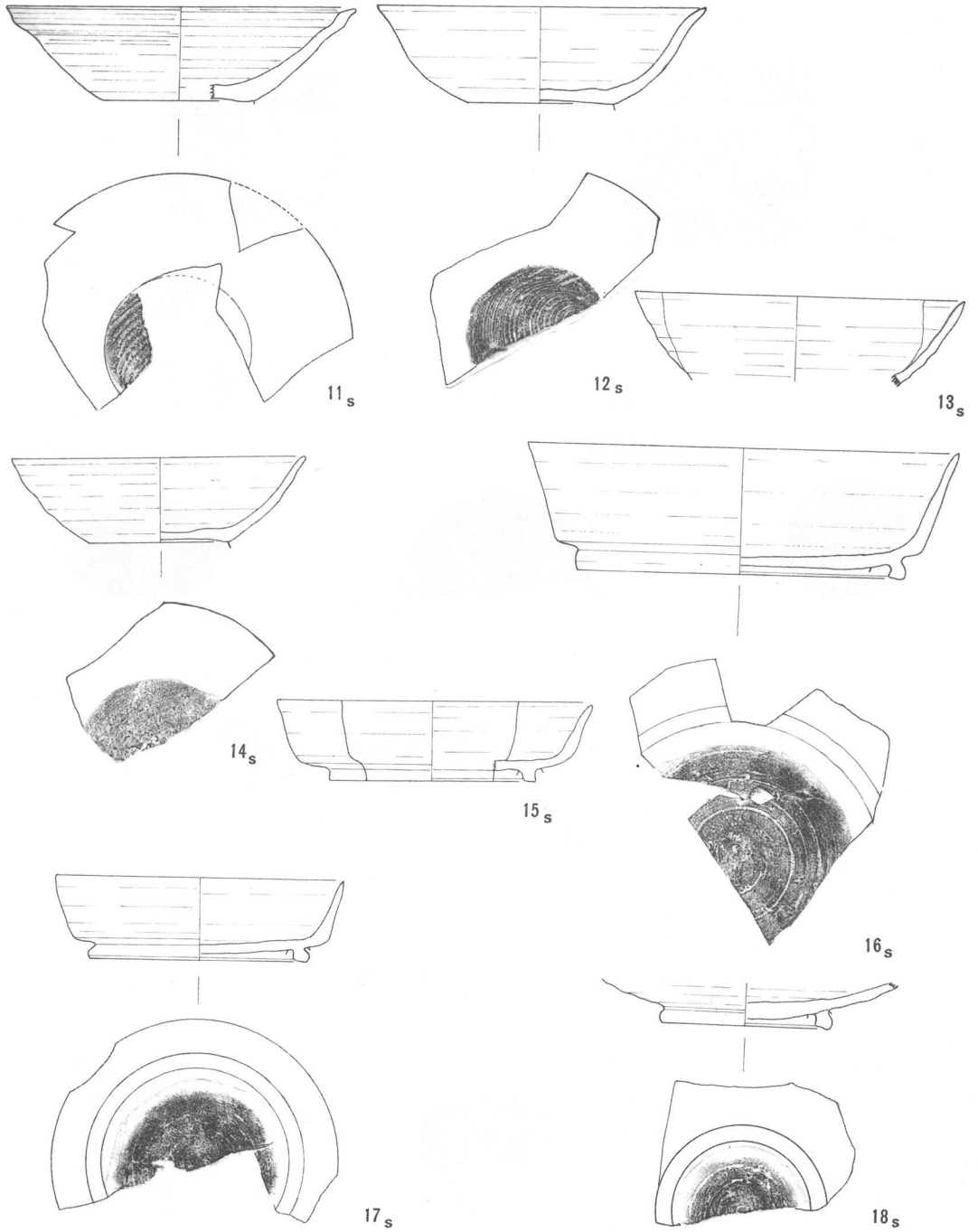
10は口縁部を欠くため定かでないが、器高の高いものである。砂粒を含み白灰色を呈している。体部は幅広なロクロ痕を残し、底部は9同様回転糸切り技法による切り離しで糸が深く入ったため上げ底となっている。底部周縁を回転のヘラで削っている。

11は底部は厚く口縁下に強いシメを行い口唇は引き出して作っている。大きな砂粒を含み、暗青色に焼かれている。右回りのロクロを用い、回転糸切り技法によって切り離される。

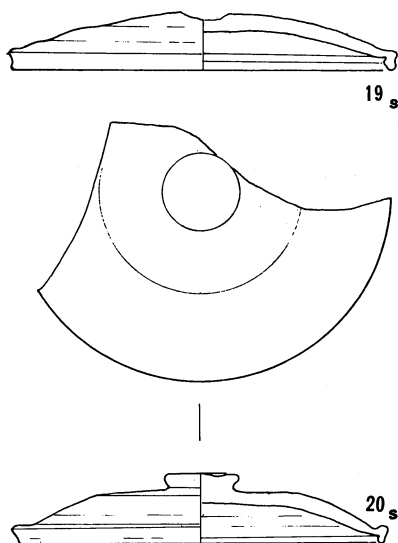
12は体部立ち上がり部が肥厚し口唇は尖って外反する。右回りのロクロを用い回転糸切り技法によって切り離される。細かい砂粒を含んで暗灰色を呈している。



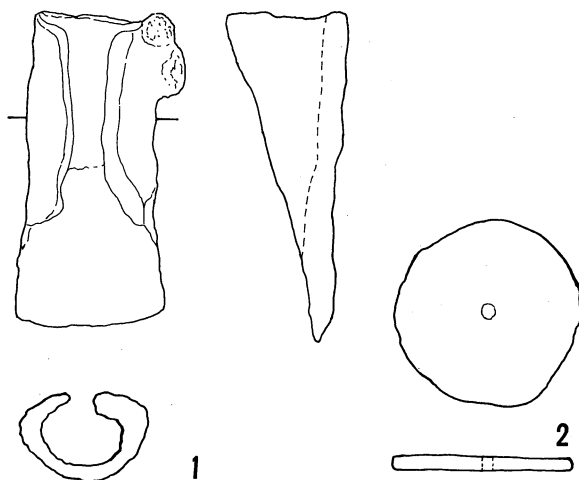
第176图 第36号住居址出土土器 (1/3)



第177図 第36号住居址出土土器 (1/3)



第178図 第36号住居址出土土器(1/3)



第179図 第36号住居址出土鉄製品(1/2)

13は体部のシメは一定し、やや内湾して口唇は尖っている。胎土はち密で赤褐色に焼かれています。ロクロの回転方向は不明である。

14は体部がゆるやかなカーブで内湾し、下端部はやや厚くなる。底部は上げ底で内面中央部も凹んでいる。右回りのロクロを用い、回転糸切り技法によって切り離され、その際糸が深く入ったため上げ底を呈している。細かい砂粒を含み暗灰色に焼かれています。

15～17は須恵器の高台付环形土器で完形品はない。

15は高台部からやや上がって体部にいたり体部の立ち上がりは内面ほどははっきりしない。口唇は薄く尖ってやや外反する。胎土はち密で暗青色を呈している。ロクロの回転方向は不明また回転ヘラ削りのため切り離し技法も不明である。高台は厚くしっかりとふんばっており、両側面には回転利用の横ナデが行われている。

16は大形のものである。体部の立ち上がりは外面では明瞭で体部はほぼ直線的である。口唇下に強いシメを行い口唇は尖っている。体部の肥厚は底部へ続き、高台部からやや中心部よりはカーブを描き中心部は平坦である。高台は厚くて内屈してしっかりとふんばっている。右回りのロクロを用い、回転ヘラ削りのため、切り離し技法は不明である。高台付け後の回転利用の横ナデは底部周縁にまで行われている。砂粒を含んで暗青色を呈している。

17は体中央部に強いシメが行われ、口唇は尖っている。体部の立ち上がりは直に近い。高台は厚く台形状を呈し、しっかりとふんばっている。底部は中心部に向かって下がっている。ロクロの回転方向は不明である。回転ヘラ削りの後、高台を付け両側面に回転利用の横ナデをしている。細かな砂粒を含み暗青色を呈している。



18は底部破片のためはつきりしないが台付の皿形土器と思われ、須恵器である。砂を含んで白灰色に焼かれている。厚い底部から徐々に薄くなり体部の立ち上がりははつきりしない。中央部はわずかに平坦となっている。高台は厚くしっかりとしている。右回りのロクロを利用して、底部は回転ヘラ削りが行われている。高台付け後両測面に回転利用の横ナデを行っている。

19は須恵器の蓋である。天井部はゆるやかなカーブで内湾し中心部は肥厚する。紐はとれており形態は不明である。砂粒を含み暗青色に焼かれている。ロクロの回転方向は不明である。

20はやはり須恵器の蓋である。天井部は中心部からやや下るまでほぼ平らで、下端にかけてはゆるやかなカーブで内湾する。口縁は直立し立ち上がり部は外屈する。左回りのロクロを用い、鈕付後は両測面に横ナデを施している。砂粒を含み暗灰色を呈している。

先に述べたように土器の外に鉄製の斧と紡錘車がある。

第179図-1は斧である。刃部は柄部よりほんのわずかに広がる。大きさは長さ8.2cm、刃部幅4.0cmである。刃部は直線ではなくやや丸味を持っている。片刃である。表面はさびが著しいが芯はしっかりとしている。重量は113gである。

2は紡錘車である。大きさは径4.9cm、厚さ0.4cmである。中心の孔の大きさは3mmを測る。斧同様さびは著しいが芯はしっかりとしている。重量は29gである。

住居の時代は出土土器から奈良時代のものと思われる。

### 35 第37号住居址（第180～183図）

#### 遺構（第180・181図）

本住居址は第36号住居址の東にあり、第39号住居址は北東10mの所にある。プランは隅丸方形で大きさは東西4.0m、南北4.1mを測る。火災にあった住居址で、焼土と炭化物が厚く堆積している。炭化物は現形をとどめるものは少なく竈の前方部から上屋材の一部がはつきりと出土しただけである。

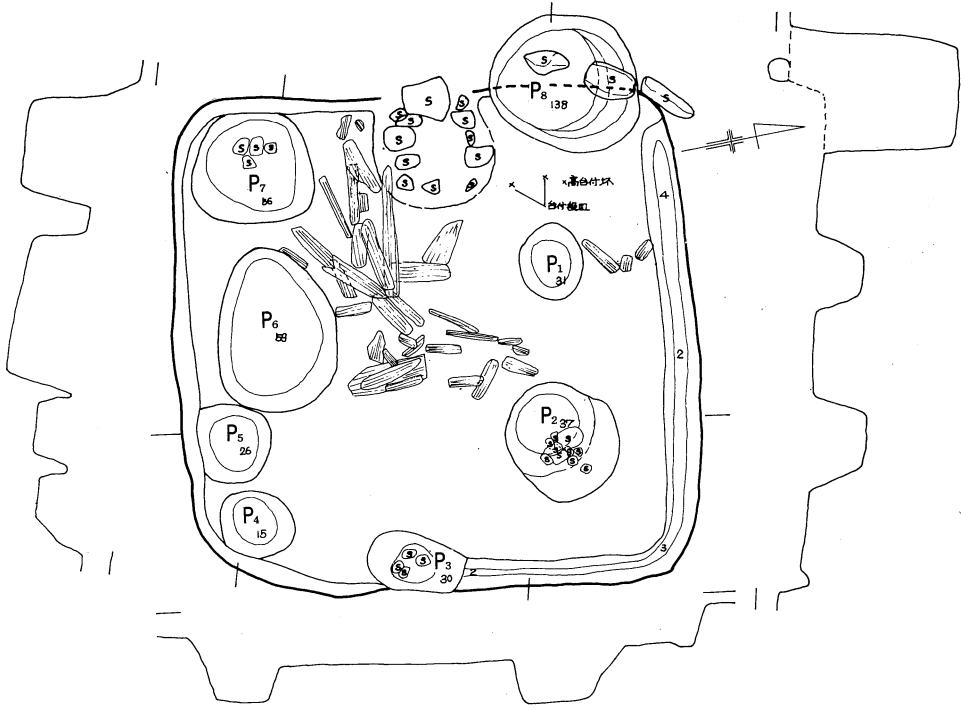
壁高は北壁と西壁が高く30～35cm、南壁、東壁は15～20cmである。床面はやや凹凸があるが全体に固くたたきしめられ良好である。北壁から東壁P<sub>3</sub>まで幅20～25cmの浅い周溝がめぐらされている。住居址の主軸方向はS-81°-Eである。

主柱穴としてP<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は確実であるが他ははつきりしない。P<sub>2</sub>・P<sub>3</sub>・P<sub>7</sub>とも上部に石がのっていた。

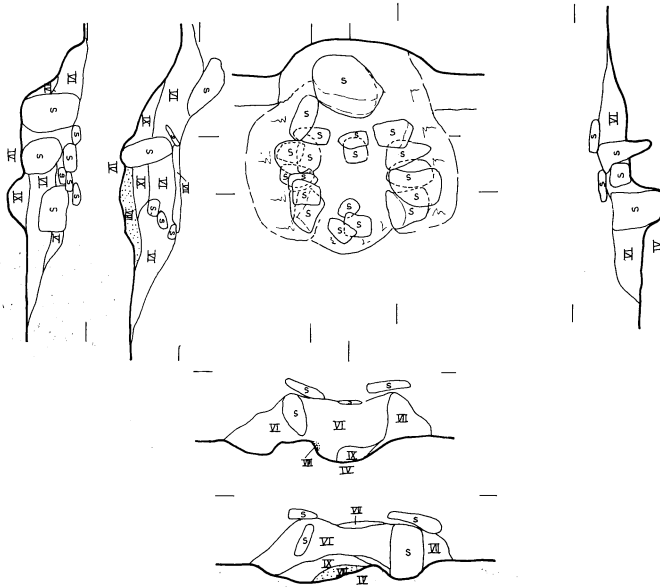
竈は西壁ほぼ中央にあり、壁を20cmほど25度の角度で抉り煙道部を作っている。石心造りである。火床面の掘り込みは深い方である。

袖部は大きな石を使って組みその上部に平盤な石をのせている。袖石の固めには左側は黒色土とローム粒、焼土の混合土、右側はロームを用いている。燃焼部中央やや奥まって支石がある。焼土はその支石の手前まで堆積している。

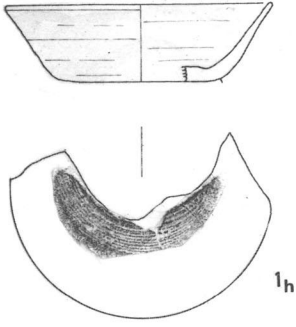
竈の北側床面より図示する如く灰釉の台付段皿2個と土師器の高台付坏1個が出土している。



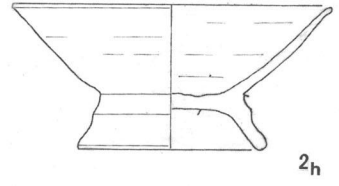
第180图 第37号住居址実測図 (S =  $\frac{1}{60}$ )



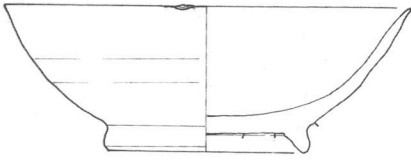
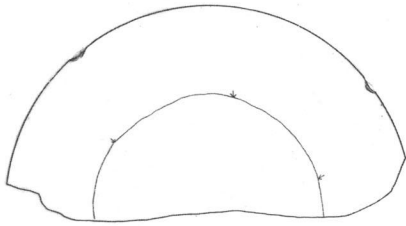
第181图 第37号住居址竈実測図 (S =  $\frac{1}{40}$ )



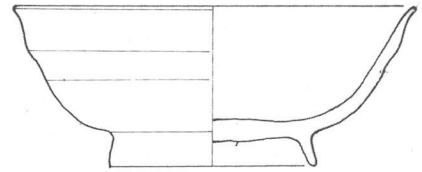
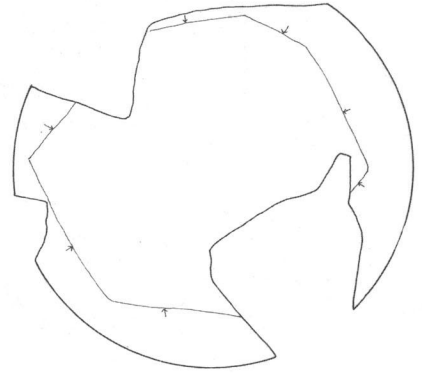
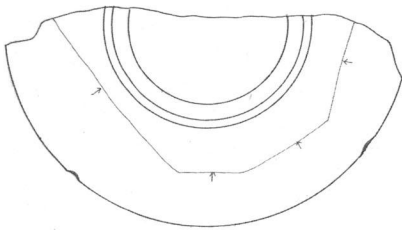
1h



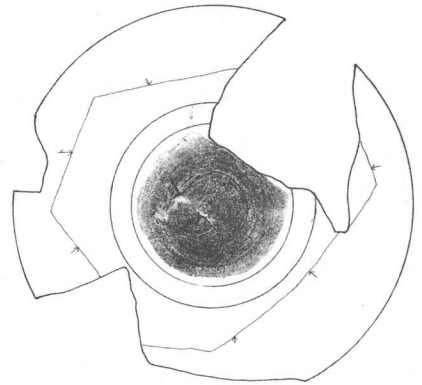
2h



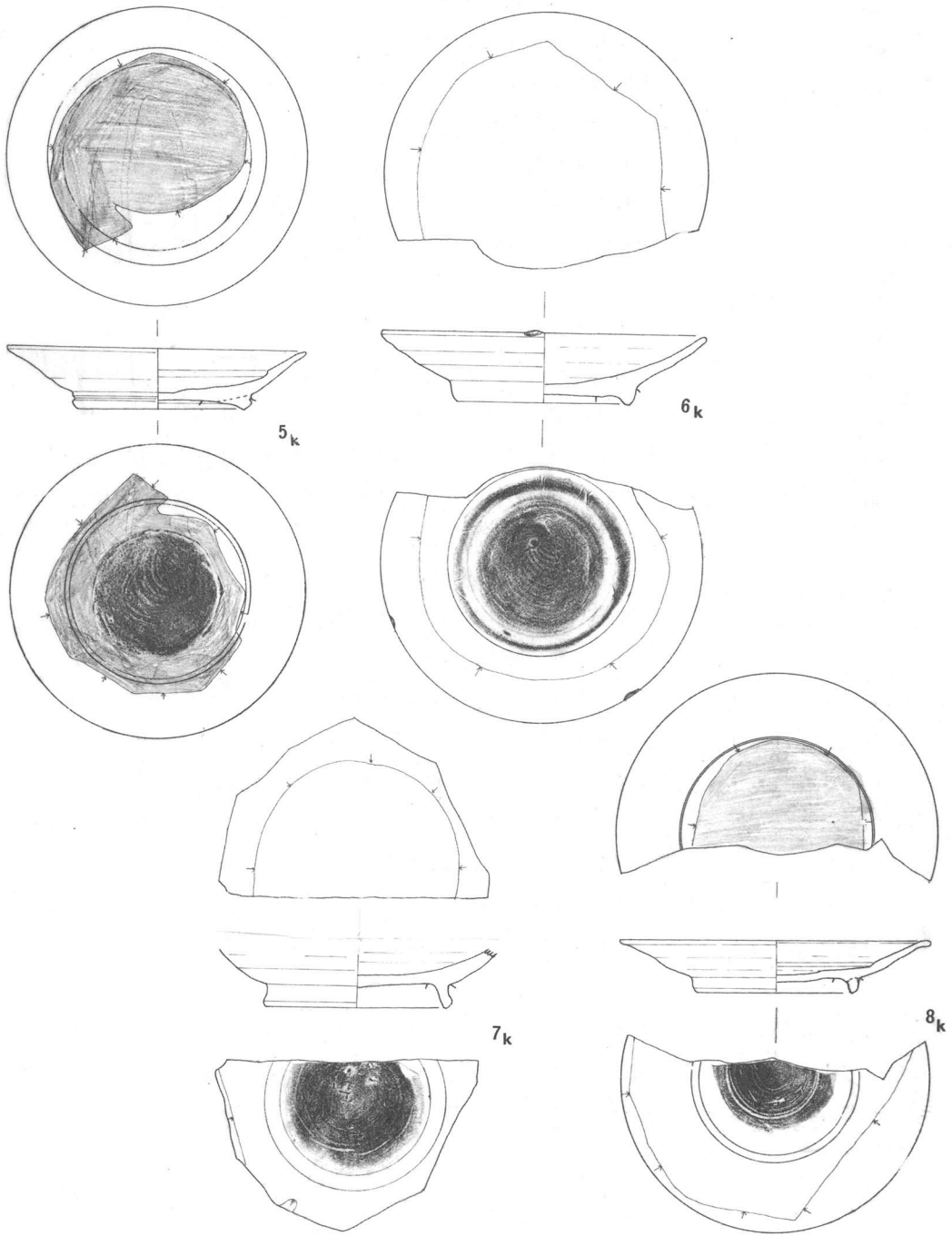
3k



4k



第182図 第37号住居址出土土器 (1/3)



第183図 第37号住居址出土土器 (1/3)

器形	部分	土師	須恵	灰釉	小計
甕	口縁	1			1
	胴部		4		4
環	実測	1			1
	口縁	1	1		2
	底部	1			1
高台付環	実測	1			1
	底部	1	4		5
碗	実測			2	2
	体部			1	1
台付皿	実測			2	2
	底部			1	1
台付段皿	実測			2	2
壺	口縁			2	2
小計		6	9	10	25

第37号住居址出土土器  
数量表

底部は回転糸切り技法によって切り離された後、周縁部を手持ちのヘラで削っている。高台は逆三角形で高く外反して外面に丸味を持たせている。高台側面部には回転利用の横ナデが行われている。陶土は白色に近くあまりち密でない。釉は白色で内面は淡緑色の班文がみられる。永田窯産である。

4は体部の立ち上がりが強くなる碗である。口唇下に強いシメを行って引き出して口唇を作りやや外反する。高台は薄く高い。底部は回転糸切りによって切り離され後、周縁部を回転ヘラ削りで調整している。高台付け後両側面には回転利用の横ナデが行われる。陶土は白色に近く釉も白色である。

5は台付の段皿である。口唇はやや外反している。底部中央には凹みがみられる。回転糸切りによって底部は切り離される。高台は外側に溝と稜を持ち内面はゆるやかなカーブで底部にいたっている。高台接合時の陶土が底部周辺まで及んでいるため底部調整は不明である。陶土は白色に近いもので、釉は白灰色を呈している。釉のかからない部分は内外面とも黒ずんでいる。

6は台付輪花皿である。肥厚する立ち上がり部からわずかに体部は内湾し口唇は丸い。高台は低く外面は直に近く内面はゆるやかなカーブを描く。高台接合時の陶土が底部周縁にまで及んでいる。庭部の切り離しは回転糸切り技法によって行われている。陶土は黄白色で釉は白色を呈している。

7は台付の皿で口縁は欠いている。体部下端は肥厚しやや内湾する。高台は薄くて高い。外

### 遺物（第182・183図）

出土土器は数量表でみる限り少なく感じるが、完形品に近いものがあることからすると多い方かも知れない。土師器・須恵器・灰釉陶器が出土しているが完形に近いものは灰釉陶器に多く卓越していることがわかる。

1は土師器の環である。体部の立ち上がりははっきりとせず、口唇下に強いシメが加えられる。右回りのロクロを用い、回転糸切り技法で切り離している。砂粒をわずかに含み黒褐色を呈している。

2は土師器の台付環である。器高があり碗に近いものである。体部はわずかに内湾し、口唇下に強いシメがみられる。口唇は薄く外面に陵をもつ。高台は高く外反している。ロクロは右回りのものを利用している。高台貼付時に粘土が底部中央部まで達しており、切り離し技法・底部調整は不明である。高台側面部には回転利用の横ナデが行われている。

3～8はすべて灰釉陶器である。

3は高台付輪花碗である。底部から体部下端は厚く除々に器厚は薄くなり口唇下に強いシメを行って口唇を引き出している。

面に陵を作っている。底部は回転ヘラ切り技法によって切り離され、その後周縁を回転のヘラ削りで調整している。陶土は白色で釉も白色を呈し、ところどころに淡緑色の班文がある。

8は台付の段皿である。体中央部やや下ったところで陵をもたせ口唇は水平にのびている。段上部から口唇にかけては内面をややふくらませている。底部はわずかであるが、段を作っている。高台は直に近く外面に陵を持っている。底部の切り離しは回転ヘラ削りのため不明である。陶土は灰白色を呈し釉は白色である。外面には淡緑色の班文がみられる。内面釉のかからない部分はすす状のものによって黒ずんでいる。

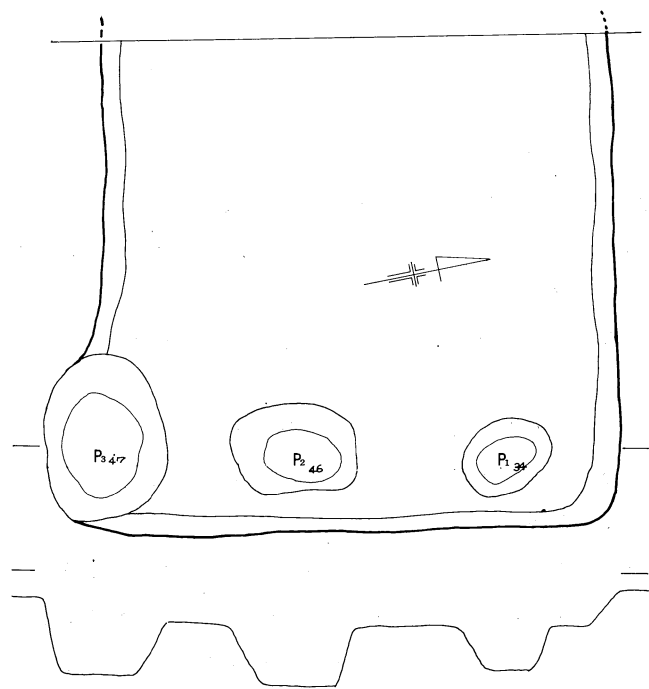
これらの灰釉陶器は折戸53号窯期に位置づけられるところから住居址は平安時代後期のものである。

### 36 第39号住居址 (第184・185図)

#### 遺構 (第184図)

当住居址は第19号住居址の北西に位置する。西壁が攪乱のため破壊されているため、プランは定かでないが、ほぼ隅丸方形を呈すと思われる。大きさは南北4mである。

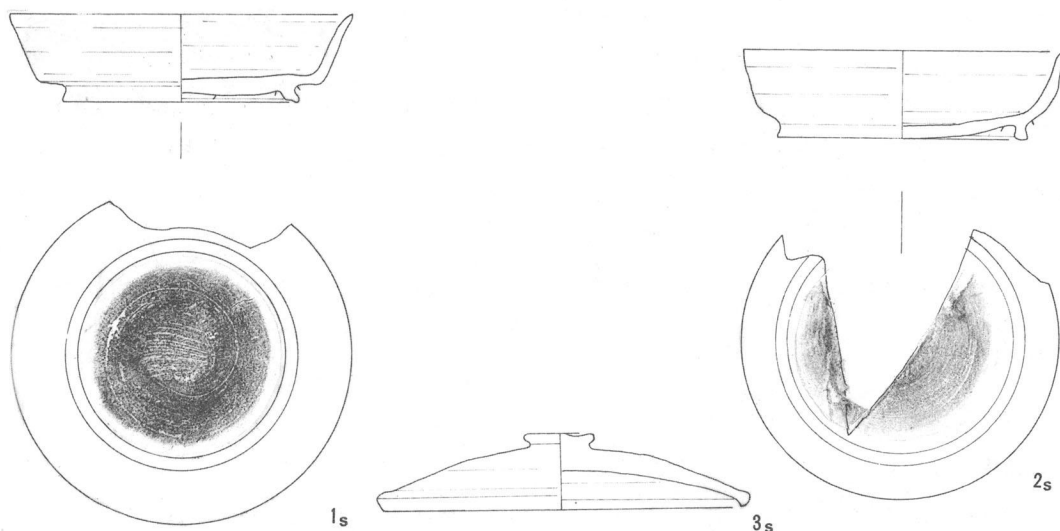
壁の立ち上がりは全体にゆるやかで壁高は北側で25cm、南側で20cm前後を測る。床面は平坦で固く良くたたきしめられている。東壁に沿ってピットが三つみられる。P<sub>1</sub>は柱穴として良い



第184図 第39号住居址実測図 (S = 1/50)

器形	部分	土師	須恵	小計
甕	口縁	1	1	2
	胴部	9	3	12
	底部	3		3
坏	口縁		1	1
	胴部		2	2
	底部		3	3
高台付坏	実測		2	2
	底部		3	3
蓋	実測			
	口縁 天井部			
		13	15	28

第39号住居址出土土器数量表



第185図 第39号住居址出土土器（ $\frac{1}{3}$ ）

だろう。

竈は確認されていない。西壁にあったものが壊されたと考えられる。それから考えると住居址の主軸方向はS-80°-Eである。

#### 遺物（第185図）

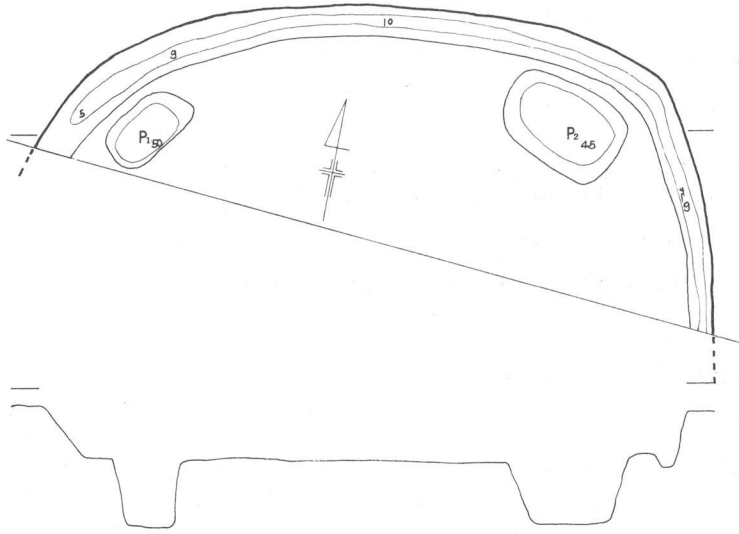
出土土器数量にみるとおり土器はあまり多くない。土師器は甕形土器のみである。灰釉陶器はまったく出土していない。

1は口縁部をわずかに欠く高台付坏である。砂粒を含み黒青色に焼かれている。底部は厚く体部はほぼ一定の器厚をもって口唇はやや外反し、内そぎ状に尖っている。高台は厚く強く外反している。ロクロは右回りで回転糸切り技法によって切り離される。その後回転ヘラ削りを行うが中央部が凹むため削り切っていない。高台付け後両測面に回転利用の横ナデを行っている。

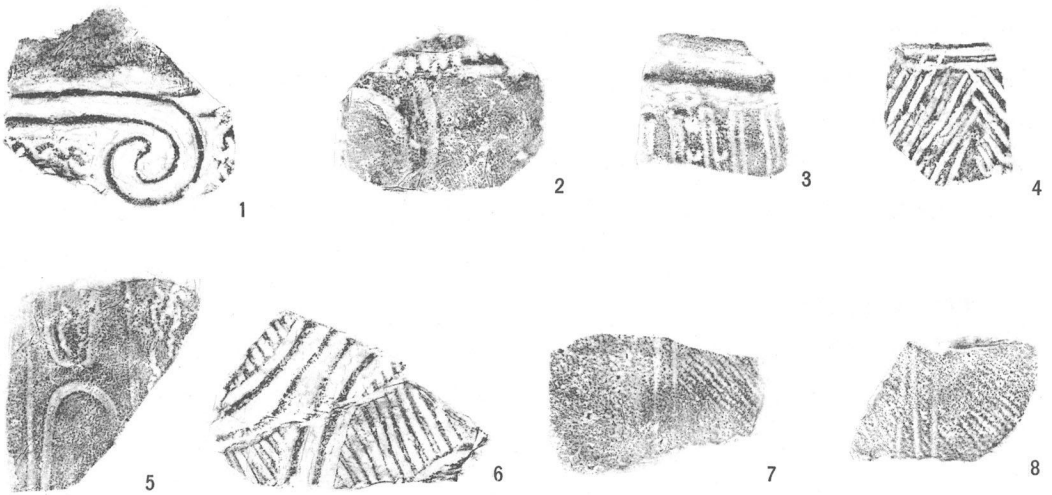
2はやはり高台付坏である。体部の立ち上がりははっきりせず口縁はほぼ直に立っている。底部は極端な下げ底である。底部は回転ヘラ削りが施されている。高台付け後両測面に回転利用の横ナデを行っている。胎土はち密で赤褐色を呈している。

3は須恵器の蓋である。中心部は厚く口縁へ行くに従い薄くなっている。天井部はゆるやかなカーブで内湾し、口縁は簡単な作りである。鈕は低く内部に凹みを持っている。天井部中心から中位にかけては明瞭なヘラ削り痕がみられる。鈕貼付後脇を回転を利用して横ナデしている。砂粒を含み黒青色を呈している。ロクロは左回りである。

出土土器が少ないが住居址の時期は奈良時代末から平安時代初頭にかけてのものと思われる。



第186図 第40号住居址実測図 (S =  $\frac{1}{60}$ )



第187図 第40号住居址床面出土土器 ( $\frac{1}{3}$ )

### 37 第40号住居址 (第186・187図)

#### 遺構 (第186図)

当住居址は第16号住居址の南西にあり北側の一部を調査しただけのもので、プラン・大きさとも不明である。



壁高は35～40cmで、立ち上がりは西側では非常にゆるやかとなっている。調査内の床面は固く良くたたきしめられており良好である。P1・P2は主柱穴と考えられる。幅25cmほどの周溝が西で一担切れるがまわっている。深さはほぼ一定している。

炉は未調査部分にあると思われる。

#### 遺物（第187図）

調査面積が狭いため、遺物も極端に少ない。石器の出土はない。2・5は結節縄文を持つもので、他の土器より後出するものであろう。

土器が少なく住居址の時期は決め難いが、曾利Ⅱ期～Ⅲ期に比定されるであろう。

### 38 第41号住居址（第171図）

#### 遺構（第171図）

本住居址は第35号住居址の貼床下に発見されたもので、一軒の住居址が完全に貼り床されることは珍しいことがある。

プランは隅丸方形で、大きさは3.2×3.1mと小形のものである。

第35号住居址との床面差は25cm前後である。床面はほぼ平らで固く良好である。南壁西側より西・北壁東壁北側まで周溝がめぐらされる。

主柱穴はP12・P13・P14が考えられ北西部に確認されていないが4本を基本とすると考えられる。

竈は東壁やや南寄りあり、壁を20cmほど抉っている。袖部など特別の施設はまったくみられない。基底は80×50cmの楕円形に掘りくぼめられている。第35号住居址構築のさい壊された可能性が強い。

#### 遺物

出土土器数量表にみる通り土器は少なく、すべて破片である。

器形	部分	土師	須恵	小計
甕	口縁	2		2
	胴部	3		3
	底部	2		2
坏	口縁		1	1
蓋	口縁		1	1
小計		7	2	9

第41号住居址出土土器数量表

### 39 第42・43号住居址

この両住居址は第29号住居址の南東にあり、落ち込みはなく部分的に固い面が補えられただけのものでまた大半は調査できずに終わっており、プラン・規模等はまったく不明である。

（以上、気賀沢進）

### 第3節 土塚と遺物

原垣外遺跡の発掘により発見された土塚は住居址内、住居址に接する、住居址周域、単独に分類でき、総数 325か所である。このうち、土塚No.6, 166, 168, 321, 323, 324は、番号の入り乱れにより欠番とした。「土塚」という未だ性格付けの明らかでない遺構を整理・操作・研究することは、なかなか難しい問題と言える。端的に分析視点を抽出するならば、「土塚」と「土塚(形態、埋没状態、出土遺物等の総合的意味での遺構として)」、「土塚」と「住居址」「土塚」と「住居址に伴う補完的遺構(柱穴址等)」という相関関係(時空間関係)の中から、ある規律・規則性を見出し、それが集落の構成の中で、生産域に位置づけられるのか、埋葬域に位置づけられるのか、祭祀域に位置づけられるのか等を検証し、再度「集落」とは何かを地域的時空間の位相の上で究明することが考えられるのである。

この視点に基づいて「土塚」を分類、分析することは、本遺跡の場合「土塚」の検出場所が一定の域に集中してはいるものの多くの不明確な問題を含んでいるので、まとめまでは及ばないと思いますが、問題提起として抽出したいと考えます。

本発掘調査で検出された土塚は、300余りという多くの数で、必ずしも十分な観察と記録ができなかったことは、いなめないことではありますが、ここでは先述の視点を少しでも満足させる為に、次に挙げる方法と記述に基づき分析します。

1. 検出された土塚をその検出場所により、住居址内・住居址に接する・住居址周域・単独のものに分類した。
2. 特に、土塚の性格が他のものと異なると考えられるNo.84, 88, 96, 97は、後で詳細に扱うものとする。
3. 土塚番号は、検出順序に従って、付加したものである。
4. 平面形は、円形・楕円形・隅丸三角形・ひし形・隅丸方形・卵形・不整形など分類したが、円形は長径と短径の差が10cm以下のもの、楕円形は10cmを越え20cm以内のものという基準を用い、そのほかの平面形や特に大きいものや小さいものは、この基準によらない。なお、平面形は開口部の平面形を示し、床面の平面形は、先の記述と基準による。
5. 断面形は、スリ鉢状・タライ状・皿状・半円状に分類した。
6. 壁は外傾するもの、内傾するもの、垂直に近いものにと分類し、垂直に近いものは「直壁」と表現した。
7. 床は、丸底と平底に分類し、丸底の中に、壁の立ちあがり部が丸いものも含めた。
8. 口径・底径は、両方ともに直角に交わる最大値で示し、深さは、土塚が検出された面のうち低い開口部より床面までの計測値である。口径・底径・深さは、図面から再計測したものである。
9. 土塚の中の小さな穴は、「小穴」と表現した。
10. 配石を伴うものは、その検出場所により「開口部」「床面」「堆積土中」(多くは、黒褐色土中である)と表現した。

11. 土壇と土坑、土壇と住居址の相互の切合状態を、「—>—」（「～が～を切る」）で表現した。

12. 出土遺物である土器及び石器は、図版番号を載せ、図版のないものは、出土土器の「比定型式名」を載せた。

## 1 土坑一覧表

### 住居址内より検出された土坑

挿図	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合	
	188	2	8住内炉東側	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	220×164	198×140	28	2	堆積土中	曾利Ⅱ式、(石)206-1,2	2≥8住炉
			壁も床も堅く良好。8住内の炉を吸収する形で、東側床面には径52cm×30cmと壁に径42cm×44cmの小穴が2個ある。配石は、中央寄りにすべて焼けてはいないが炉石の可能性もある。出土した土器は深鉢形の破片が多く文様は縄文地に渦文をほりつけたものや条線を施したものが多く、												
	188	3	9住内西壁	楕円形	タライ状	外壁	楕円形	平底	154×124	126×118	64		堆積土中	曾利Ⅲ式、(土)198-3-5	3>9住
			壁も床も堅く良好。9住の西壁を切る形で、土器と配石が堆積土中に埋っており、西壁よりなだれ込んだ状態で遺存。出土土器は深鉢形のものが多く、隆帯の渦文に縄文を施したものと結節縄文をつけたものが多く曾利Ⅲ式に比定できる。												
	189	44	11住内北壁	楕円形	タライ状	外傾	円形	平底	120×103	94×87	40		床面	曾利Ⅱ式、(石)207-11	44>11住
			壁、床とも堅く良好。11住の壁は一部しかはつきりしないが北壁を切るものである。配石は床面中央寄りにあり、2個が南北に並ぶ。出土土器は、口縁部より菱形の条線文がつくものや無文の深鉢口縁、耳状突起をもつものがあがり、地は縄文と条線が多い。横刃石器1点。												
	189	46	11住内炉北西	円形	タライ状	外傾	円形	平底	152×146	132×128	42			曾利Ⅲ式、(土)199-22,23	無
			壁、床とも堅く良好。床は傾斜している。出土土器は、縄文地が多く隆帯懸垂文や結節縄文が施されている。												
	189	66	12住内北東壁	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	160×143	144×122	70	1			
			壁も床も堅く良好。小穴は北東寄りに1個あり、径61cm×38cm深さ34cmである。出土遺物は無いが12住と同時期のものと思われる。												
	192	178	24住内中央	五角形	スリ鉢状	外傾	下整形	平底	126×118	90×72	43			(土)203-64	
			壁も床も堅く良好。24住の前の西側にあり、覆土中より曾利Ⅲ式比定の土器が出土しているが、縄文期の土壇ではなく、平安期のものである。貼床はなされていないので後で掘られたものかもしれない。なお、本土壇は179に接する。出土遺物はない。												
	192	179	24住内北東	不整形	スリ鉢状	外傾	下整形	平底	112×83	95×63	30				
			壁も床も堅く良好。土壇178同様、24住の北側にあり、貼床はなく出土遺物はない。												
	192	181	18住内北東	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	151×145	127×122	100			曾利Ⅱ式	181>18住
			壁・床ともに堅く良好。18住の北東壁を切る形で、深さは土壇の中で深い方に属す。斜縄文、懸垂文、渦文を主体にした土器が多い。												
	192	183	15住内炉西北	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	71×(56)	45×(36)	31				184>183
			壁、床とも堅く良好。15住の炉の下にある形で、層序は焼土、貼床、堆積土の順であり、遺物は検出されていない。貼床の上に炉石がある。おそらく炉の拡張等に伴い貼床されたものであろう。西側半分は、土壇184に切られている。												
	192	184	15住内炉西北	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	108×99	81×74	109				184>183
			壁、床とも堅く良好。183同様、15住の炉西北にあり、かなり深いものである。出土遺物はなく時期は明らかでないが、15住に伴うものであろう。												
	193	189	32住内炉西	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	92×84	72×64	57		開口部、床上		
			32住の炉のすぐ西にあり、配石を床上堆積土中の開口部にもつ。壁・床ともに良好。開口部の配石は2枚が重なるように置かれ、その上に土器がかぶさる状態で遺存。土壇内の出土遺物はない。												
	193	190	32住内南東	三角形	スリ鉢状	外傾	三角形	平底	100×71	84×53	22	1		曾利Ⅰ式	
			壁、床ともに堅く良好。床に小穴あり。径24cm×18cm深さ41cmで、その北西に小さな自然石が1つすえられていた。出土遺物は、竹管による連続刺突文や平行な線文を隆帯の両側につけたものが見られる。又、爪形の突起に粘土ひもを貼り付けたものもある。												
	193	191	32住内炉南西	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	77×70	53×44	52		堆積土中		
			壁、床ともに堅く良好。土壇中央の堆積土中より配石が検出された。出土遺物はない。190同様、32住との時期的関係は明らかでない。												
	193	192	32住内南東	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	122×108	100×62	76				192>194
			192が194を切った形で、192が194につつま込まれた状態である。出土遺物はない。												
	193	193	32住内南	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	126×63	102×40	32			曾利Ⅱ式、(土)204-71	
			壁はやや軟弱であり、床もすこし軟かい。197が西に接する。出土土器は、隆帯をつけその間に結節縄文を縦転したものや条線をつけたものが多く、又、加曾利Ⅱ式に比定される土器(深鉢口縁に渦文と斜縄文がある)も多い。												
	193	194	32住内東	不整形	タライ状	外傾	不整形	平底	282×163	256×139	21	3			192>194
			壁も床も堅く良好。192が本土壇の中に切り込んでいる状態で、小穴は南北一列に3つあり、径34cm×31cm深さ20cm、径36cm×34cm深さ11cm、径28cm×22cm深さ26cmである。出土遺物はない。												
	193	195	32住内西	五角形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	96×88	72×72	43				
			壁、床ともに堅く良好であるが、北東壁にピットが造られている。出土遺物はない。												
	193	196	30住内北壁	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	114×111	79×68	70	1	床面		
			壁も床も堅く良好。東南壁に径18cm×8cmの小穴がある。床面には、平らな厚さ8cmの自然石が置かれていた。出土遺物はない。壁が全周に2段となっている。												
	192	198	34住内北壁	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	118×70	76×37	57				198>34住
			34住の北壁を切る。壁、床ともに堅く良好。壁に沿って掘られた土壇と思われ、土壇の南側が周溝に規制されている感じが強い。出土遺物はない。												
	193	200	14住内南東壁	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	116×95	92×74	48		床面		200>201,202
			壁も床も堅く良好。本土壇が201,202を切っている。床面は一面に配石がされておるが、石はみな自然石で焼けてはいない。出土遺物はない。												
	193	201	14住内南東壁	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	160×100	125×64	32				

挿図	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
(193)	(201)													
		14住内南東壁	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	150×112	134×88	33				
193	202													
		壁・床ともに堅く良好。土壌200, 201に切られている。出土遺物はない。												
		14住内北壁	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	93×73	62×46	55				203>14住
193	203													
		壁・床ともに堅く良好。14住の北壁を切り壁中央部にある。出土遺物はない。												
		14住内北東側	三角形	タライ状	外傾	三角形	平底	187×138	157×103	33				
193	204													
		壁・床ともに堅く良好。14住の北側にあり、平面的には大きなものである。出土遺物はないが14住に伴うものであろう。												
		14住内南西側	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	60×39	41×20	20				
194	206													
		本土城は、14住の柱穴として再確認され、土壌の扱いはしない。												
		14住内南西側	三角形	タライ状	外傾	三角形	平底	180×118	154×81	44				208>209
194	208													
		14住内にあり、209, 213, 214とともに、貼床されている。壁も床も堅く良好である。出土遺物はないが、14住を造る時に貼床されたものであろう。												
		14住内南西隅	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	(130)×80	(108)×56	31				
194	209													
		208同様、貼床をされている。壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
		14住内中央	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	三角形	平底	96×100	79×73	55				213>208, 214
194	213													
		14住内で貼床され、壁も床も堅く良好である。208, 214を本土城が切っている。出土遺物はない。												
		14住内中央	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	(112)×98	(87)×67	48				
194	214													
		壁も床も堅く良好。貼床されている。出土遺物はない。												
		14住内南西壁	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	146×105	122×80	109				211>212
194	212													
		14住の南西壁を切る形で、211が212の中に入り込んだ状態である。出土遺物はなく、14住に伴うかどうかは明らかでないが、おそらく貼床等がないことから14住に付くものかもしれない。												
		20住内南西	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	185×130	156×103	37	1			
195	284													
		20住の南西に位置する。壁・床ともに堅く、底はやや中心に向い傾斜している。東壁に小穴をもち、径77cm×70cm深さ12cmを測る。出土遺物はない。												
		28住内中央	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	120×102	87×82	40				271>28, 29住
197	271													
		28住の床面を造る時、貼床された土城である。壁も床も堅く良好である。出土遺物はない。												
		28住内南西壁	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	119×113	92×78	47				272>28, 29住
197	272													
		271同様、28住を造る時貼床させたものである。壁も床も堅く良好である。出土遺物はない。												
		28住内南東壁	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	111×80	90×62	63				269>28, 29住
196	269													
		271, 272同様、28住を造る時に貼床されたものである。壁も床も堅く良好である。床は傾斜している。出土遺物はない。貼床の厚さは、271, 272, 269ともに3~5cmを測り、その下には黒褐色土が埋められている。												
		43住内南	不整形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	143×100	102×63	85	1			
197	287													
		壁も床も堅く良好。土城内南寄に小穴、径14cm×14cmがある。北側と西側に切る状態でピットが2個ある。出土遺物はない。												
		13住内南西	三角形	スリ鉢状	外傾	三角形	平底	134×107	110×85	37	1		(石)213-45	
197	290													
		壁も床も堅く良好。土城内南東寄に小穴、径70cm×68cmがあるが、これは13住の柱穴である。出土土器はない。石器は、短冊形の打製石斧が1点。												
		13住内南東寄	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	102×79	86×65	62				306>13住
196	306													
		壁も床も堅く良好。土城が、土城を切って重複して造られた状態である。北東壁に切られた柱穴がある。出土遺物はない。												
		13住内北西壁	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	148×111	117×77					307>13住
197	307													
		13住の北西壁を切る状態である。壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
		42住内北東	五角形	スリ鉢状	外傾	五角形	平底	138×115	111×91	64			曾利Ⅲ式	
194	325													
		壁も床も堅く良好。出土土器は、懸垂文をつけその間に菱杉条線文や条線をつけたものが少量検出。												

### 住居址に接して検出された土城

挿図	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
189	40	11住東壁	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	160×160	126×138	92	1	床面	(土)199-18, 19(石)208-8, 7	
		明らかに11住東壁に接するとは観察できなかったがその可能性が現存する少しの壁の延長線に接するようであり強い。北西壁に小穴、径34cm×32cm深さ62cmがある。土城の堆積状態は、上層より暗褐色土(ローム粒、炭化物含む)が33cm~43cm、ロームブロックが14cm~15cm、焼土が5cm~9cm、炭化物が10cm~12cm、ロームブロックが8cm~10cm、焼土が7cmの順に堆積していた。床面上の焼土の中より土器(第198図-18, 19)、石器(第206図-13, 14)が出土した。暗褐色土を除く下層の5層は、真中の炭化物層をはさんでローム層・焼土層の順である。壁・床ともに堅く良好。石皿と大粗石匙各1点ずつ。												
		13住東壁	不整形	皿状	外傾	不整形	平底	304×280	287×266	77			(土)203-56	105, 107>106
191	106													
		壁・床ともに堅く良好。本土城は、土城の中で最大のものである。105, 107によって切られている。出土土器は曾利Ⅲ式に比定されるもので無文地に洗線による懸垂文や蛇行文が多く、又結節縄文や楕円文も多い。												
		13住北東壁	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	94×69	76×49	22				
191	107													
		本土城が13住北東壁と土城106を切っている。壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
		15住北壁	円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	80×70	47×32	40			堆積土中	
191	129													
		接すると言うよりは、北壁を切る状態である。配石と言えるかは疑問であるが、堆積土中に小さな礫が埋っていた。												
		14住北西壁	五角形	皿状	外傾	五角形	平底	92×82	77×66	11				
193	207													
		壁はやや軟弱であり、床は堅く良好。又北壁沿いに2段の壁となっている。出土遺物はないが、流入の曾利Ⅲ式土器片と土器・須恵(青海波)器片が少量、礫土土層より出た。												
		14住南西壁	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	92×78	64×52	98				
194	210													
		壁・床ともに堅く良好。14住の南西壁を本土城が切る形である。出土遺物はない。												

挿図	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
194	211	14住西壁	不整形円形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	106×92	72×62	109				211>212
		土城212の中に掘り下げられたものである。壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
194	230	40住東壁	(円形)	皿状	外傾	(円形)	平底	(160×156)	(132×130)	5				
		40住に接するが東側半分が井水路の存在によって壊われている。半分の壁と床は堅く良好。出土遺物はない。												
193	239	19住東壁	不整形円形	スリ鉢状	外傾	(不整形円形)	平底	100×82	( )	48	2			
		19住の東壁に接し、壁はやや軟弱。床は小穴、径38cm×29cm深さ24cm、径28cm×23cm深さ16cmがありはっきりしない。出土遺物はない。												
196	255	29住東南壁	楕円形	皿状	外傾	楕円形	平底	190×145	175×129	24		開口部、床面	井戸尻Ⅲ~曾利初(土204-74)	302>255
		壁・床ともに堅く良好。配石が床面と開口部にあり、開口部の配石のそばには焼土が検出された。曾利初期の土器が検出された。												
190	293	19住北壁	不整形円形	スリ鉢状	外傾	不整形円形	〔平底〕	(100)×84	(76)×70	55				19住>293
		19住北壁に本土城が切られた形である。南側半分は欠けている。壁・床とも堅く良好。出土遺物はない。床は、傾斜し、やや丸味を帯びている。												
197	296	19住北東壁	不整形円形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	120×108	63×70	20	3			
		19住北東壁に接し、壁は堅いが、床はやや軟弱である。床面に小穴があるが、木の根かもしれない。出土遺物はない。												
197	301	35住南壁	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	106×103	87×81	91				
		35住は41住に貼床をして造った住居であり、本土城がどちらに付くかはっきりしない為、一応35住内として扱って、ここで記載することとした。壁床ともに堅く良好。出土遺物はない。本土城には、貼床が無い上に、出土遺物も検出されないで、不明な点が多い。												
196	302	29住東南壁	不整形円形	スリ鉢状	外傾	不整形円形	平底	100×83	73×56	32		床面	(土)205-75	302>255
		29住東南壁に接し、土城255を切る。床面に配石が1つあり、又、開口部東南側に土器が出土した。壁・床ともに堅く良好。												
196	322	15住北西壁	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	90×60	70×42	63				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												

### 住居址周域より検出された土城

挿図	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
188	1	9住西域	円形	タライ状	外傾	円形	平底	94×84	70×60	24		開口部	(土)198-1,2 (石)207-1,2	
		配石址1として観察されたが、配石を伴う土城ということで、土城とした。壁・床ともに堅く良好。土城の開口部をふきぐくのように自然石が配石されている。石は焼けてはいない。石器は、敲打器、凹石、各1点ずつ。												
188	4	9住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	丸底	94×76	62×52	104		開口部		4>8
		壁・床ともに堅く良好。配石が南東壁開口部にある。出土遺物はない。												
188	5	10住北域	楕円形	タライ状	直壁	楕円形	平底	150×128	126×102	82			堆積土中 (土)198-6	
		壁・床ともに堅く良好。配石が土城中央堆積土中より検出。又、その南東に焼土が、4~5cmの厚さで検出。出土土器には、加曾利EⅡ~Ⅲ式比定土器も多い。												
188	6	10住西域	( )	( )	( )	( )	( )							
		頭初、土城6を単一のものとして扱ったが土城11に吸収される形であるので、特別に取上げない。出土土器はない。												
188	7	9住北域	楕円形	タライ状	外傾	円形	平底	176×148	116×116	60			(土)198-7	
		単独的な土城の要素を、その位置から見ると持っているが周域のものとして扱った。壁・床とも堅く良好。												
188	8	9住西域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	丸底	96×(94)	78×(76)	22			(土)199-8	4>8
		壁・床ともに堅く良好。堆積土中より土器(第198図-8)が出土している。土城に切られ、北西壁が欠けている。												
188	9	11住東域	不整形円形	タライ状	外傾	不整形円形	平底	106×88	88×62	14			(土)199-9	9>18
		壁も床も堅く良好。床面より土器(第198図-9)が出土。土城18の北壁を本土城が切っている。												
188	10	10住北域	円形	スリ鉢状	直壁	楕円形	平底	92×82	70×58	84				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。土城5と隣り合う。												
188	11	10住西域	楕円形	皿状	外傾	楕円形	平底	254×190	232×154	10			曾利Ⅲ式	
		壁も床もやや軟弱。土城6を吸収した形であり、周囲の土城22, 23, 30, 31, 65と接する。出土土器はない。												
188	12	9住北域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	40×26	22×14	26			(土)198-10, 11	
		壁も床も堅く良好。小さな土城で13に接近している。出土土器は稜杉文や渦巻文を施したものとや結節縄文を施したもので、曾利Ⅱ~Ⅲ式比定できる。												
188	13	9住北域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	52×46	31×30	30				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
188	14	11住北域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	46×41	22×22	38				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
188	15	11住北域	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	丸底	87×70	70×46	34				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
188	16	11住北域	不整形円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	88×62	22×22	58			曾利Ⅲ式	
		壁はやや軟弱で床は堅く良好。2段の壁となっている。出土土器は、加曾利EⅡ式系の影響を受けたと思われる懸垂文と斜縄文を施したものが多い。												
188	17	11住北域	楕円形	スリ鉢状	直壁	楕円形	平底	88×76	64×60	68		開口部		17>20
		壁も床も堅く良好。配石を西側開口部にもつ。出土遺物なし。												
188	18	11住東域	円形	スリ鉢状	直壁	隅丸方形	平底	86×88	62×58	90				18>19

棟号	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
(188)	(18)	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
188	19	11住東域	不整形形	スリ鉢状	外傾	不整形形	平底	92×78	62×62	63				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
188	20	11住北域	不整形形	クライ状	外傾	不整形形	平底	98×78	74×56	32			(土)199-12	
		壁も床も堅く良好。出土土器は、渦巻文や斜縄文を施したものが多く。(曾利Ⅱ~Ⅲ式)												
188	21	11住北域	楕円形	クライ状	外傾	楕円形	平底	104×80	76×50	32			(土)199-13	
		壁も床も堅く良好。出土土器は、粘土紐による渦巻文や区画文、縄文をつけたものが多く。(曾利Ⅱ~Ⅲ式)												
188	22	10住西域	円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	80×84	42×58	84			(土)199-14	22>11
		壁も床も堅く良好。土城11(土城6含む)を切る。出土土器は、曾利Ⅱ式に比定されるもの一区画の中に竹管による刺突文、口縁部に鼻状突起のつくもの等が多い。												
188	23	10住西域	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	100×90	58×57	102				
		壁も床も堅く良好。土城22に東壁が接する。出土遺物はない。												
188	24	11住北域	不整形形	皿状	外傾	不整形形	平底	150×86	124×63	18				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
188	25	11住北域	楕円形	クライ状	外傾	楕円形	丸底	148×125	105×82	34				20>25
		壁も床も堅く良好。土城20にやや切られる形である。出土遺物はない。												
188	26	11住北域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	98×62	58×41	38				
		壁も床も堅く良好。土城48と南壁が接する。出土遺物はない。												
188	27	11住北域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	70×84	70×64	46			(石)207-3	27>38
		壁も床も堅く良好。南壁に焼土が6~7cmの厚さで検出された。又、土城28と西壁が接し38を切る。出土土器はない。石器は、打製石斧1点のみ。												
188	28	11住北域	長方形	直壁	直壁	長方形	平底	98×63	73×45	70			曾利Ⅲ式	28>38
		壁も床も堅く良好。出土土器は、口縁部無文帯に横走沈線や区画を施すものが多い。												
188	29	11住東域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	86×70	48×44	74				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
188	30	10住西域	楕円形	スリ鉢状	直壁	楕円形	平底	110×105	90×95	90				31>30
		壁も床も堅く良好。土城31に切られる。出土遺物はない。												
188	31	10住西域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	110×96	85×75	110		床面	(石)208-4	31>30, 65
		壁も床も堅く良好。配石が床面中央にあり、石皿の上にかぶさって遺存していた。石器は石皿1点のみ。												
189	32	10住西域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	58×50	37×26	44				
		壁も床も堅く良好。出土土器はない。												
189	33	11住東域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	69×67	25×20	54				
		壁・床ともにやや軟弱。出土遺物はない。												
189	34	11住北域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	110×88	95×61	50				36>34
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
189	35	11住北域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	142×133	102×104	94			(土)199-15, 16	35>48
		壁・床ともに堅く良好。												
189	36	11住北域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	118×100	78×59	66				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
189	37	11住北域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	80×68	61×50	36				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
188	38	11住北域	不整形形	皿状	外傾	不整形形	平底	(230)×120	(210)×94	18	3	堆積土中	(石)207-6	27, 28, 39>38
		床・壁ともに堅く良好。本土城は27, 28, 39に切られている。配石は、堆積土中に配され、北壁に立石が1つと、その東側に、砥石が伏されている状態で遺存。出土土器はない。又、小穴が3つあり、径52cm×50cm深さ28cm、径28cm×25cm深さ23cm、径37cm×38cm深さ28cmを測る。石器は砥石が1点のみ。												
188	39	11住北域	円形	クライ状	外傾	円形	平底	138×129	95×103	46			堆積土中	(土)200-17 (石)208-7
		床・壁ともに堅く良好。本土城は、38を切っている。配石といえそうな自然石が1つ堆積土中に遺存。曾利Ⅱ式比定の土器が多く出土している。敲打器が1点出土。												
(188)	(39)													
189	41	10住西域	楕円形	クライ状	外傾	楕円形	平底	130×110	102×79	31				
		床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。												
189	42	10住西域	楕円形	クライ状	外傾	楕円形	平底	100×87	71×58	20			(石)207-10	
		床・壁ともに堅く良好。出土土器はない。チャート製の播器が1点出土。												
189	43	12住南域	楕円形	クライ状	外傾	楕円形	平底	124×97	92×64	18			堆積土中	(土)199-21, 22
		床・壁ともに堅く良好。加曾利Ⅱ式の影響を受けた曾利Ⅱ式の土器片が多い。例えば縄文地に渦巻状沈線文を施したものや口縁部にわらび手状隆帯を施し、縄文をつけたもの等がある。												
189	45	11住北域	円形	スリ鉢状	直壁	楕円形	平底	40×40	27×22	48				45>47, 48
		床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。形状の割に深いことが挙げられる。												
189	47	11住北域	不整形形	皿状	外傾	不整形形	平底	180×148	150×121	22	1		(土)200-24, 25 (石)207-12	52, 45>47
		床・壁ともに堅く良好。土城45, 52に切られる。東壁に小穴が1つあるが、問題にはならないと思う。定角の磨製石斧が1点出土。												
189	48	11住北域	不整形形	皿状	外傾	不整形形	平底	(130)×76	(90)×50	16				35, 45>48
		床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。												

挿図	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
195	49	11住西域	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	171×88	139×58	30				
		壁・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。												
195	50	11住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	133×87	103×55	48				
		床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。												
195	51	11住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	128×94	98×67	50			(土)200-26	
		床・壁ともに堅く良好。												
189	52	11住北城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	96×71	75×52	46			(土)200-27	52>47
		床・壁ともに堅く良好。												
189	53	11住北城	円形	スリ鉢状	外傾	三角形	平底	108×100	76×62	38			曾利Ⅰ式	54と接する
		床・壁ともに堅く良好。出土土器は、篩形文や竹管状工具での平行沈線に施したものが多い。												
189	54	11住北城	卵形	タライ状	外傾	卵形	平底	124×90	86×52	25				53と接する
		床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。												
189	55	11住北城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	74×70	37×37	30			(土)200-28	
		床・壁ともに堅く良好。出土土器は、総じて、曾利Ⅲ式比定が多く、退化した滴文の隆起が口縁部にみられる。												
189	56	11住北城	円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	65×56	34×48	20				58>56
		床・壁ともに堅く良好。出土遺物はない。土城56の中に、土城58が新しく掘り下げられた形となっている。												
189	57	11住北城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	68×60	34×28	55				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
189	58	11住北城	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	(105)×100	81×70	74				58>56
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
189	59	11住北城	円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	85×55	31×24	50				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
189	60	11住北城	不整形円形	皿状	外傾	不整形円形	平底	214×166	186×128	23			(土)200-29, 30, 31	
		壁はやや軟弱で、床は堅く良好。平面形が大きい割に浅い。												
189	61	12住東城	円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	73×76	50×44	25				
		土城61, 62, 63が南北一列に並んでいるかの如く見える。壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
189	62	12住東城	楕円形	スリ鉢状	外傾	ひし形	平底	101×68	91×47	31				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
189	63	12住東城	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	104×73	92×48	24				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
189	64	12住北城	円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	68×68	39×35	40				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
188	65	10住西域	不整形円形	スリ鉢状	直壁	不整形円形	平底	160×104	133×70	93				31>60
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
189	67	12住南城	楕円形	スリ鉢状	直壁	楕円形	平底	168×128	138×98	96			堆積土中 曾利Ⅱ式	67>69
		壁も床も堅く良好。配石が堆積土中に10個用いられている。出土土器は、陰帯懸垂文のはりつけや斜条線、陰帯を竹管状工具で押し出したものなど加曾利E式の影響を受けた曾利のⅠ～Ⅱに比定されるものが多いが、総じて曾利Ⅱ式に比定できる。												
190	68	12住南城	不整形円形	皿状	外傾	不整形円形	平底	186×148	146×120	22			堆積土中 開口部	68>90
		壁はやや軟弱であるが、床は堅く良好。配石は、堆積土中と開口部になされており、石は自然石である。出土遺物はない。												
189	69	12住南城	円形	タライ状	外傾	円形	平底	144×130	130×104	64			開口部	69>43
		壁・床ともに堅く良好。焼土が、土城67に切られた壁上に10cm位堆積していた。又、焼け石が、その西側開口部より少し上にあった。出土遺物はない。												
189	70	12住南城	不整形円形	スリ鉢状	外傾	不整形円形	平底	105×72	76×47	74				
		壁・床ともに堅く良好。土城67との間に焼土が10cm位堆積し、土城70の開口部にまでかかる形で遺存。												
190	71	12住南城	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	$\frac{94 \times 110}{(68 \times 51)}$	36×30	28				71>90
		二段の壁となっており、さらに、その中に2つの土城が入っている形である。両方を土城71とした。壁はやや軟弱、床は堅く良好。1つの土城には、自然石が壁上に伴う。												
190	72	12住南城	円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	60×56	44×38	36			(石)207-13	73>72
		壁・床ともに堅く良好。出土土器はない。石器は、横刃石器が1点出土。												
190	73	12住南城	三角形	スリ鉢状	外傾	三角形	平底	102×81	124×45	65			開口部 (土)201-32	73>72
		壁も床も堅く良好。配石と呼べるか否かは何とも言えないが土城南壁開口部に自然石が1つすえられていた。出土土器は、加曾利E式の影響を受けた曾利Ⅰ式～Ⅲ式まで中広く出ている。												
189	74	12住南城	隅丸方形	タライ状	外傾	不整形円形	平底	118×104	97×84	34	1			
		壁も、床も堅く良好。土城南壁に、径33cm×30cm深さ32cmの小穴が設けられている。西壁と東壁の高さの差が大きい。出土遺物はない。												
189	75	12住南城	ひし形	タライ状	外傾	不整形円形	平底	114×74	76×52	29			(土)201-33, 34	
		壁も床も堅く良好。出土土器は、加曾利E式の影響を受けた曾利Ⅱ式以降のものとは比定できるものが多い。底は、やや傾斜している。												
190	76	12住南城	不整形円形	皿状	外傾	不整形円形	平底	158×120	136×94	18				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
190	77	12住南城	隅丸方形	皿状	外傾	隅丸方形	平底	158×143	140×120	21	1		床面 (土)201-35-40 (石)209-14~20	
		壁も床も堅く良好。堆積状態は、フク土工(黒褐色土-炭化物含む)で充されるが、一部ロームふらん土がある。床面に小穴、径26cm×26cm深さ25cmがある。石器は、セツ的に出土している。打製・磨製・半打製半磨製の石斧計3点、磨石1点、敲打器1点、大粗石魁1点、横刃石器1点、合計7点の各石器が出土している。												
190	78	12住南城	不整形円形	皿状	外傾	不整形円形	平底	168×119	146×92	18	1		(土)201-41 (石) $\frac{207}{210}$ -21	
		壁も床も堅く良好。南西の壁に小穴、径60cm×58cm深さ31cmが掘られている。石器は打製石斧が2点出土。												

挿図	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
190	79	12住南域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	67×60	36×41	30			(土)201-42	
		壁も床も堅く良好。												
189	80	20住東域	楕円形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	84×70	60×54	78				80>135, 137
		壁も床も堅く良好。堆積状態は、床より黒色土(ローム粒、炭化物含む)、暗褐色土(大きなロームブロック含む)、暗褐色土(ロームブロック、炭化物含む)の順に堆積している。出土遺物はない。												
190	81	12住南域	円形	タライ状	外傾	円形	平底	76×69	60×54	18				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
190	82	20住東域	不整形	皿状	外傾	不整形	平底	170×115	145×91	16	1			
		壁も床も堅く良好。南壁に小穴、径60cm×56cm深さ20cmがある。堆積状態は、床面及び小穴内に暗褐色土(ローム粒含む)、両壁にロームブロック、黒色土(炭化物含む)、暗褐色土の順に堆積している。												
190	83	20住東域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	47×34	32×21	40				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
190	84	20住東域	不整形	タライ状	外傾	不整形	丸底	$106 \times 78$ (81×70)	27×30	64			縄文中期末葉	126と接する
		壁はやや軟弱で、床は堅く良好。出土土器は2片のみ。炭化物が集中していた為、後で詳細に説明する。												
190	85	20住東域	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	182×115	162×90	50		床面	(土)201-45~47(石)210-23	85>86
		壁も床も堅く良好。配石は、床面に6個あり、開口部壁上に2個ある。その内床面一つが石皿であり、各々自然石で焼けてはいない。堆積状態は下層が黒褐色(ロームブロック、炭化物含む)、上層は、黒褐色でローム粒と炭化物を含む。下層に、より多く土器を含む。石器は、石皿が1点だけであるが、片面が多孔石となっている。												
190	86	20住東域	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	138×100	121×83		44			80>126
		壁も床も堅く良好。堆積土上部に自然石が配してある。出土遺物はない。												
190	87	20住東域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	87×82	63×64	55				87>126
		壁も床も堅く良好。												
190	88	20住東域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	丸底	52×52	40×40	33		床面	(土)201-48	125と接する
		炭化物が集中していた。後で詳細に説明・分析を行なうものとする。出土土器は6片。												
190	89	20住東域	不整形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	116×106	86×86	92			堆積土上部(土)201-49, 50	89>117
		壁も床も堅く良好。堆積状態は、床より、黒色土、ロームブロック、焼土の順でありその上に、6個の石が配してある。そのうち一つは、焼け石である。												
190	90	12住南域	不整形	皿状	外傾	円形	平底	234×232	210×115	11				68>90
		壁はやや軟弱な所もあり、床は堅く良好。土城71と93を吸収する形態である。出土遺物はない。												
190	91	20住東域	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	104×92	89×76	49		開口部		91>92, 116, 143
		壁も床も堅く良好。2枚の石が土城を半分、覆うような形で置かれ、そのうち一つは焼け石である。出土遺物はない。												
190	92	20住東域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	95×72	74×55	27			曾利Ⅰ式~Ⅱ式	
		壁も床も堅く良好。出土土器は、曾利Ⅰ式特有の瓜形突起(粘土ひものはり付け)や、文様として、ヘラ先による連続刺突文がある。加曾利EⅠ式(口縁部渦巻文)も多い。												
190	93	12住南域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	68×70	38×38	21				
		壁は、北端が90の土城と一致し、床も同様であり、堅く良好。又、東端が土城68と接する。出土遺物はない。												
190	94	20住東域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	98×88	56×59	70				94>98, 115
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
190	95	20住東域	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	220×137	162×64	57			曾利Ⅱ式	
		壁も床も堅く良好。出土土器は、縹形条線文、渦巻文との組み合わせのものが多い。												
190	96	20住東域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	95×74	76×57	68			縄文中期末葉	
		壁も床も堅く良好。出土土器は4片のみ。炭化物が集中していた為、後で詳細に説明する。												
191	97	13住東域	楕円形	円筒状	( )	楕円形	丸底	36×28	24×19	52			縄文中期末葉	
		壁は複雑を呈し、軟弱であり、床もやや丸味を帯びやや軟弱である。炭化物が集中している為、後で詳細に説明する。出土土器は4片のみ。												
190	98	20住東域	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	170×116	140×87	38			曾利Ⅱ~Ⅲ式	94, 99>98
		壁・床ともに堅く良好。出土土器は縹形条線文をつけたものや胴部で隆帯の間に竹管状工具で連続押し引いたものが多い。												
190	99	20住東域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	102×95	78×75	87			曾利Ⅲ式	99>98
		壁・床ともに堅く良好。出土土器は、98同様、縹形条線をつけたものが多い。												
191	100	12住南域	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	160×112	138×86	34	1	2		100≥101
		壁はやや軟弱で、床は堅く良好。土城100と101が合一する壁に、小穴径43cm×36cm深さ14cmがある。100と101の土城の関係は、どちらかを造る時、拡張したものではないかと考えられる。調査時点で、その痕跡は把握出来なかったが、小穴上部と北壁に配石がある。出土遺物はない。												
191	101	12住南域	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	116×88	85×53	34				
		壁はやや軟弱で、床は堅く良好。土城100同様出土遺物はない。												
191	102	12住南域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	88×61	64×45	47				102>104
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
190	103	12住南域	卵形	スリ鉢状	外傾	卵形	平底	78×65	54×41	56				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
191	104	12住南域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	73×62	54×40	32			曾利Ⅱ~Ⅲ式	102>104
		壁も床も堅く良好であるが、東壁を土城102に切られ欠く。出土土器は、懸垂文を胴部に隆帯でつけ、結節縹文を転したのものや、押ししたものが多い。												
191	105	13住東域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	132×108	109×90	85			堆積土中(土) $202-25$ (石) $210-24, 25$ $211-26$	



挿図	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
(191)	(105)	壁も床も堅く良好。堆積状態は床より黒褐色土(炭化物, ローム粒含む), 暗褐色土(ローム粒多し), 暗褐色土(ローム粒, 炭化物含む)の順になっていて, 黒褐色土層の中に自然石がある。石器は, 打製石斧, 石包丁, 磨き石が各1点ずつ出土。												
191	108	15住北域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	100×72	71×52	40		開口部, 床面		
		壁も床も堅く良好。出土土器はないが, 床面北壁寄りに焼け石と開口部に自然石が置かれてあった。												
191	109	13住東域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	80×58	64×37	21				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
191	110	15住北域	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	110×98	80×67	90		開口部		110>112
		壁も床も堅く良好であるが, 北壁が土城113によって切られている。9個の自然石が, 土城の開口部より南側に置かれている。その内, 3個は焼け石である。堆積状態は, 床より暗褐色土(炭化物を含む), 壁にロームふらん土, その上に漸移層, ロームブロックと堆積している。												
191	111	15住北域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	104×82	73×51	36		開口部外		
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。開口部東壁外に自然石が1つ置かれていた。												
191	112	15住北域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	73×80	53×54	70			(石)210-27 211-28, 29	110, 113>112
		壁・床ともに堅く良好。出土土器はない。石器は, 打製石斧が3点出土。												
191	113	15住北域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	126×112	86×84	140				113>110, 112
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
191	114	20住東域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	104-96	82×67	48			曽利Ⅱ式	
		壁も床も堅く良好であるが, 東壁を井水路の為に欠く。出土土器は, 口縁部, 頸部に隆帯を渦巻・横帯としてはりつけ, 条線文を施している。												
190	115	20住東域	楕円形	皿状	外傾	楕円形	平底	190×122	158×104	20			曽利Ⅰ~Ⅱ式	94, 95>115
		壁も床も堅く良好。出土土器は, 曽利Ⅰ式の系統をひく縄文地に蛇行懸垂文を施したもののや, 口縁に貼り付け隆帯の渦巻文, 胴部に平行沈線文を施したものが多い。												
190	116	20住東域	三角形	スリ鉢状	外傾	三角形	平底	124×85	108×67	40		開口部		91, 99>116
		南西壁がゆるやかな二段壁となりやや軟弱であり, 床は堅く良好。出土遺物はないが, 土城156との中間の開口部に自然石を置いてある。床はやや丸味を帯び傾斜している。												
190	117	20住東域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	92×(70)	77×(55)	43				89>117
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
190	118	20住東域	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	70×64	62×50	20			曽利Ⅱ~Ⅲ式	
		壁も床も堅く良好。出土土器は, 無文の胴頸部や口縁に渦文を施し縄文をつけたものがでている。												
191	119	20住東域	卵形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	75×54	53×35	27				123>119
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
191	120	20住東域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	48×34	30×20	53				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
190	121	12住南域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	56×46	33×29	31				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
190	122	20住東域	三角形	スリ鉢状	外傾	三角形	平底	74×66	55×49	33		開口部		122>86
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。開口部北壁に焼け石の配石がある。												
191	123	20住東域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	59×50	34×27	40				123>119
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
191	124	13住南域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	61×58	36×33	37				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
191	125	20住東域	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	98×93	84×73	44			曽利Ⅰ~Ⅱ式(石) <sub>30-32</sub>	
		壁・床ともに堅く良好。東南壁にピットがある。出土土器は, 口縁部に櫛目文を沈線で施したもののや, 口縁に楕円文やわらび手文をはりつけ, 口縁にそってヘラ先で刺突して, 地に縄文を施したものがあ。石器は, 打製石斧, 横刃石器, 磨き石が1点ずつ出土。												
190	126	20住東域	不整形円形	皿状	外傾	不整形円形	平底	191×100	170×81	44		床面	曽利Ⅱ式	86, 87>126
		壁・床ともに堅く良好。床面北壁よりに2個の自然石を置き, その下に曽利Ⅱ式の綾杉条線文と渦文を施した土器片が出土した。												
191	127	15住北域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	62×35	45×22	30				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
191	128	15住北域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	76×63	54×48	63				128>160
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
191	130	15住北域	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	120×85	96×63	25				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
191	131	15住北域	隅丸方形	スリ鉢状	直壁	隅丸方形	平底	110×90	91×60	142		開口部	(石)212-33, 34	131>132, 134
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はないが, 開口部に, 配石がされている。いずれも自然石である。土城134の配石と合一の単位のものと思われる。そのうち, 一つは焼け石である。石器は, 打製石斧, 磨き石が1点ずつ出土。												
191	132	15住北域	円形	スリ鉢状	直壁	円形	平底	63×64	50×48	61				131>132
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
191	133	15住北域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	82×55	70×39	37				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
191	134	15住北域	円形	スリ鉢状	直壁	円形	平底	74×88	58×61	100				131>134
		壁・床ともに堅く良好。開口部より自然石の配石がでている。出土遺物はない。												

挿図	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
		20住東城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	65×58	40×34	20				80>135
189	135	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
		15住北城	三角形	スリ鉢状	外傾	三角形	平底	72×55	51×34	54				
192	136	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
		20住東城	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	70×46	60×27	18				80>137
189	137	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。堆積状態は、ロームふらん土層内に、黒色土ブロックが(ローム粒、炭化物含む)包含されている状態である。												
		15住北城	不整形円形	半円状	弧	( )	丸底	120×142	( )	55				131, 132>138
191	138	壁も床も堅くて良好であるが、その形状は、壁が弧状・床が丸底である。数が少ない種類である。出土遺物はない。												
		20住南城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	104×80	66×48	72				
192	139	壁も床も堅くて良好。出土遺物はない。												
		20住南城	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	72×66	53×46	77				
192	140	壁も床も堅くて良好。出土遺物はない。												
		20住東城	楕円形	皿状	外傾	楕円形	平底	$\frac{250 \times 187}{(106 \times 78)}$	87×55	$\frac{44}{(18)}$		開口部		
191	141	外壁は不整形をもつ二段の壁をもち、やや壁面は軟弱で、床は堅く良好。内壁開口部南東壁の上に長さ48cm幅35cmの立石が遺存し、外壁北東部に2個の自然石が置かれていた。出土遺物はない。												
		20住東城	円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	70×63	50×40	30				
192	142	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
		20住東城	楕円形	皿状	外傾	楕円形	平底	137×91	118×78	13	2			9L, 144>143
190	143	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。東南壁に2個の小さなピット(径10cm内外)がある。												
		20住東城	円形	スリ鉢状	直壁	円形	平底	86×76	62×63	72				144>143
190	144	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
		20住東城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	86×47	62×25	22			(土)203-57-60	
192	145	壁も床も堅く良好。出土土器は曾利Ⅱ式に比定される渦文と条線及び条線と懸垂文の組み合わせた胴部文様のものが多い。												
		20住東城	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	62×41	38×39	19				
190	146	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
		20住東城	不整形円形	タライ状	外傾	不整形円形	平底	156×91	126×68	28				149>147
192	147	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
		20住東城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	87×81	68×63	23				149>148
192	148	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
		20住東城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	142×93	104×60	27		堆積土中開口部	曾利Ⅰ式	
192	149	壁も床も堅く良好。ほぼ中央部に2つの配石をもつ。各々、堆積土中と開口部に配されていた。出土土器は、粘土紐を縦横に貼り付けたものや、隆帯の両側に竹管状工具による押引のものが多い。												
		20住東城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	61×52	29×36	60				150>152
192	150	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
		20住東城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	61×49	42×36	36				151>152
192	151	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
		20住東城	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	120×76	83×45	24			(土)203-61	150, 151>152
192	152	壁も床も堅く良好。出土土器は、曾利Ⅰ式比定のもので、粘土紐の格子目文やてい鉄状突起等が見られる。												
		20住東城	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	102×76	81×63	40			曾利Ⅱ式, (土)203-62	
192	153	壁も床も堅く良好。出土土器は、頸部・胴部に竹管状工具・平行沈線で区画をつくり、その中を、竹管で押引しているものが多い。又、隆帯をはりつけ、その両側を押引くものもある。												
		20住東城	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	145×115	111×87	57		床面上		154>158
192	154	壁も床も堅く良好。出土土器はないが、床面に長さ62cm幅30cmの自然石が横たわっていた。立石の痕跡はみられなかったが、その可能性もある。												
		20住東城	楕円形	半円状	弧	( )	丸底	73×39	( )	27				
192	155	壁はやや軟弱で、丸底である。出土遺物はない。												
		20住東城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	44×40	19×20	57		開口部	曾利Ⅱ式, (石)212-35	
190	156	壁も床も堅く良好。配石として、盤状の石が、土城116との中間に置かれていた。出土土器は、曾利Ⅱ式比定のもので多く、口縁部に渦巻隆帯と縄文、竹管状工具による隆帯区画内の斜めの刺突文等が見られる。石器は、敲打器が1点出土。												
		20住東城	ひし形	スリ鉢状	直壁	ひし形	平底	130×83	106×66	82				
192	157	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
		20住東城	楕円形	皿状	外傾	楕円形	平底	(200)×121	(180)×105	22				154, 170>158
192	158	壁も床も堅く良好。配石をとまう土城154と170により東・西壁が欠けている。又、立石をもつ土城141と近接している。出土遺物はない。												
		20住東城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	71×66	48×48	31				159>161
192	159	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
		15住北城	不整形円形	スリ鉢状	外傾	不整形円形	平底	(88)×73	(70)×52	40		床面		128>160
191	160	壁も床も堅く良好。床面西壁等に2個の自然石が置かれている。出土遺物はない。												
		20住東城	不整形円形	半円状	弧	( )	丸底	98×64	( )	18				159>161
192	161	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
192	162	20住東城 楕円形 スリ鉢状 外傾 楕円形 平底 65×51 51×37 61												

挿図	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	高さ	小穴	配石	遺物	切合
(192)	(162)	壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
192	163	20住東域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	53×53	33×34	25				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
192	164	20住東域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	75×70	50×48	38				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
192	165	20住東域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	62×53	34×35	31				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
192	167	15住北域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	50×40	32×28	52			曾利Ⅰ式	
		壁も床もともに堅く良好。出土土器は、井戸尻末の影響を受けた櫛目文も若干あり、主に、竹管による平行沈線文や押し文、斜縄文を地として蛇行懸垂文が施されたものが多い。												
191	169	15住北域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	49×45	32×29	27				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
192	170	20住東域	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	125×100	96×70	34		開口部		170>158
		壁も床もともに堅く良好。出土遺物はないが、盤状の自然石が、開口部北壁寄りに遺存していた。												
195	185	32住南域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	122×117	79×88	72				
		壁も床もともに堅く良好。出土遺物はない。												
193	186	32住南域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	72×50	62×36	34		開口部	(土)204-68	186>187
		壁も床もともに堅く良好。西壁開口部に細長い自然石が壁に沿ってすえられていた。出土土器は、曾利Ⅱ式比定のもので、綾糸線文や渦文の組み合わせ、斜縄文に懸垂文を組み合わせたものが多い。												
193	187	32住南域	楕円形	スリ鉢状	外傾	不整形円形	平底	(104)×(88)	83×65	22				186>187
		壁も床もともに堅く良好。出土遺物はない。												
193	188	30住西域	隅丸方形	スリ鉢状	直壁	隅丸方形	平底	$\frac{140 \times 146}{103 \times 97}$	89×85	106			(土)204-68	
		壁は、二段の壁で、外側は、やや軟弱である。内壁・床ともに堅く良好。出土土器は、隆帯と結節縄文の組み合わせ、懸垂文と条線文の組み合わせのものが多い。												
194	215	15住北域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	100×81	74×55	59				
		壁も床もともに堅く良好。出土遺物はない。												
194	216	14住西域	楕円形	スリ鉢状	直壁	楕円形	平底	66×50	50×27	46				216>217
		壁も床もともに堅く良好。出土遺物はない。												
194	217	14住西域	三角形	スリ鉢状	外傾	三角形	平底	115×88	92×66	50				216>217
		壁も床もともに堅く良好。出土遺物はない。												
194	218	14住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	94×63	73×43	24	2			
		壁も床もともに堅く良好。出土遺物はない。西壁には、径18cm×14cm深さ26cm、北壁には径22cm×24cm深さ20cmの小穴がある。石器は、打製石斧1点、磨石2点出土。												
194	219	14住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	95×79	75×68	46			曾利Ⅲ式 (石) $\frac{213}{213} - \frac{38}{40} - \frac{39}{40}$	219>237
		壁も床もともに堅く良好。出土土器は、少量であるが、条線文や斜縄文と隆帯懸垂文、渦文の組み合わせのものが見られる。												
194	220	14住北域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	124×104	95×78	45			曾利Ⅲ式	
		壁も床もともに堅く良好。出土土器は、少量であり、微隆帯と結節縄文、斜縄文と沈線懸垂文、斜縄文と渦文といった組み合わせのものが見られる。												
194	221	14住北域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	162×89	114×45	53				
		壁も床もともに堅く良好。出土遺物はない。												
194	222	14住北域	卵形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	68×54	32×26	28				
		壁も床もともに堅く良好。出土遺物はない。												
194	223	14住北域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	62×53	33×29	20			曾利Ⅲ式	
		壁も床もともに堅く良好。出土土器は、条線文と隆帯文との組み合わせのものが4片出土。												
194	224	14住北域	不整形円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	102×73	77×55	14			(石)213-41	
		壁も床も堅く良好。出土土器はない。石器は、石皿が1点出土。												
194	225	20住南西域	卵形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	60×46	37×30	41				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
194	226	20住南西域	三角形	スリ鉢状	外傾	三角形	平底	148×96	117×55	44				
		壁も床も堅く良好。出土遺物はない。												
194	227	20住南西域	楕円形	スリ鉢状	直壁	楕円形	平底	95×75	68×47	84			曾利Ⅲ式	
		壁・床ともに堅く良好。出土土器は、沈線による懸垂文と結節縄文、渦巻文と条線文の組み合わせのものが見られる。												
194	228	14住西域	円形	円筒状	直壁	円形	平底	87×60	89×68	111				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
194	229	14住西域	三角形	タライ状	外傾	楕円形	平底	82×56	61×36	10				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
194	231	14住北域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	101×106	86×80	50				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
194	232	14住北域	卵形	スリ鉢状	直壁	楕円形	平底	64×50	40×32	83				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
194	234	40住北域	五角形	タライ状	外傾	五角形	平底	93×95	66×62	19				

挿図	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合	
(194)	(234)	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。													
194	235	14住北城	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	89×74	53×44	61					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。													
194	236	20住南西域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	94×85	58×49	61			曾利Ⅱ式		
		壁・床ともに堅く良好。出土土器は、少なく、斜縄文と懸垂文、無文口縁頸部に、列点文を組み合わせたものが見られる。													
194	237	14住西域	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	106×92	80×79	41			曾利Ⅱ式	237>240	
		壁・床ともに堅く良好。出土土器は、少なく、まばらな斜縄文を施したものの、結節する渦文と斜縄文等の組み合わせたものがある。													
194	238	14住西域	隅丸方形	円筒状	外傾	隅丸方形	平底	55×55	43×34	71					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。													
194	240	14住西域	不整形円形	皿状	外傾	不整形円形	平底	(235)×96	(212)×53	10				229,237>240	
		壁・床ともにやや軟弱。出土土器はない。													
196	241	40住北城	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	72×64	45×37	23					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。													
196	242	20住南西域	卵形	タライ状	外傾	卵形	平底	167×128	132×90	28			曾利Ⅱ～Ⅲ式		
		壁・床ともに堅く良好。出土土器は、斜縄文と懸垂文、無文地に長楕円文、懸垂文と結節縄文等の組み合わせたものが多い。													
196	243	20住南西域	不整形円形	タライ状	外傾	不整形円形	平底	128×77	104×55	22	1		曾利Ⅱ式		
		壁・床ともに堅く良好。西壁床面に、径38cm×28cm深さ44cmの小穴がある。出土土器は、極少であるが、隆帯による渦文と条線文の組み合わせのもの、数片ある。													
195	244	20住南西域	楕円形	スリ鉢形	外傾	楕円形	平底	58×46	36×25	38					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。													
196	245	28住東城	不整形円形	スリ鉢状	外傾	不整形円形	平底	61×48	35×30	20				254>270	
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。													
196	246	28住東城	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	118×92	96×68	38			曾利Ⅱ～Ⅲ式	246>245,260,268	
		壁・床ともに堅く良好。出土土器は、懸垂文と結節縄文、渦文隆帯と斜縄文の組み合わせのものが多い。													
196	247	28住東城	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	82×78	50×46	54					
		壁・床ともに堅く良好。出土土器は、斜縄文をつけたものの一片のみであった。													
196	248	20住南西域	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	87×70	64×46	21			曾利Ⅰ～Ⅱ式		
		壁・床ともに堅く良好。出土土器は、粘土紐をたすき状にはりつけたものや、縦に条線をつけたものが、少量出土している。													
196	249	40住北城	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	83×54	77×37	32	1				
		壁・床ともに堅く良好。床面、西壁寄りに、小穴径24cm×20cm深さ13cmがある。出土遺物はない。													
196	250	40住北城	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	55×48	40×30	25					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。													
194	251	40住北城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	88×84	75×66	44					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。やや丸味を帯びた床である。													
196	252	40住北城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	88×75	64×59	23					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。やや丸味を帯びた床である。													
196	253	40住北城	ひし形	スリ鉢状	外傾	ひし形	平底	140×105	104×70	31					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。やや丸味を帯びた床である。													
196	254	40住北城	円形	皿状	外傾	円形	平底	97×88	63×68	15			曾利Ⅰ式(土)	$\frac{205}{206} - \frac{72}{79}$	
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物は、少なく、退化した楕円形がついているものがある。													
196	256	14住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	108×70	80×47	36			(石)213-42		
		壁・床ともに堅く良好。出土土器はない。東壁開口部に平らな自然石が置いてあった。石器は、横刃石器が1点出土。													
197	257	20住南西域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	$\frac{152}{112} \times \frac{124}{96}$	116×94	124			曾利Ⅱ～Ⅲ式		
		壁は、2段の壁となっており、やや外壁が軟弱。内壁・床は堅く良好。出土遺物は、沈線及び隆帯による懸垂文と結節縄文を組み合わせたものが主体である。													
196	258	20住南西域	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	106×75	85×46	20	1				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。床面東壁寄りに、小穴径22cm×18cm深さ16cmがある。													
196	259	28住東城	楕円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	80×61	42×37	74				259>246	
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。													
196	260	28住東城	不整形円形	スリ鉢状	外傾	不整形円形	平底	90×62	80×44	51	1			246>260	
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。床面中央に小穴径32cm×24cm深さ5cmがある。													
196	261	20住南西域	不整形円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	154×71	133×55	35	1				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。床面中央に小穴径38cm×34cm深さ8cmがある。													
194	262	20住南西域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	103×96	67×70	50					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。													
196	263	14住北城	隅丸方形	皿状	外傾	隅丸方形	平底	94×84	66×65	10					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。													
196	264	14住北城	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	46×42	24×22	38					
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。													
196	265	20住南西域	隅丸方形	皿状	外傾	隅丸方形	平底	127×108	101×87	14					

挿図	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	高さ	小穴	配石	遺物	切合
(196)	(265)	壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
196	266	28住東域	不整形	乳房状	弧	不整形	凹凸	96×88	60×42 35×28	36 28				
		壁・床ともに軟弱。本土城は、中に半円状の穴が2つ入っている形である。出土土器は、極少で、貼付の渦文と同心半円状の条線がつけられているものの2点のみである。												
196	267	28住東域	不整形	タライ状	外傾	不整形	平底	158×86	135×60	23			(石)213-43	267>270
		壁はやや軟弱で、床は堅く良好。土城270の中に、土城267がすっぽりと中央に入り込んだ形となっている。出土土器はなく、石器は、定角の磨製石斧が1点出土。												
196	268	28住東域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	68×47	45×30	22				268>270
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。本土城は、大型の土城270の小穴的要素が強いと思われる。												
196	270	28住東域	不整形	皿状	外傾	不整形	平底	303×208	282×193	21				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。大型のもので、土城245、土城267、土城268を抱え込むかの形をしている。												
197	273	14住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	123×90	98×69	38				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
197	274	14住西域	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	(86)×(75)	61×59	78				311>274
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
197	275	14住西域	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	143×89	132×65	58			(石)213-44	274>275
		壁・床ともに堅く良好。出土土器はない。石器は、横刃石器が1点出土。												
197	276	14住西域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	(80)×86	(63)×67	44				299>276
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。土城の現形のうち、 $\frac{1}{2}$ ないし $\frac{2}{3}$ 位が土城299によって切られている為、形状は推定である。												
197	277	14住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	99×69	80×46	38				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
197	278	14住西域	円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	38×32	23×16	60				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。土城282と連結する形となっている。												
197	279	14住西域	楕円形	円筒状	直壁	楕円形	平底	84×67	58×45	86			曾利Ⅲ式	279>297
		壁・床ともに堅く良好。出土土器はわずかで、斜縄文を地文とし、指先で蛇行懸垂文をつけたものや、条線文が見られる。												
197	280	14住西域	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	88×59	68×33	26				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
197	281	14住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	52×31	39×17	38				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。土城280のすぐ東側に位置する。												
197	282	14住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	69×45	45×23	44				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
197	283	40住北域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	53×49	27×22	20				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
195	285	13住南域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	90×72	50×34	40				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
197	286	19住南域	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	74×63	52×46	31				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。北西壁が一部、2段壁になっている。												
195	288	13住西域	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	85×60	50×24	26				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
197	289	14住西域	三角形	スリ鉢状	直壁	三角形	平底	154×145	113×118	89	2			
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。床面、東壁寄りに、小穴2個、径40cm×20cm深さ15cm、径32cm×23cm深さ16cmがある。												
195	291	12住西域	三角形	スリ鉢状	外傾	三角形	平底	111×88	78×50	50				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
195	292	12住西域	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	57×51	31×27	33				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
197	294	19住北域	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	65×62	34×29	36				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
195	295	13住北域	卵形	タライ状	外傾	卵形	平底	219×160	170×114	77				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
197	297	14住西域	円形	タライ状	外傾	円形	平底	68×64	57×46	20				279>297
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
194	298	14住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	57×49	30×31	28				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
197	299	14住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	162×104	141×89	59				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
195	300	12住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	105×91	72×44	40				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
196	303	14住西域	三角形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	42×33	25×23	28			(土)205-76 (石)214-46、47	
		壁・床ともに堅く良好。出土土器は少ない。石器は、打製石斧が2点出土。												

挿図	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
196	304	13住西域	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	90×80	71×69	80				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
195	305	13住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	118×87	78×44	30				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
197	308	14住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	50×35	38×21	24				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
197	309	12住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	114×76	90×52	49				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
196	310	14住西域	不整形	スリ鉢状	外傾	不整形	平底	93×56	52×32	49				314>310
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
197	311	14住西域	円形	スリ鉢状	直壁	円形	平底	68×66	52×54	118				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
197	312	14住西域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	76×83	55×55	29				299>312
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
197	313	14住西域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	74×66	56×42	35				299,312>313
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。南半分が切られていないので形状は推定した。												
196	314	14住西域	五角形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	85×68	55×57	43				314>310
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
196	316	14住西域	隅丸方形	スリ鉢状	外傾	隅丸方形	平底	100×90	76×60	93				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。北壁にピットがあり、切っている。												
197	317	14住西域	不整形	タライ状	外傾	不整形	平底	84×36	66×24	22	1			
		壁・床ともにやや軟弱。床面北壁に小穴径15cm×16cm深さ12cmがある。出土遺物はない。												
197	319	14住西域	円形	スリ鉢状	直壁	円形	平底	149×143	122×112	115				317>320
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
197	320	14住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	(106)×95	(83)×46	48			曽利Ⅲ式	299>319
		壁・床ともに堅く良好だが、土城299に及び及び切られている為、形状は推定である。出土土器は、隆帯による楕円形の区画と結節縄文、隆帯文と条線文との組み合わせのものが多く、又、床面より黒耀石のチップが多く出土した。												
197	320	14住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	(128)×114	102×82	48				299,317>320
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。土城の両端が、各々、土城299、土城317によって切られているので、形状は推定である。												

### 単独に検出された土坑

挿図	番号	位置	平面形	断面形	壁	床面形	床面	口径	底径	深さ	小穴	配石	遺物	切合
192	171	23住南東城	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	192×133	159×106	52		栗原土中	(土)204-63, 206-77	176>171
		壁・床ともに堅く良好。堆積状態は、床面より、黒色土(ローム粒、炭化物含む)、壁にロームふらん土、その上に、暗褐色土(ロームブロック含む)、黒色土(ローム粒、炭化物含む)の順になっており、配石は黒色土内にあった。配石は、全て自然石であり、西壁寄りに集中していた。												
192	172	23住南東城	三角形	乳頭状	外傾	三角形	丸底	194×104	164×70	65				
		壁・床ともに堅く良好。壁は外傾でいて、床面は丸底というかわった形状を示している。出土遺物はない。												
192	173	23住南東城	三角形	タライ状	外傾	三角形	平底	182×170	158×130	32			曽利Ⅰ～Ⅱ式(石)212-36, 37	176>173
		壁・床ともに堅く良好。一部西壁が、土城176に切れ欠ける。出土土器は、口縁部片で、粘土紐をたすきにはりつけたものや、隆帯渦巻文をはりつけたもの、竹管で刺突し、渦巻を描いたものなどが多い。石器は、磨石及び敲打器両用のものが1点、横刃石器が1点出土。												
195	174	25住西域	ひし形	スリ鉢状	外傾	ひし形	平底	135×120	111×98	58			曽利Ⅲ式、(土)206-78	
		壁・床ともに堅く良好。出土土器は、結節縄文と沈線による楕円文、条線文と隆帯懸垂文の組み合わせのものが多く。												
195	175	25住西域	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	162×94	120×53	39			曽利Ⅱ～Ⅲ式	
		壁・床ともに堅く良好。出土土器は、渦巻隆帯とヘラ先刺突(隆帯の両側)、微隆帯の区画と結節縄文の回転、無文胴部に沈線の懸垂文等を組み合わせたものが見られる。												
192	176	23住南東城	円形	スリ鉢状	外傾	四形	平底	138×133	109×103	20			曽利Ⅱ式	176>171, 173
		壁・床ともに堅く良好。出土土器は条線文と渦文の組み合わせのものが多く。												
192	177	23住南東城	三角形	タライ状	外傾	三角形	平底	190×(124)	155×(102)	27				173>177
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。西壁は土城173によって切られている為、形状は推定した。												
193	180	25住西域	円形	袋状	直壁	円形	平底	235×215	184×158	84		床面	(土)204-65-67	
		壁・床ともに堅く良好。床面に、黒色土が堆積し、その上に、焼土が10～16cmの厚さで、北壁寄りに堆積していた。その上には、口縁がやや上向きの形で、復原可能はほぼ完型の土器が3個体遺存していた。又、床面より黒色土にかけて、計9個の自然石が置かれていた。焼土の周囲には、炭化物が多く検出された。土器焼成遺構の可能性も考えられる。												
195	182	25住西域	円形	スリ鉢状	外傾	円形	平底	130×135	103×96	60				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
195	199	27住西域	楕円形	タライ状	外傾	楕円形	平底	136×102	92×54	38				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												
195	318	20住西域	楕円形	スリ鉢状	外傾	楕円形	平底	98×79	58×46	50				
		壁・床ともに堅く良好。出土遺物はない。												

## 2 土壇の形状的分類

ここでは、土壇の検出区域を、住居址内・住居址接触、住居址周辺・単独に分け、さらに、Ⅰ群（円形に含まれるもの）Ⅱ群（角形に含まれるもの）Ⅲ群（Ⅰ・Ⅱ群に含まれないもの）に分け、類は、平面・床面形、床面、断面形、壁の組合せにより、Ⅰ群ではA～A<sub>6</sub>、B<sub>1</sub>～B<sub>5</sub>、C<sub>1</sub>～C<sub>5</sub>、D<sub>1</sub>～D<sub>6</sub>、Ⅱ群では、E<sub>1</sub>～E<sub>3</sub>、F<sub>1</sub>～F<sub>5</sub>、G<sub>1</sub>～G<sub>4</sub>、H<sub>1</sub>～H<sub>5</sub>、Ⅲ群ではI<sub>1</sub>・I<sub>2</sub>と類別し、その各類を、a種—口径が60cm以下、b種—61cm～100cm、c種—101cm～140cm、d種—141cm～180cm、e種—181cm以上として、分類した。

区域	群	類	平・床面形	床面	断面形	壁	種	口径	土壇No.	区域	群	類	平・床面形	床面	断面形	壁	種	口径	土壇No.																									
住居址内接触	Ⅰ	A 1	楕円形	平底	スリ鉢状	外傾	a	60cm以下	206	住居址周辺・単独	Ⅰ			平底				c	101～140	143																								
							b	61～100	183, 107, 210, 322									e	181～	11, 115, 141, 158																								
							c	101～140	192, 214, 271, 260,									住居址内接触	A 4	楕円形 (底は後の形)	平底	スリ鉢状	外傾	c	101～140	44																		
							d	141～180	66, 201										a	60cm以下	298																							
							e	181～											b	61～100	80, 219, 259																							
住居址周辺・単独	Ⅰ	A 1	楕円形	平底	スリ鉢状	外傾	a	60cm以下	12, 83, 120, 121, 123, 244, 281, 308	住居址周辺・単独	Ⅰ	A 5	楕円形	丸底	スリ鉢状 その他	外傾	a	60cm以下	97(断面,円筒形)																									
							b	61～100	4, 36, 29, 33, 37, 52, 57, 92, 96, 102, 108, 109, 117, 127, 133, 145, 151, 162, 186, 215, 218, 268, 277, 282, 285, 318, 216(直壁), 227(〃), 17(〃)								b	61～100	4(スリ鉢), 15(トライ)																									
							c	101～140	30, 34, 36, 56, 51, 63, 105, 111, 139, 153, 170, 256, 273, 300, 305, 309, 319, 320								d	141～180	25(トライ)																									
								141～180	149, 221, 299, 67(直壁)								住居址周辺・単独	A 6	楕円形	丸底	半円状	弧	b	61～100	155																			
																		住居址内接触	B 1	円形	平底	スリ鉢状	外傾	b	61～100	183, 189																		
																								c	101～140	184, 196, 272																		
							住居址内接触	Ⅰ	A 2								楕円形	平底	クライ状	外傾	a	60cm以下		住居址周辺・単独	Ⅰ																			
																					b	61～100														a	60cm以下	13, 14, 32, 156, 163, 167, 169, 264, 283, 45(直壁)						
																					c	101～140	44, 209													住居址周辺・単独	B 2	円形	平底	クライ状	外傾	d	141～180	46
																					d	141～180	307, 3(直壁)																			b	61～100	1, 81, 297
e	181～	2, 284	c	101～140	39																																							
住居址周辺・単独	Ⅰ	A 3	楕円形	平底	皿状	外傾	a	60		住居址周辺・単独	Ⅰ																																	
							b	61～100	26, 42, 71, 118, 137, 146, 248, 249, 288													d	141～180	69																				
							c	101～140	21, 41, 43, 63, 86, 130, 246, 258, 199													住居址接触	B 3	円形	平底	皿状	外傾	d	141～180	230														
							d	141～180	5, 49, 98, 100, 175, (直壁)																			b	61～100	254														
							e	181～	171																			a	60cm以下	59, 72, 278, 45(直壁)														
住居址内・接触	Ⅰ	A 3	楕円形	平底	皿状	外傾	a	該当なし		住居址周辺	Ⅰ																																	
							e	181～	255													b	61～100	22, 56, 61, 64, 142, 10(直壁), 18(直壁)																				

区域	群	類	平・床面形	床面	断面形	壁	種	口径	区域	群	類	平・床面形	床面	断面形	壁	種	口径	土壇No.	
住居址周辺、単独	I	B 5	円形	平底	スリ鉢状 その他	外傾	c	101~140	53	住居址周辺	II	E 2	隅丸方形	平底	皿状	外傾	b	61~100	263
							b	61~100	228(直壁,円筒状)	c							101~140	265	
							e	181~	180(袋状)	d							141~180	77	
住居址内、接触	C 1	不整形	平底	スリ鉢状	外傾	b	61~100	203, 239, 293, 302	住居址周辺	E 3	隅丸方形 (床は 他の形)	平底	スリ鉢状	外傾	b	61~100	23 (円形) 294 (不整形) 315 (円形)		
						c	101~140	198, 200	c						101~140	306(楕円形)			
						d	141~180	212	c						101~140	74 (楕円形)			
住居址周辺						b	61~100	19, 245, 280, 310	住居址周辺	E 4	隅丸方形 (床は 他の形)	平底	タライ状	外傾	c	101~140	238		
						c	101~140	70, 91	a						60cm以下	190			
						d	141~180	275,	c						101~140	290			
住居址内						e	181~	85, 95	住居址内	E 5	隅丸方形	平底	円筒状	外傾	b	61~100	122, 136		
						e	181~	194	c						101~140	116, 217			
						d	61~100	20	d						141~180	73, 226, 289(直壁)			
住居址周辺						c	101~140	9, 243	住居址周辺	F 1	三角形	平底	スリ鉢状	外傾	b	61~100	204		
						b	141~180	147, 267	d						141~180	208			
						e	181~	106	b						61~100	229			
住居址接触	C 3	楕円形	平底	皿状	外傾	e	181~	106	住居址内	F 2	三角形	平底	タライ状	外傾	d	141~180	177		
						d	141~180	24, 47, 48, 76, 78, 82	b						61~100	303			
						c	181~	38, 60, 68, 126, 240	e						181~	172			
住居址周辺						c	101~140	211, 296	住居址周辺、単独	F 3	三角形 (床は 他の形)	平底	スリ鉢状	外傾	a	60cm以下	303		
						d	141~180	287	e						181~	172			
						b	61~100	16	c						101~140	157, 174, 253			
住居址周辺						c	101~140	89	住居址周辺	G 1	ひし形	平底	スリ鉢状	外傾	c	101~140	75		
						d	141~180	261	c						101~140	28			
						e	181~	90	c						101~140	101			
住居址周辺	C 5	不整形 (床は 他の形)	平底	タライ状	外傾	c	101~140	224(楕円形)	住居址内	G 2	ひし形	平底	タライ状	外傾	c	101~140	266		
						b	61~100	161	b						61~100	266			
						c	101~140	138	c						101~140	291(三角形)			
住居址周辺	C 6	不整形	丸底	半円状	弧	b	61~100	161	住居址内	H 1	五角形	平底	スリ鉢状	外傾	c	101~140	325		
						c	101~140	138	b						61~100	234			
						a	60cm以下	225	b						61~100	207			
住居址周辺	D 1	卵形	平底	スリ鉢状	外傾	a	60cm以下	225	住居址接触	H 2	五角形	平底	タライ状	外傾	b	61~100	207		
						b	61~100	222, 103	b						61~100	207			
						c	101~140	138	b						61~100	207			
住居址周辺	D 2	卵形	平底	タライ状	外傾	c	101~140	54	住居址内	H 3	五角形	平底	皿状	外傾	b	61~100	207		
						d	141~180	242	b						61~100	207			
						e	181~	295	b						61~100	207			
住居址周辺	D 3	卵形 (床は 他の形)	平底	スリ鉢状	外傾	b	61~100	119(楕円形) 232(楕円形)	住居址内	H 4	五角形 (床は 他の形)	平底	スリ鉢状	外傾	b	61~100	195(円形)		
						c	101~140	242	c						101~140	178(不整形)			
						d	141~180	295	c						101~140	291(三角形)			
住居址周辺	II	E 1	隅丸方形	平底	スリ鉢状	外傾	b	61~100	191	住居址内	III	I 1	不整形	平底	スリ鉢状	外傾	c	101~140	179
							c	101~140	301	e							181~	270	
							d	141~180	181	e							181~	270	
住居址周辺						a	60cm以下	250, 292	住居址周辺	I 2	不整形	平底	皿状	外傾	e	181~	270		
						b	61~100	125, 140, 235, 241, 247, 274, 286, 304	e						181~	270			
						c	101~140	58, 110, 152, 170, 237, 131(直壁) 188(直壁)	e						181~	270			
住居址周辺						d	141~180	154	住居址周辺										



3 土坑出土土器 (挿図・番号例 197.11-12 は、第197図-11番土坑12号出土を意味する)

挿図	番号	形状	部位	比定形式	色調		胎土	
					表	裏		
198	1-1	深鉢	底部	曾利Ⅱ式	黄褐色	暗褐色	荒い長石・石英	施文～縦位ヘラ削り→懸垂文貼付→斜縄文→沈線磨消 裏面～斜位のヘラ掻き上げ (単節)
◇	2-1	◇	胴部	曾利Ⅲ式	茶褐色	◇	◇	施文～縦位ヘラなどで→沈線懸垂文・結節縄文 裏面～横位ヘラ削り
◇	3-3	◇	胴上半部	◇	暗茶褐色	茶褐色	荒い 長石・石英・雲母	施文～横位ヘラなどで→隆帯横走・懸垂文貼付→列点文→結 節縄文→沈線磨消 (施文単位は7単位) 裏面～指などで。径24cm, 胴径18cm, 現器高19cm。
◇	4-3	◇	胴上半部	◇	茶褐色	◇	◇	施文～横位ヘラなどで→隆帯横走・列点文→結節縄文→長楕 円文・磨消 (口縁・施文単位は、6単位) 裏面～指などで。口径24cm, 胴径15cm, 現器高26cm
◇	5-3	◇	口縁部 (口摺をかく)	◇	暗茶褐色	◇	◇	施文～横位ヘラなどで→隆帯区画文貼付→単節斜縄文 裏面～横位ヘラなどで
◇	6-5	◇	胴上半部	◇	◇	暗茶褐色	◇	施文～横位ヘラなどで (口縁部) 縦位・斜位 (胴部) → S 字 状突起貼付→結節縄文→二重楕円文 裏面～横位ヘラなどで。推定口径29cm, 同胴径27cm, 現器高 24cm。 施文単位～口縁部4～5単位, 胴部12～13単位
◇	7-7	◇	口縁部	◇	暗茶褐色	淡茶褐色	◇	施文～横位ヘラ磨き→連結の隆帯渦文貼付→結節縄文 裏面～横位ヘラなどで。推定口径24cm。
199	8-8	◇	胴上半部	◇	◇	暗茶褐色	◇	施文～連結隆帯渦文・懸垂文貼付→列点文→結節縄文→沈 線磨消・指などで成形 裏面～横位ヘラ磨き (口縁部)、横位ヘラなどで (胴部) のり 状こげ付着・胴下部は、あばた状に剥 施文単位～口縁部5単位, 胴部9単位。口径19.5cm
◇	9-9	無頸甕	胴上半部	曾利Ⅱ式	淡茶褐色	淡茶褐色	◇	施文～ヘラなどで→渦文突起・連結渦文・横走隆帯貼付→波 状隆帯 (ヘラ先刺突) →沈線渦文→条線文 裏面～横位ヘラ磨き。口径16cm, 胴径19cm。現器高16cm
198	10-12	(深鉢)	胴部	曾利Ⅲ式	茶褐色	◇	◇	施文～ヘラなどで→懸垂文→結節縄文→沈線整形。裏面などで
◇	11-12	◇	◇	◇	◇	◇	◇	施文～ヘラなどで→連結楕円文→瓜形刺突。裏面たで。
198	12-20	◇	◇	曾利Ⅱ式	淡茶褐色	◇	◇	施文～ヘラなどで→連結渦文貼付→綾杉条線文 裏面～ヘラなどで。
◇	13-21	深鉢	◇	◇	赤褐色	赤褐色	荒い長石・石英	施文～隆帯区画文貼付→波状隆帯 (ヘラ先刺突) →粘土紐 貼付→ヘラ先刻目→ヘラ磨き→沈線渦文
199	14-22	(深鉢)	胴部	曾利Ⅱ式	茶褐色	暗茶褐色	荒い長石・石英	施文～隆帯区画文貼付→波状隆帯 (ヘラ先) →沈線U字文
◇	15-35	深鉢	◇	曾利Ⅲ式	淡褐色	暗褐色	◇	施文～隆帯貼付→列点文→ヘラ磨き
◇	16-35	◇	◇	◇	淡褐色	暗褐色	◇	施文～ヘラ磨き→結節縄文→沈線懸垂文
200	17-39	◇	◇	◇	◇	◇	◇	施文～ヘラなどで→隆帯横走・懸垂文貼付→沈線同心円文・ 条線文。裏面～ヘラなどで。
199	18-40	(◇)	口縁部	加曾利EⅢ式	暗茶褐色	茶褐色	◇	施文～ヘラ磨き→単節斜縄文→ 圧痕文・波文・楕円文→ 縄文磨消。裏面～ヘラ磨き。
◇	19-22	( )	底部	( )	淡褐色	暗褐色	◇	施文～ヘラなどで。裏面～指などで。
◇	20-43	深鉢	口縁部	曾利Ⅲ式	茶褐色	暗茶褐色	◇	施文～ヘラ磨き→隆帯渦文。裏面～ヘラ磨き。
◇	21-43	(深鉢)	胴部	曾利Ⅰ～Ⅱ式	淡褐色	暗褐色	◇	施文～ヘラなどで→単節斜縄文→沈線渦文。裏面～ヘラなどで
◇	22-46	◇	◇	曾利Ⅲ式	茶褐色	暗茶褐色	◇	施文～ヘラなどで→結節縄文→沈線懸垂文→縄文磨消。
◇	23-46	◇	◇	◇	◇	◇	◇	施文～ヘラなどで→結節縄文→沈線懸垂文→縄文磨消。
200	24-47	深鉢	口縁部	曾利Ⅱ式	◇	淡茶褐色	◇	施文～波状隆帯口縁→隆帯区画文→竹管刺突文。
◇	25-48	◇	◇	加曾利EⅢ式	◇	◇	◇	施文～口縁ヘラ磨き→沈線区画文→単節斜縄文。
◇	26-51	◇	胴部	曾利Ⅲ式	黄褐色	灰褐色	◇	施文～ヘラなどで→隆帯横走・懸垂文→綾杉条線文。
◇	27-52	(深鉢)	尾状突起	曾利Ⅰ式	淡茶褐色	淡茶褐色	◇	施文～尾状突起→隆帯X字状文・格子状文貼付→ヘラ先連 続刺突文・刻目文
◇	28-55	深鉢	口縁部	曾利Ⅲ式	茶褐色	淡褐色	◇	施文～ヘラ磨き→ヘラ先、玉抱同心円文。
◇	29-60	◇	◇	◇	暗茶褐色	淡茶褐色	荒い長石 ・石英・雲母	施文～指などで→退化した粘土紐渦文貼付→単節斜縄文→沈 垂文→荒いヘラ磨き→縄文磨消。 裏面～横位ヘラ磨き。
◇	30-60	◇	◇	加曾利EⅢ式	◇	淡褐色	大粒の長石・石英	施文～指などで→退化した粘土紐渦文貼付→単節斜縄文→沈 線L字状文→縄文磨消。裏面～指などで。
◇	31-60	◇	◇	曾利Ⅲ式	茶褐色	◇	荒い長石・石英	施文～隆帯渦文貼付・山形口縁→隆帯区画文→斜縄文。

挿図	番号	形状	部位	比定型式	色調		胎土	特徴
					表	裏		
201	32-73	(深鉢)	胴部	曾利Ⅲ式	淡茶褐色	淡褐色	荒い長石・石英	施文～隆帯懸垂文→結節縄文→沈線で縄文磨消。
〃	33-75	浅鉢	底部	曾利Ⅲ以降	暗赤褐色	〃	〃	施文～ヘラ磨き→沈線文。裏面→ヘラまで。
〃	34-75	(深鉢)	胴部	曾利Ⅱ～Ⅲ式	淡褐色	〃	〃	施文～八字状隆帯懸垂文→ヘラ先刺突文→斜縄文。
〃	35-77	深鉢	口縁部	〃	暗茶褐色	茶褐色	荒い長石・石英 雲母	施文～鶏冠状突起貼付→隆帯楕円文→結節縄文→指まで。 裏面→指まで。
〃	36-77	(深鉢)	胴部	曾利Ⅲ式	茶褐色	淡褐色	荒い長石・石英	施文～ヘラまで→結節縄文→微隆帯懸垂文→縄文磨消。
〃	37-77	〃	〃	〃	茶褐色	〃	〃	施文～ヘラまで→微隆帯懸垂文→結節縄文→縄文磨消。
〃	38-77	〃	底部	〃	黄褐色	〃	〃	施文～ヘラまで→隆帯懸垂文貼付→結節縄文。
〃	39-77	〃	〃	( )	〃	〃	〃	施文～表面縦位ヘラ磨き。裏面横位のヘラまで。
〃	40-77	〃	〃	( )	暗褐色	淡褐色	〃	施文～表面縦位ヘラ磨き。裏面横位のヘラまで。
〃	41-78	深鉢	口縁部	〃	茶褐色	〃	〃	施文～横位ヘラ磨き→口唇部ヘラ先、刻目→沈線文。
〃	42-79	(深鉢)	胴部	曾利Ⅰ～Ⅱ	淡褐色	〃	〃	施文～ヘラまで→斜縄文→平行沈線文。
〃	43-85	〃	口縁部	加曾利EⅡ式	〃	〃	〃	施文～ヘラ磨き→竹管突刺→沈線文→斜縄文。
〃	44-85	(深鉢)	胴部	(曾利Ⅱ～Ⅲ式)	淡褐色	暗褐色	荒い長石・石英	施文～ヘラまで→斜縄文
〃	45-85	(〃)	〃	曾利Ⅲ式	〃	〃	〃	施文～隆帯横走・懸垂文貼付→列点文→結節縄文→縄文磨消。
〃	46-85	(〃)	〃	〃	茶褐色	淡褐色	〃	施文～隆帯横走・懸垂文貼付→結節縄文→沈線で縄文磨消
〃	47-88	(〃)	〃	〃	茶褐色	茶褐色	〃	施文～連結微隆帯楕円文貼付→結節縄文→沈線文
〃	48-88	円盤	胴部片	(曾利Ⅱ～Ⅲ式)	暗褐色	黄褐色	長石・石英・雲母	土製円盤と思われる、斜縄文を施した胴部片を使用。
〃	49-89	深鉢	口縁部	曾利Ⅱ式	茶褐色	淡褐色	荒い長石・石英	施文～隆帯渦文貼付→縦位条線文→沈線で条線磨消。
〃	50-89	(深鉢)	胴部	曾利Ⅰ～Ⅱ式	淡褐色	〃	〃	施文～ヘラまで→縦縄文→蛇行沈線文。
202	51-105	深鉢	胴上半部	加曾利EⅢ式	〃	〃	銀雲母のみ	施文～ヘラまで→沈線で楕円文・縦V字文→単節縦縄文
〃	52-105	〃	〃	中期末葉	暗褐色	茶褐色	荒い長石・石英	施文～ヘラ磨き→ヘラ先で横走・波状・楕円・蛇行文施す
〃	53-105	〃	口縁部	加曾利EⅢ式	黄褐色	暗褐色	荒い長石・石英 雲母	施文～耳状突起貼付→縦縄文→沈線区画文→縄文磨消。 裏面～ヘラまで。
〃	54-105	〃	胴部	曾利Ⅲ式	黒褐色	茶褐色	荒い長石多し	施文～縦位ヘラ磨き→2条結節縄文→2重楕円沈線文。
〃	55-105	〃	胴上半部	〃	暗茶褐色	黄褐色	長石・雲母	施文～ヘラまで→縦縄文・結節縄文→H字状沈線懸垂文 +楕円文→縄文磨消。裏面～ヘラまで。
203	56-106	(深鉢)	胴上半部	中期末葉	黒褐色	淡褐色	荒い長石・石英	施文～ヘラ削り→沈線楕円文。裏面～ヘラまで。
〃	57-145	無頸甕	底部	曾利Ⅲ式	淡褐色	茶褐色	〃	施文～ヘラまで→斜縄文→沈線蛇行懸垂文。 裏面～ヘラ削り。
〃	58-145	深鉢	口縁部	曾利Ⅱ式	淡茶褐色	茶褐色	細かい長石	施文～ヘラまで→隆帯横走(口唇部)・渦文貼付→列点文 →放射状条線文。裏面～ヘラまで。
〃	59-145	〃	胴部	〃	赤褐色	暗褐色	荒い砂粒	施文～ヘラまで→はげ目状細条線→連結沈線渦文。 裏面～あばた状剥落。
〃	60-152	〃	口縁部	曾利Ⅲ以降	灰褐色	灰黄色	雲母・長石・石英	施文～雑な隆帯横走・懸垂文貼付→ヘラ先で沈線・刻目→ 縦の細い条線。表裏面ともに、指まで。
〃	61-152	〃	〃	(曾利Ⅰ～Ⅱ式)	茶褐色	黄褐色	荒い長石	整形～表裏面ともにヘラまで。
〃	63-153	〃	1/2個体	曾利Ⅱ式	茶褐色	暗茶褐色	荒い長石・石英	施文～ヘラ磨き→人体文状突起貼付(2単位)→連結する 横走・渦文隆帯貼付→波状隆帯(ヘラ先刺突)→上 下・左右に条線文→隆帯両側、沈線整形。 裏面～ヘラまで。
204	63-171	手提付 深鉢	半個体	曾利Ⅲ式	赤褐色	茶褐色	〃	施文～手提部取付→M字状突起貼付→ヘラまで→沈線長楕 円文→結節縄文。手提部に、ヘラ先刺突文を施す。 手提部文様に対し、裏側口唇部にM字状突起が付く 形態上より、右手で持ち、左手で支える方法。
203	64-178	深鉢	口縁部	〃	淡黄色	淡黄色	荒い砂粒	施文～ヘラまで→通結隆帯渦文貼付→結節縄文を渦状に施 す。裏面～ヘラまで
204	65-180	〃	完形	〃	淡茶褐色	淡褐色	荒い長石・石英	施文～ヘラ削り→連結する隆帯楕円文・逆U字文・渦文(口 縁部、一ヶ所のみ)貼付→渦文に連なる楕円文に 列点文→各隆帯を沈線で整形→雑な結節縄文を施す 裏面～ヘラ削り。
204	66-180	深鉢	完形	曾利Ⅲ式	茶褐色	淡茶褐色	荒い長石・石英	施文～ヘラ削り→馬蹄状突起貼付(4単位)→連結する隆 帯H字状文・楕円文・逆V字状文則付→各隆帯を沈 線で整形→結節縄文を施す。 裏面～ヘラ削り。口径31.5cm, 胴径17cm, 器高46cm, 底径 8cm

挿図	番号	形状	部位	比定型式	色調		胎土	特徴
					表	裏		
204	67-180	深鉢	完形	曾利Ⅲ式	淡茶褐色	淡褐色	荒い長石・石英	施文→ヘラ削り→連結する隆帯楕円文・H字状文・馬蹄状文貼付→各隆帯を沈線で整形。 裏面→ヘラ削り。口径22cm, 胴径33.6cm, 底径8cm, 器高33.8cm
◇	68-186	◇	口縁部	◇	暗黄褐色	淡黄色	荒い長石	施文→横位ヘラなどで→口縁隆帯貼付→頸部に連結する楕円文貼付→列点文→結節縄文→縄文磨消。 裏面→ヘラなどで。口径24cm, 胴径13.6cm, 底径9.5cm, 器高35.2cm
◇	69-188	(◇)	胴部	◇	暗茶褐色	淡褐色	◇	施文→縦位ヘラなどで→隆帯懸垂文貼付→ヘラ先でV字状文→結節縄文→縄文磨消。 裏面→横位ヘラなどで。
◇	70-188	(◇)	胴部	◇	黄褐色	黄褐色	◇	施文→ヘラなどで→隆帯懸垂文貼付→結節縄文→懸垂文両側を沈線で整形→縄文磨消。 裏面→ヘラなどで。
◇	71-193	円盤	胴部片	(曾利Ⅱ～Ⅲ式)	◇	◇	荒い砂粒	土製円盤と思われ、沈線文を施した胴部片を使用。
205	72-254	深鉢	胴部	井戸尻末 ～曾利初	淡黄褐色	暗茶褐色	◇	施文→ヘラなどで→楕円文(U字文+縦位条線文)を施す。 裏面→ヘラなどで。
◇	73-254	小深鉢	底上半部	曾利Ⅰ式	暗褐色	茶褐色	細かい長石	施文→ヘラなどで→変形蛇体文突起貼付→三条の横走連続竹管文(頸部と胴中央部)→縦位の平行沈線又を施す。 裏面→ヘラなどで。口径13cm, 胴径10cm, 現器高19cm
◇	74-255	大深鉢	胴部	◇	淡赤褐色	淡黄褐色	荒い長石・石英	施文→ヘラなどで→変形トの字状隆帯を中心に、X字状文・楕円文・横く字状文を貼付→ヘラ先で、各隆帯文に刺突・刻目をつける→変形トの字状隆帯を指先でつまみ、爪先で押圧する→退化した人体文(楕円文+横く字状文)の左右に対照する斜沈線を施す。 裏面→ヘラなどで。胴径40.5cm, 現器高35cm
◇	75-303	◇	1/2個体	曾利Ⅱ式	晴赤褐色	茶褐色	細かい長石	施文→ヘラなどで→単節縄文(縦位・斜位) 裏面→ヘラなどで。口径43cm, 底径12cm, 器高35cm
◇	76-303	深鉢	ほぼ完形 (口縁部欠)	曾利Ⅱ～Ⅲ式	淡褐色	暗褐色	極めて細かい石粒	施文→ヘラなどで→雑な単節斜縄文→沈線による連結渦文→逆V字状文→蛇行文を沈線で施す。口径22cm, 底径8.2cm, 現器高25.4cm
206	77-171	把手部	半分	曾利Ⅲ式	茶褐色	茶褐色	荒い長石・石英	施文→ヘラ削り→ヘラ先で刺突文を2条施し、頂きで連結する。
◇	78-174	無頸甕	ほぼ完形 (口縁部欠)	◇	暗褐色	暗褐色	荒い長石	施文→ヘラ磨き→沈線による長楕円文→3条結節縄文を縦転する。 裏面→ヘラ削り。胴径40cm, 底径9.8cm, 現器高43.6cm
◇	79-254	(深鉢)	底部	曾利Ⅰ式	赤褐色	◇	荒い長石・石英 雲母	施文→ヘラ削り→粘土紐による懸垂文貼付→横に短かい粘土紐貼付。 裏面→ヘラ削り。底径8.4cm, 現器高11cm

(註) 「特徴」の欄で、結節縄文と記したのは、縦転結節縄文を意味し、「施文」としたのは、器面調整を含み、「→」で施文順序を示した。調整として、ヘラ削り→ヘラなどで→ヘラ磨き、指などを用いた。

## 4 問題提起

### ①「土塚」について

数多くの報告書、論文、資料の中で、「土塚」を意味する用語として、「ピット」「小竪穴」「土塚」「土壙」等、概念規定され得ない状態で使用され、混乱をきたしている状況である。「土塚」の性格・位置付等より、再度、概念が明確にされねばならないし、又して行かなければならないものとして、現代的にはあると思う。本稿では、「ローム層中に掘られた各形態・形状の竪穴」として扱った。

### ②「土塚」の時・空間的問題

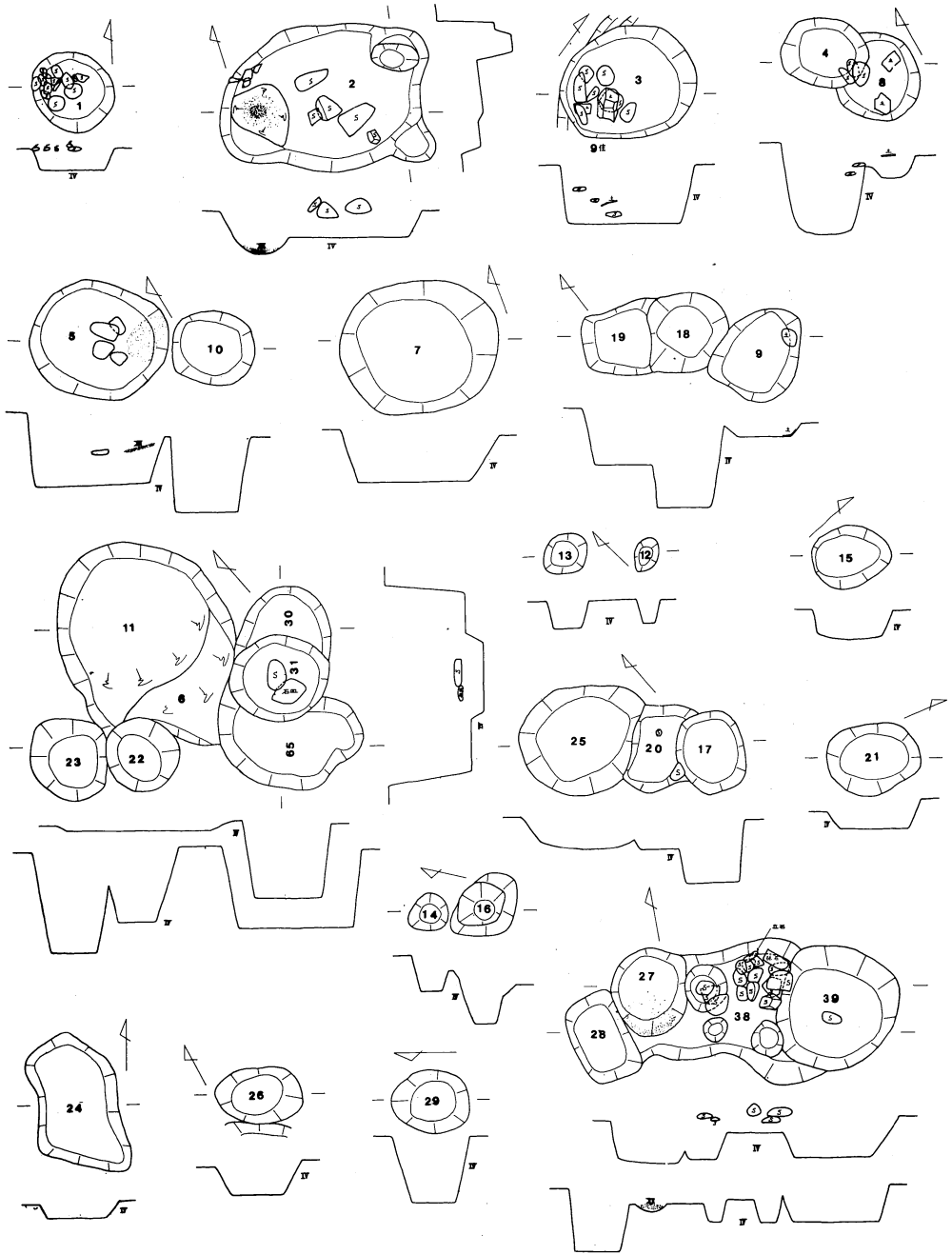
本遺跡で検出された325か所（資料の上では、320か所）の土塚のうち、出土遺物がないものが、220か所で、全体の3分の2以上を占める為、又縄文時代中期末と奈良・平安時代の複合遺跡である為、土塚が、何号住に伴うものか、又、土塚の時期的関係等、総体的にまとめることが出来ない為、再度、他の場所をかりて検討したい。

しかし、個別的問題として、次の事が観察できた。

- ㊦ 土塚が掘られた空間と掘られない空間がある事により、その空間相互に、規則的な意図が感じられること。
- ㊧ 土塚群が想定され、比較的大きく、又、皿状の断面をもつ土塚を中心に、円形状を呈して群構成がされていること。
- ㊨ 土塚と土塚の切合が比較的多いこと。
- ㊩ 平面・床面形では、楕円形・円形、断面形では、スリ鉢形、床面は、平底、壁は、外傾、口径では、61cm～100cm以下のものが多いこと、
- ㊪ 性格がかなり観察できうる土塚—No.77・84・88・96・97・180があり、それらの土塚らは、土器・石器量が多い点、炭化物（木炭等ではなく、種子等の炭化物）が多い点、形状が他の土塚と違いフラスコ状に近く土器等の遺存状態が良好な点が特徴として挙げられる。
- ㊫ 配石を床面、堆積土中、開口部に伴うもの、石皿を伴うもの、立石を伴うもの貼床されたもの、焼土及び焼石を伴うものが他の多くの土塚の性格とは何らかの規則的意図により相違するものであること。

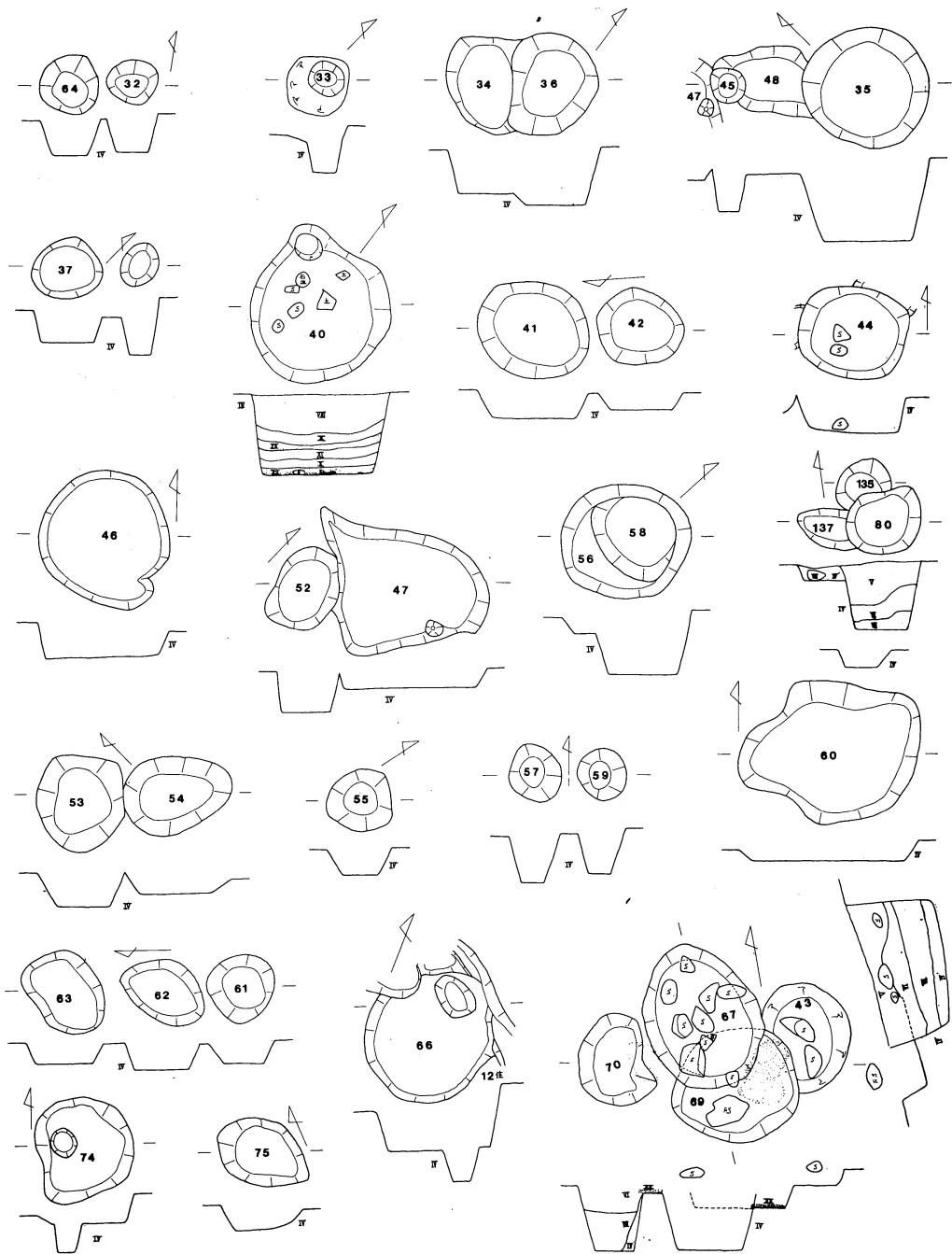
### ③出土遺物について

- ㊬ 出土土器の中で、結節回転縄文（本土塚では、縦転、円転が見られる）をもつ深鉢形土器の時間的位置付が、中期末葉の曾利Ⅱ～Ⅲ式に比定されそうであること。施文方法は、ヘラ削り・ヘラなで等をした上に、粘土紐で隆帯渦文や懸垂文として貼り付けその間に、1条～3条の結節回転縄文を施し、最後に、竹管かヘラ先で、各隆帯の両ふちを整形することにより、その縄文が磨り消されるという状態を呈している。
- ㊭ 石器については、打製石斧と並んで、石皿、磨石、敲打器等が多く、石皿は片面が多孔石となったもの、磨石と敲打器が両用されたものが見られる。（以上小原晃一）

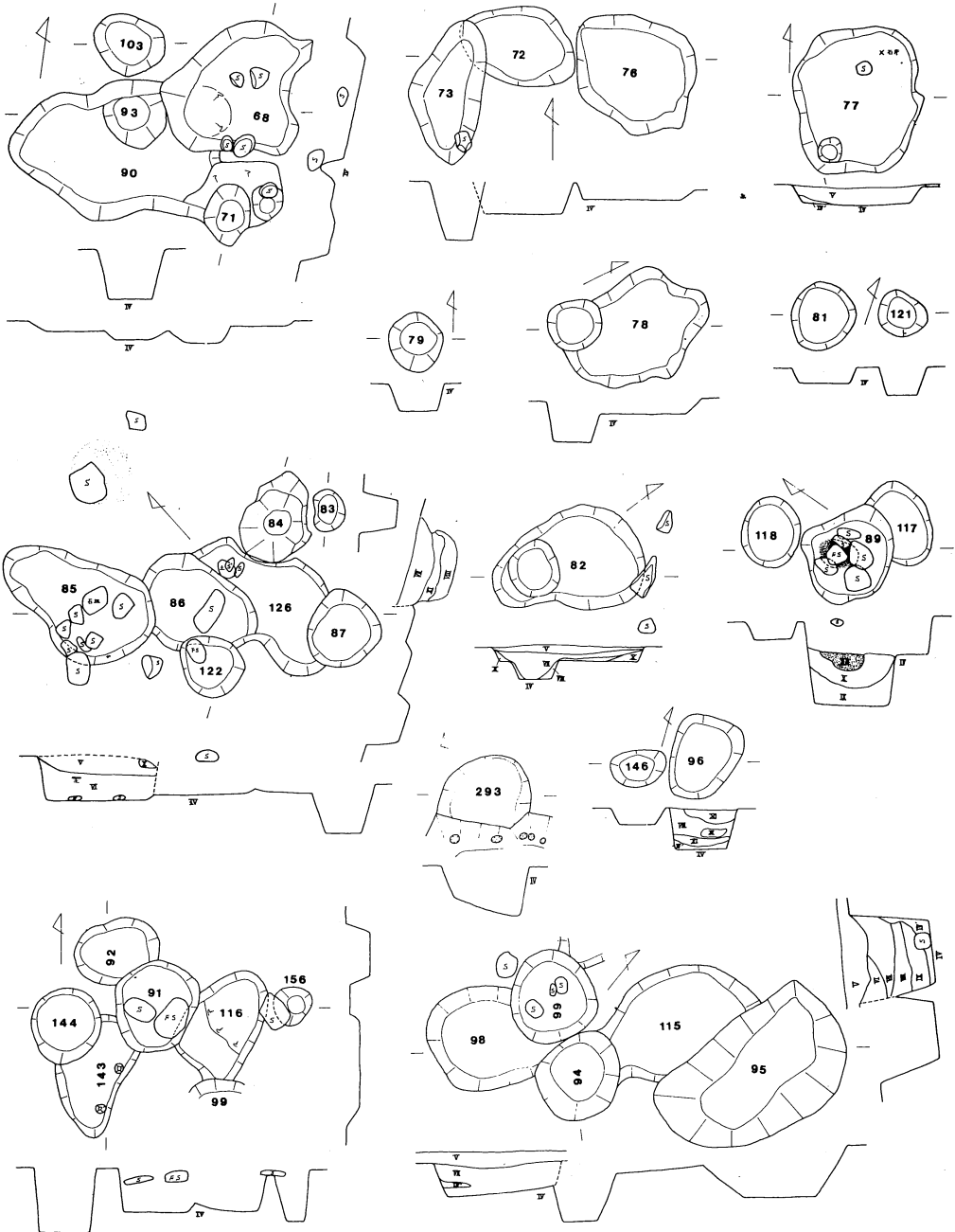


第188図 土坑実測図 (S =  $\frac{1}{80}$ )

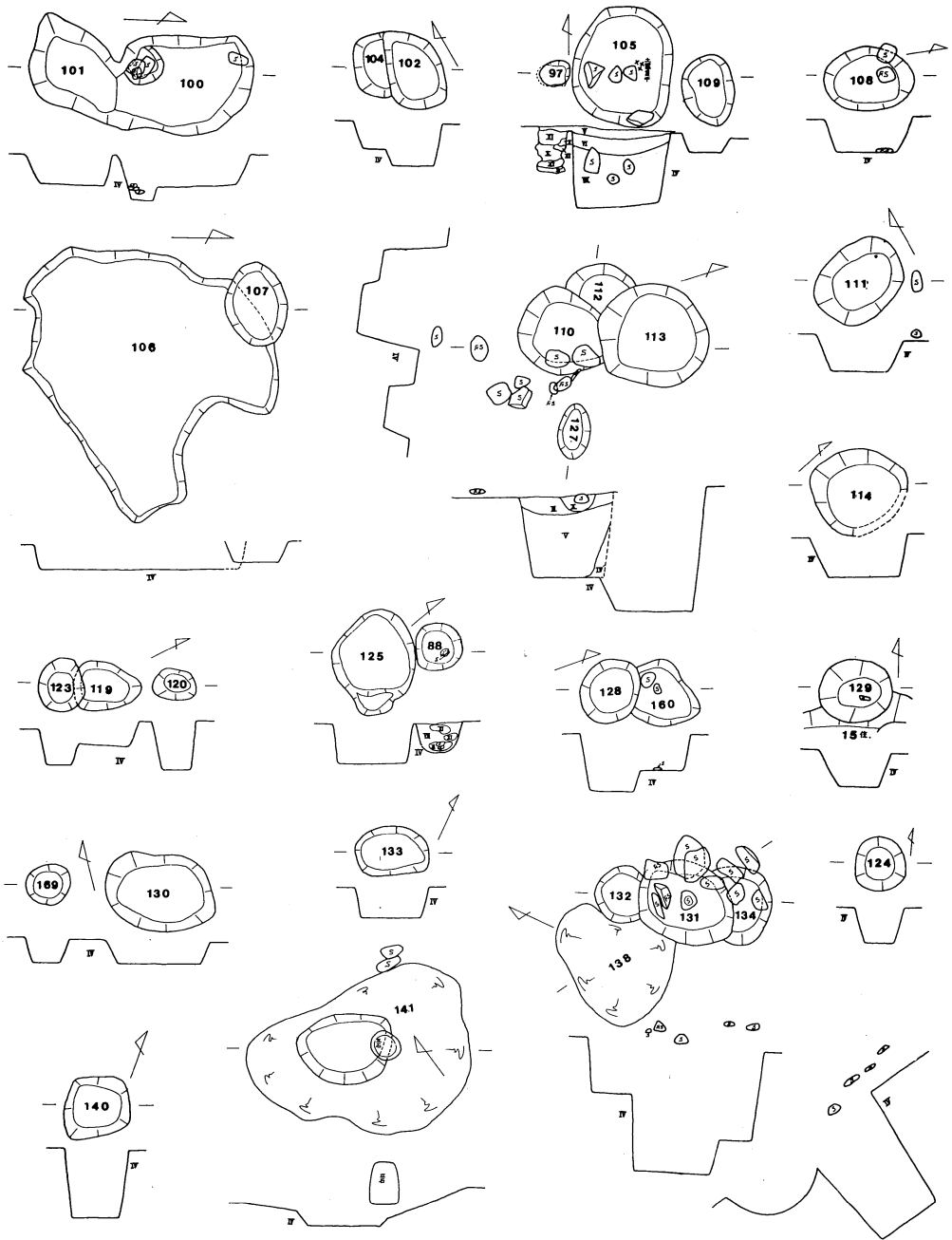
(註) III～漸移層, IV～ローム層, IV～ロームふらん土, V～暗褐色土 (ローム粒・炭化物含), IV～暗褐色土 (ローム粒, ロームブロック含), VII～黒色土 (ローム粒・炭化物含む), VIII～暗褐色土 (ローム粒・炭化物含), IX～黒色土, X～ロームブツク  
 XI～炭化物層, XII～焼土層



第189图 土坛实测图 (S =  $\frac{1}{80}$ )

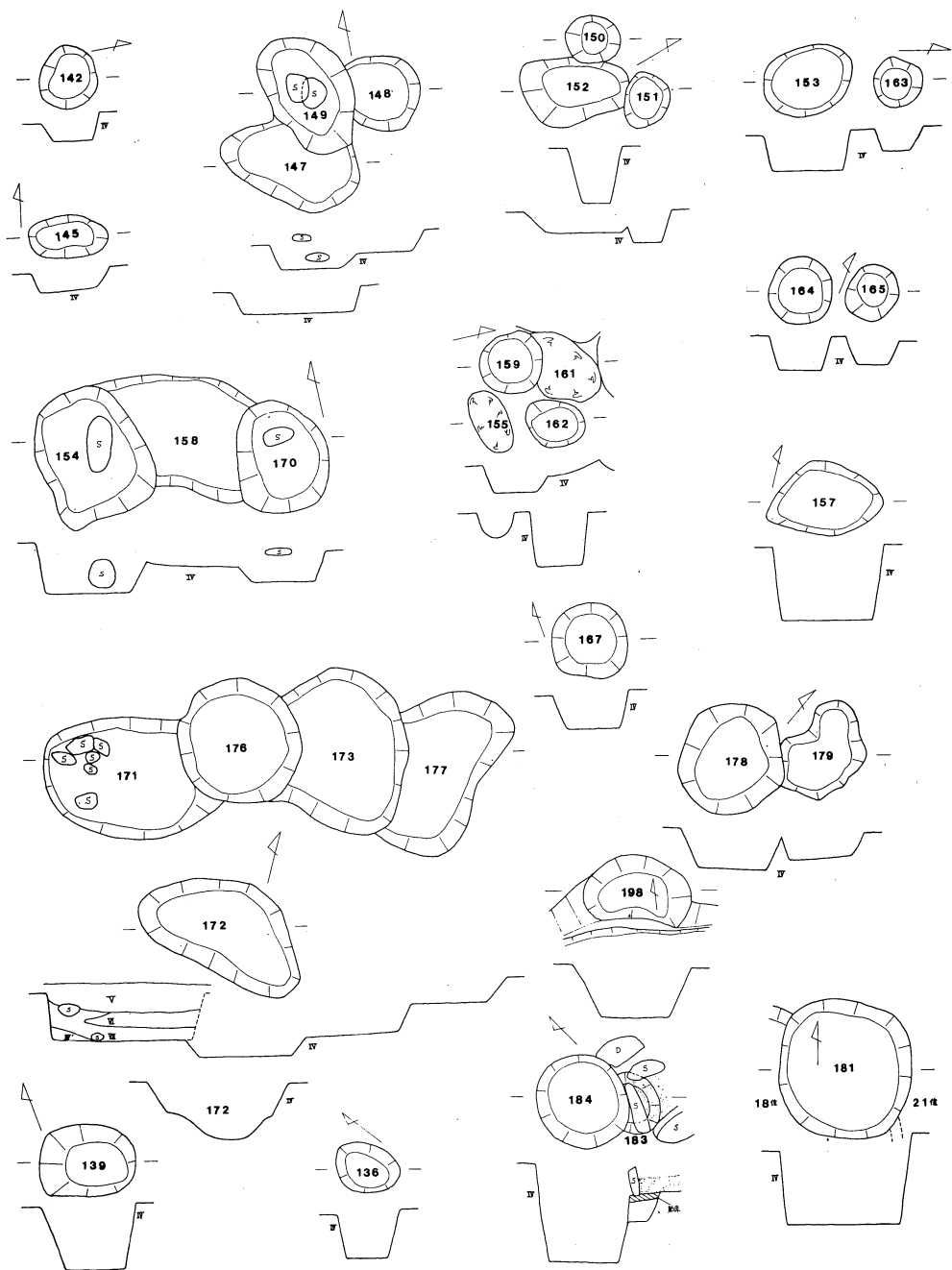


第190图 土坑实测图 ( $S = \frac{1}{80}$ )

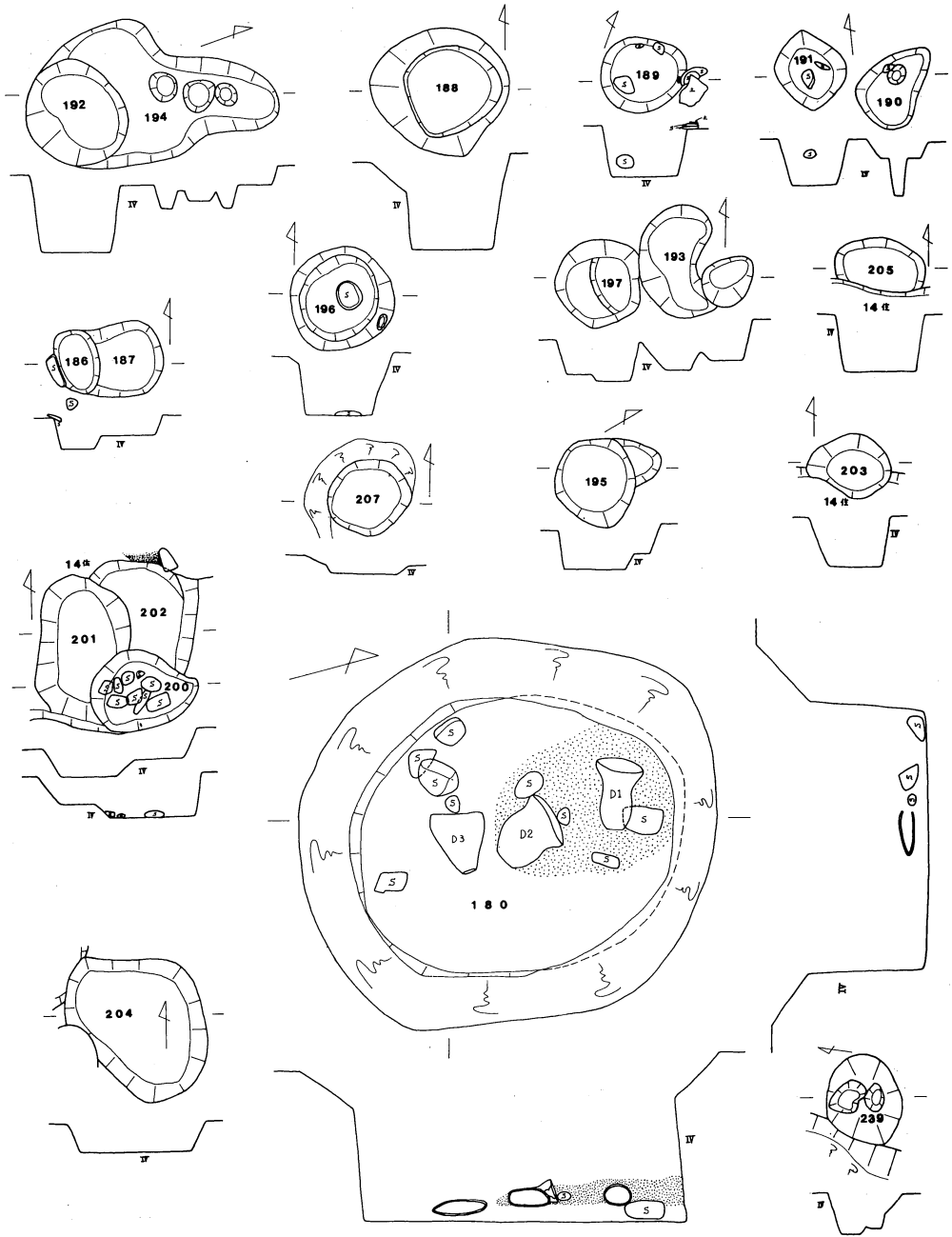


第191图 土坛实测图 (S = 80)



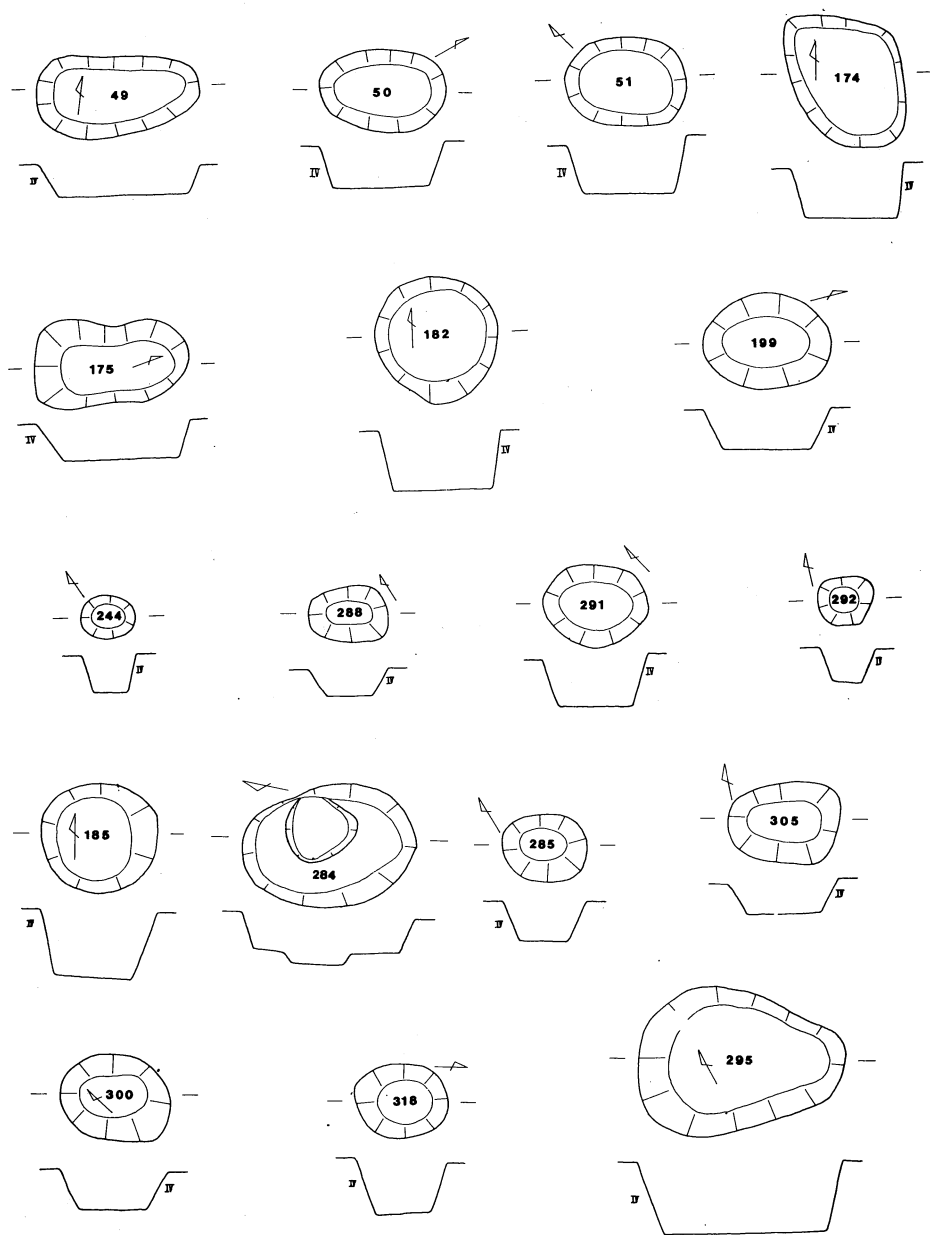


第192図 土塚実測図 ( $S = \frac{1}{80}$ )

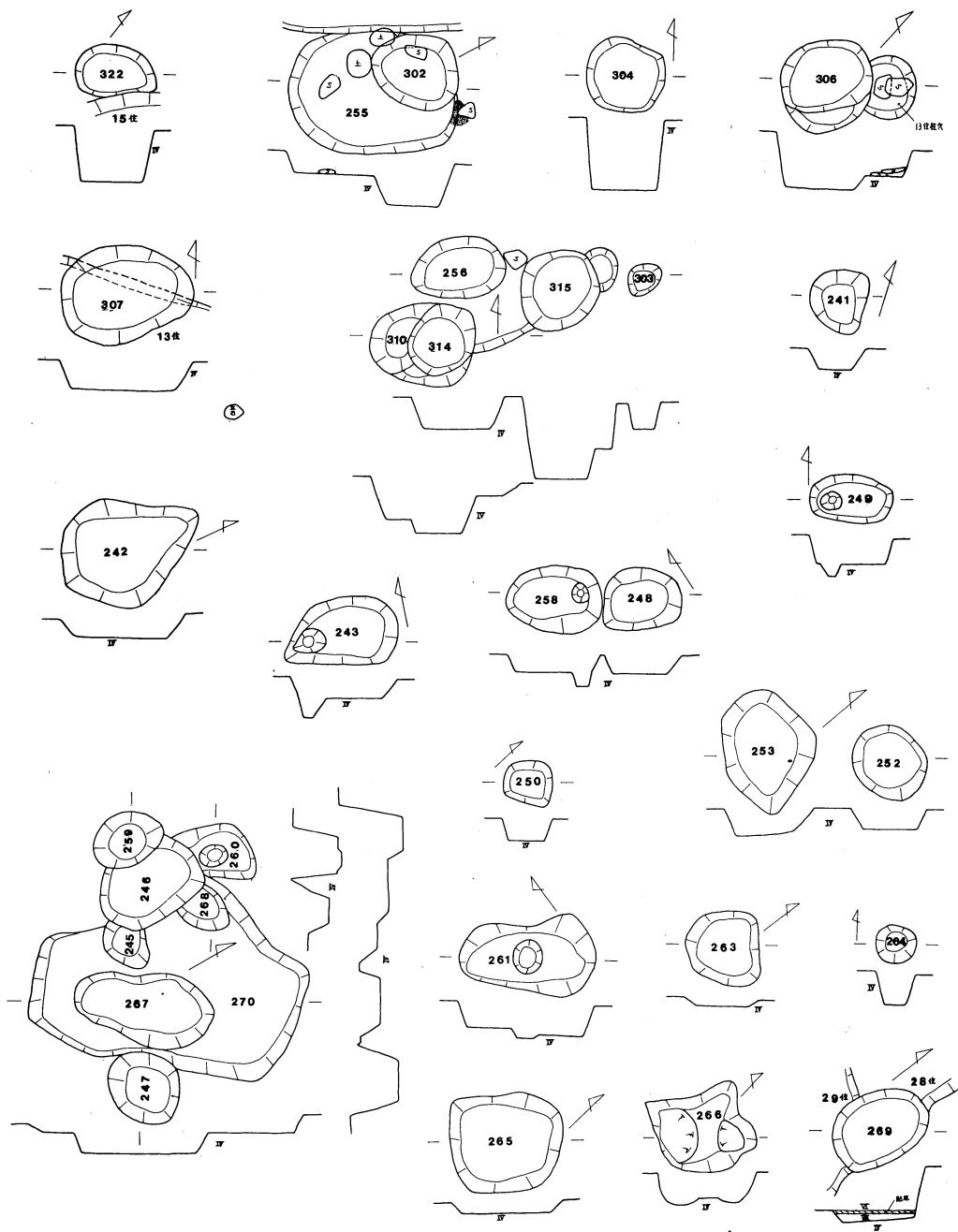


第193图 土坑实测图 ( $S = \frac{1}{80}$ )

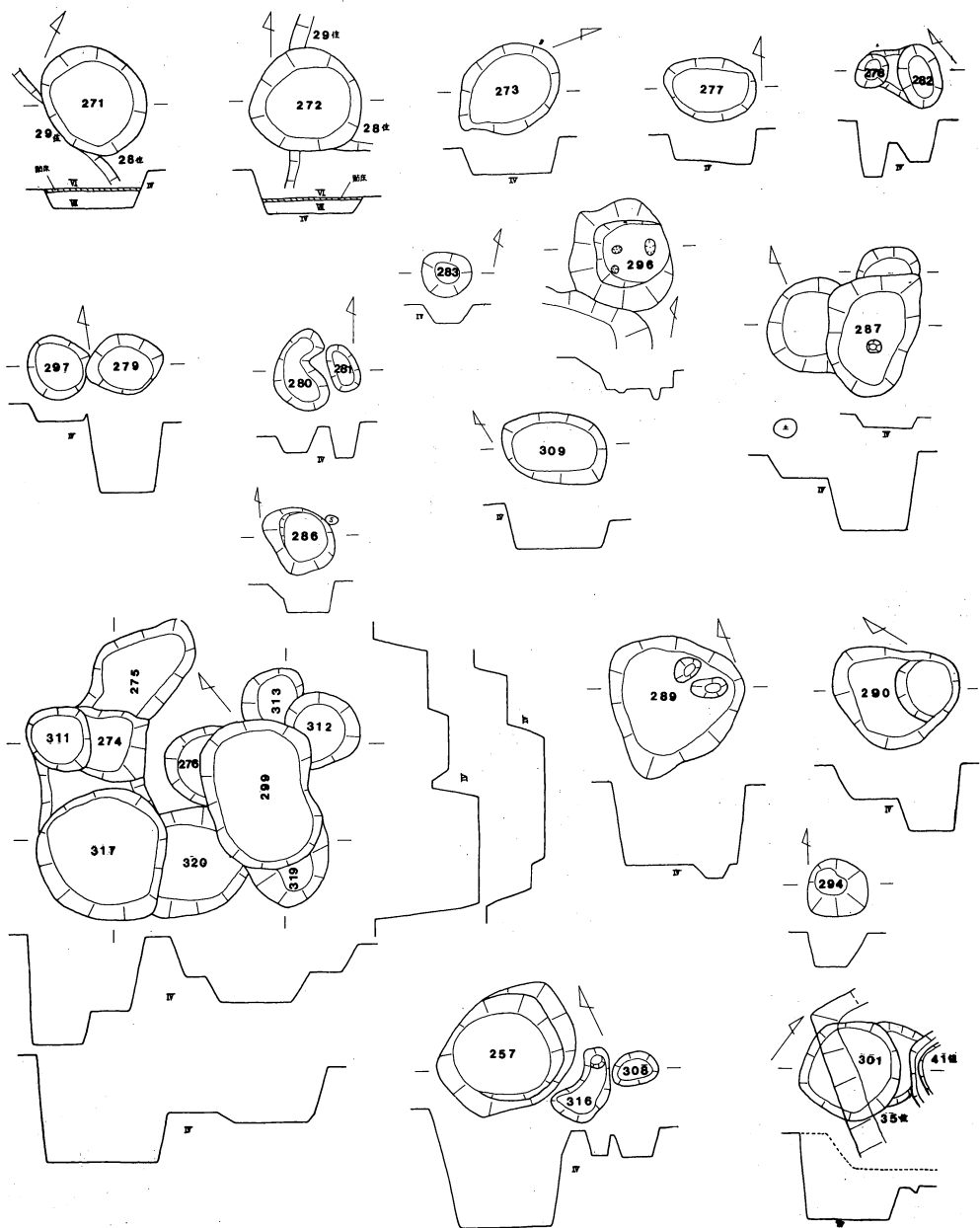




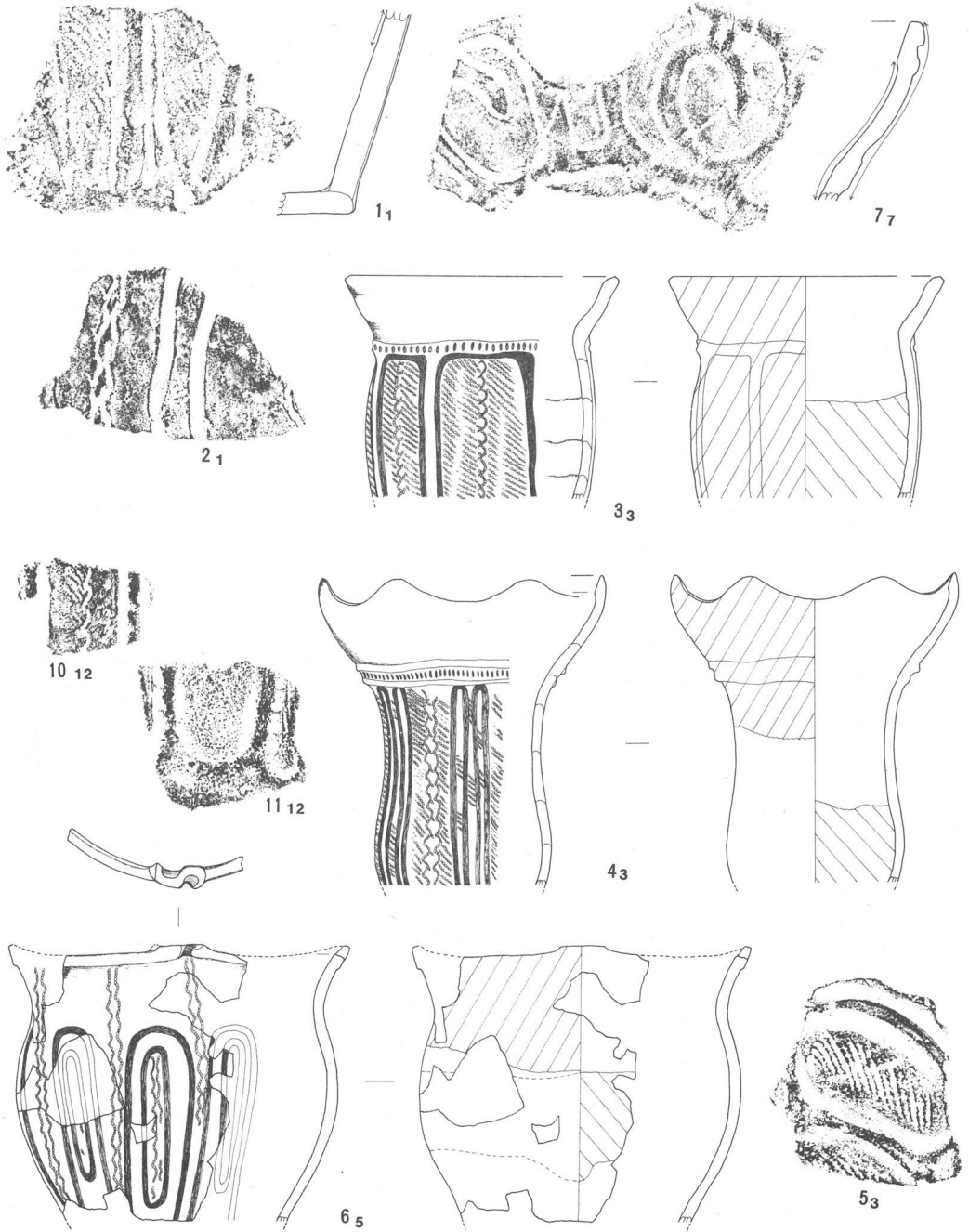
第195图 土坑实测图 (S=1/80)



第196图 土坑实测图 ( $S = \frac{1}{80}$ )



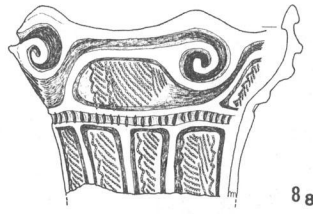
第197图 土坛实测图 (S =  $\frac{1}{80}$ )



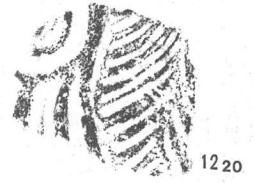
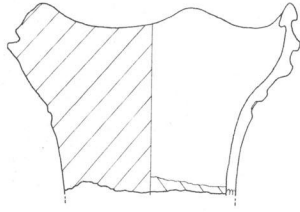
第198図 土坑出土土器 (3, 4, 6は $S = \frac{1}{8}$ , その他は $S = \frac{1}{3}$ )

(註) 実測図中、土器断面の↑は、外面はすず、内面はおこげの付着状態を示す。

▨は、すず、▧はおこげを示し、中央より左が外面、右が内面を意味する



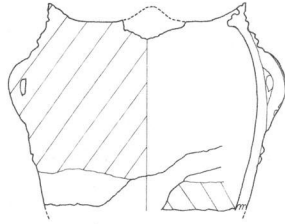
88



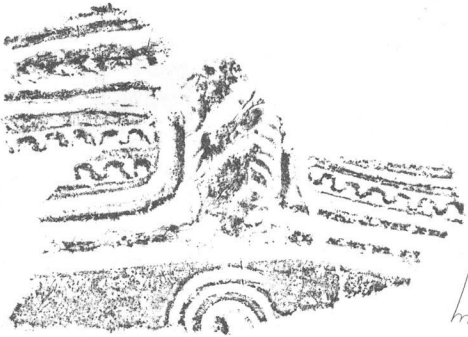
1220



99



1422



1321



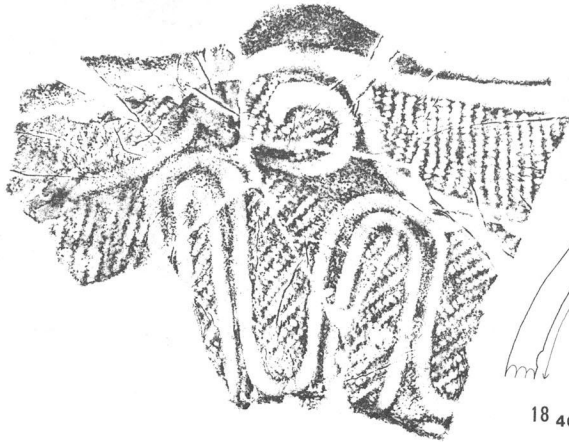
1535



1635



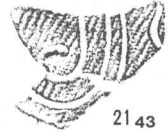
2043



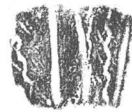
1840



1940



2143



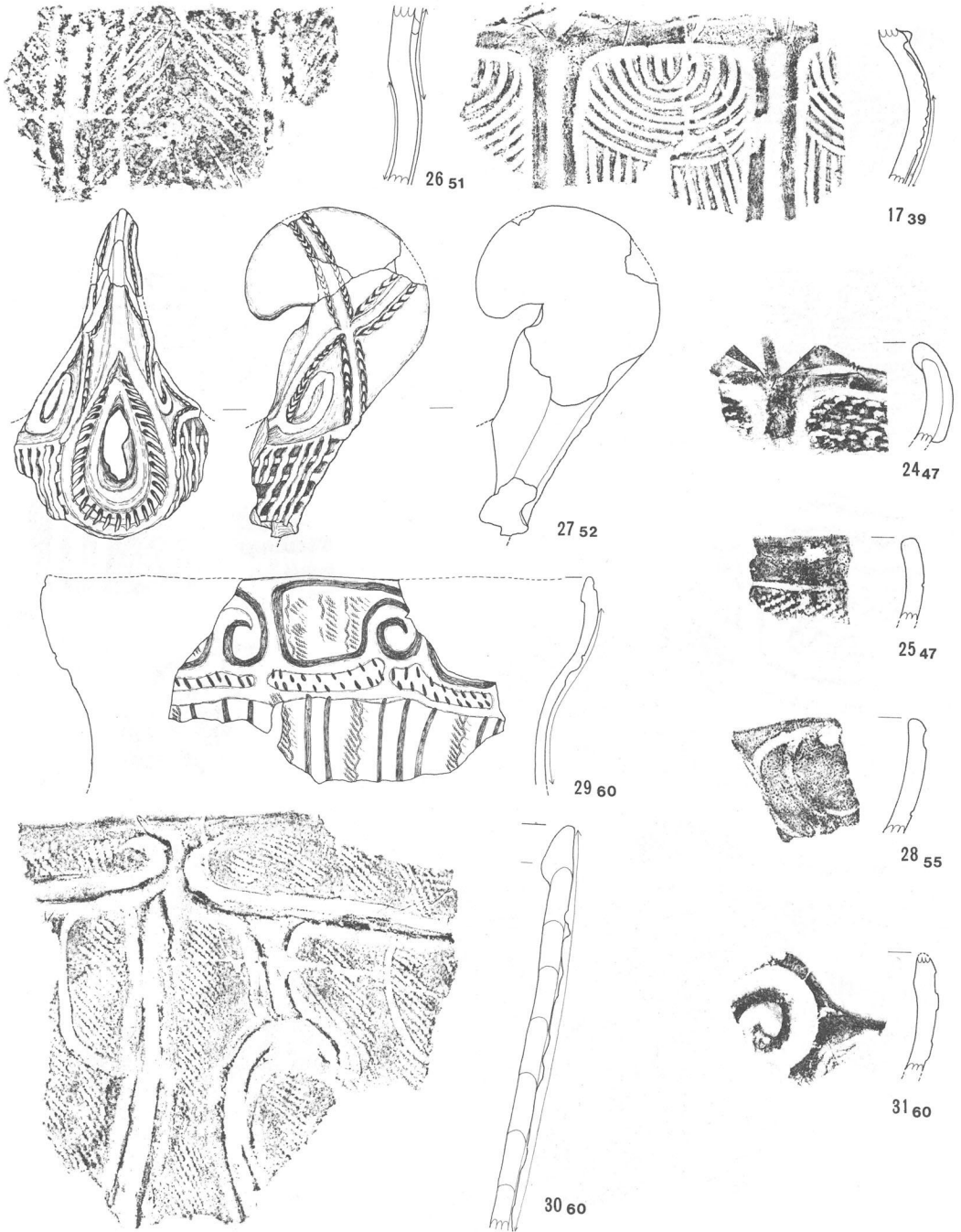
2246



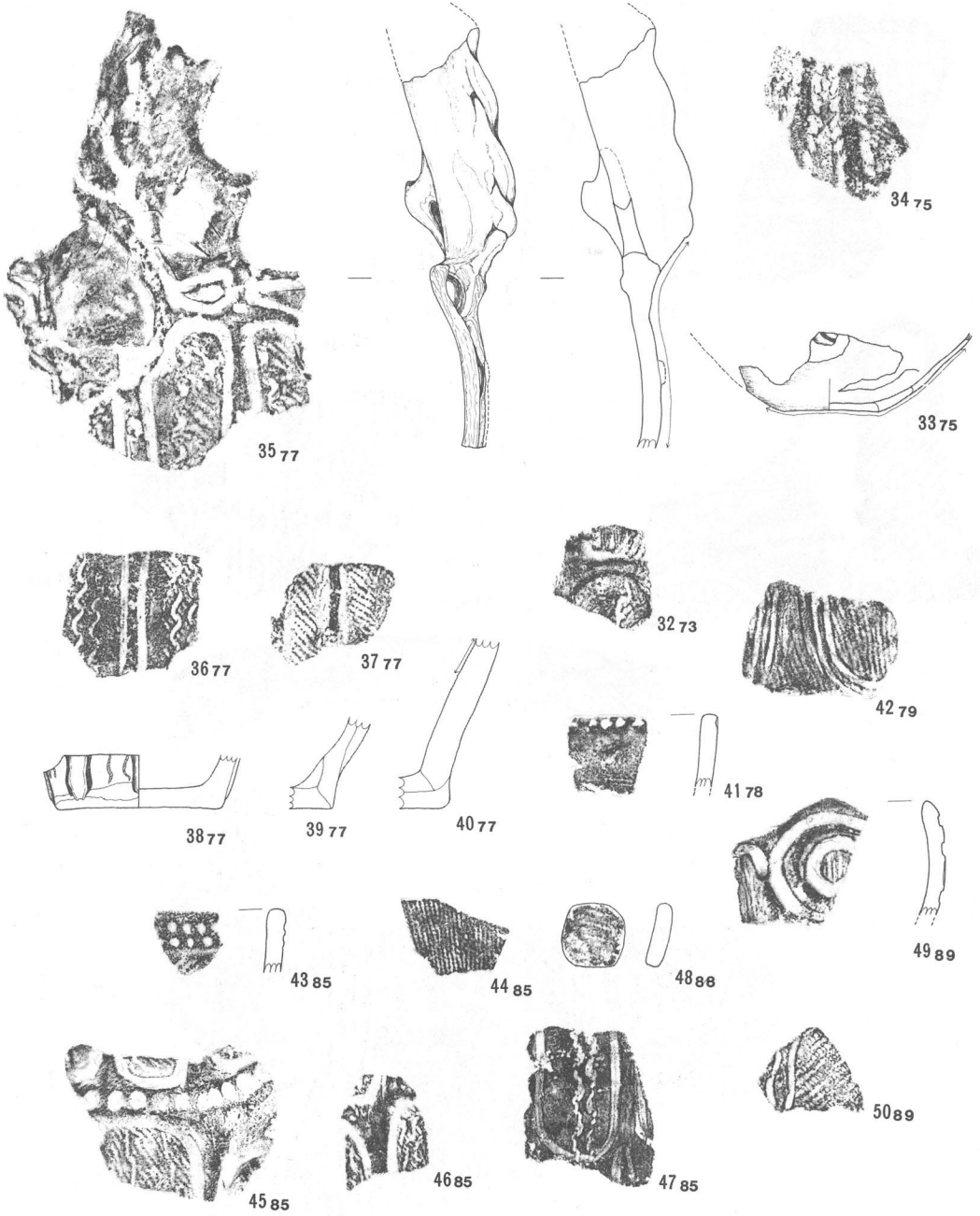
2346

第199図 土壇出土土器 (8・9はS =  $\frac{1}{8}$ , その他はS =  $\frac{1}{3}$ )

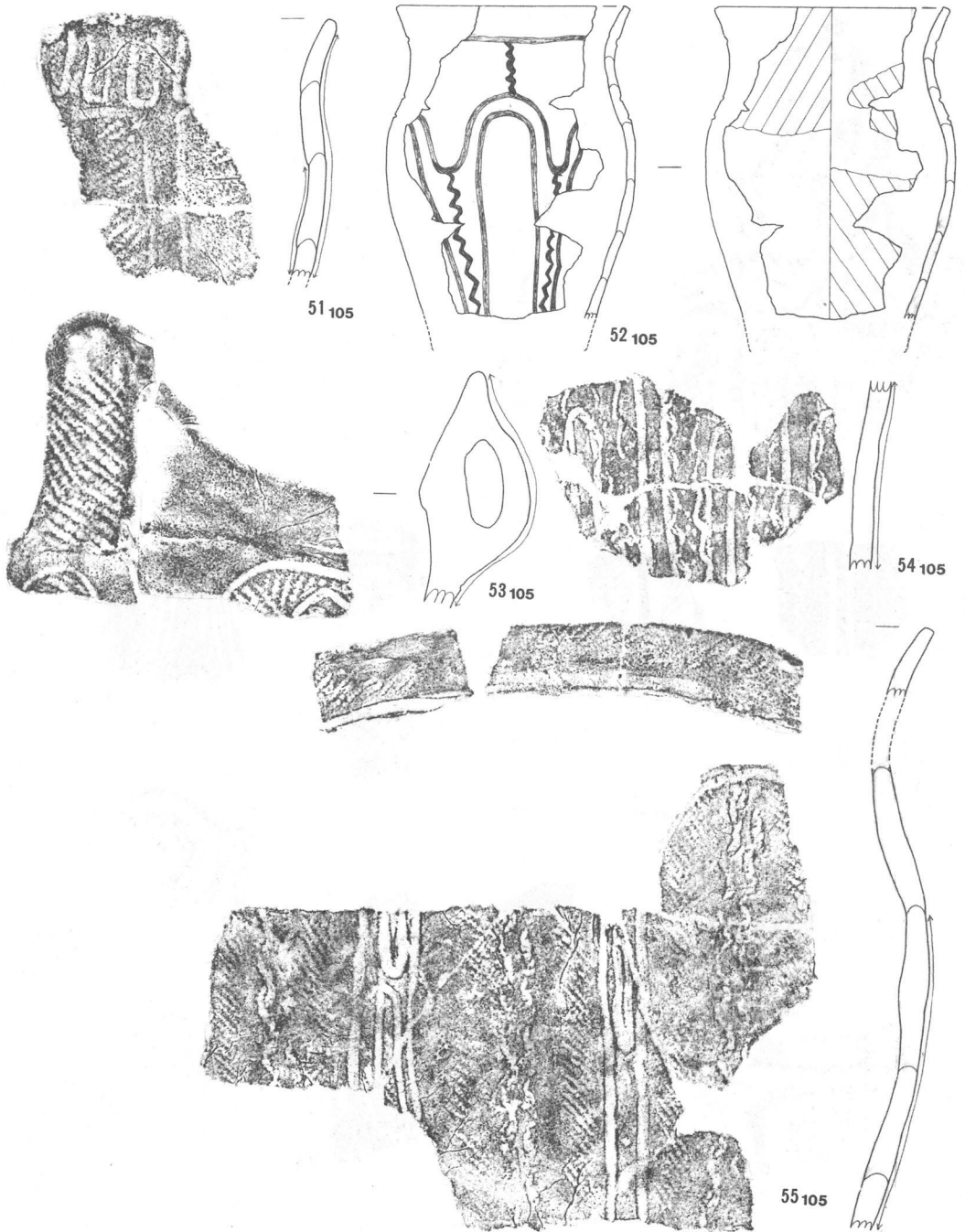




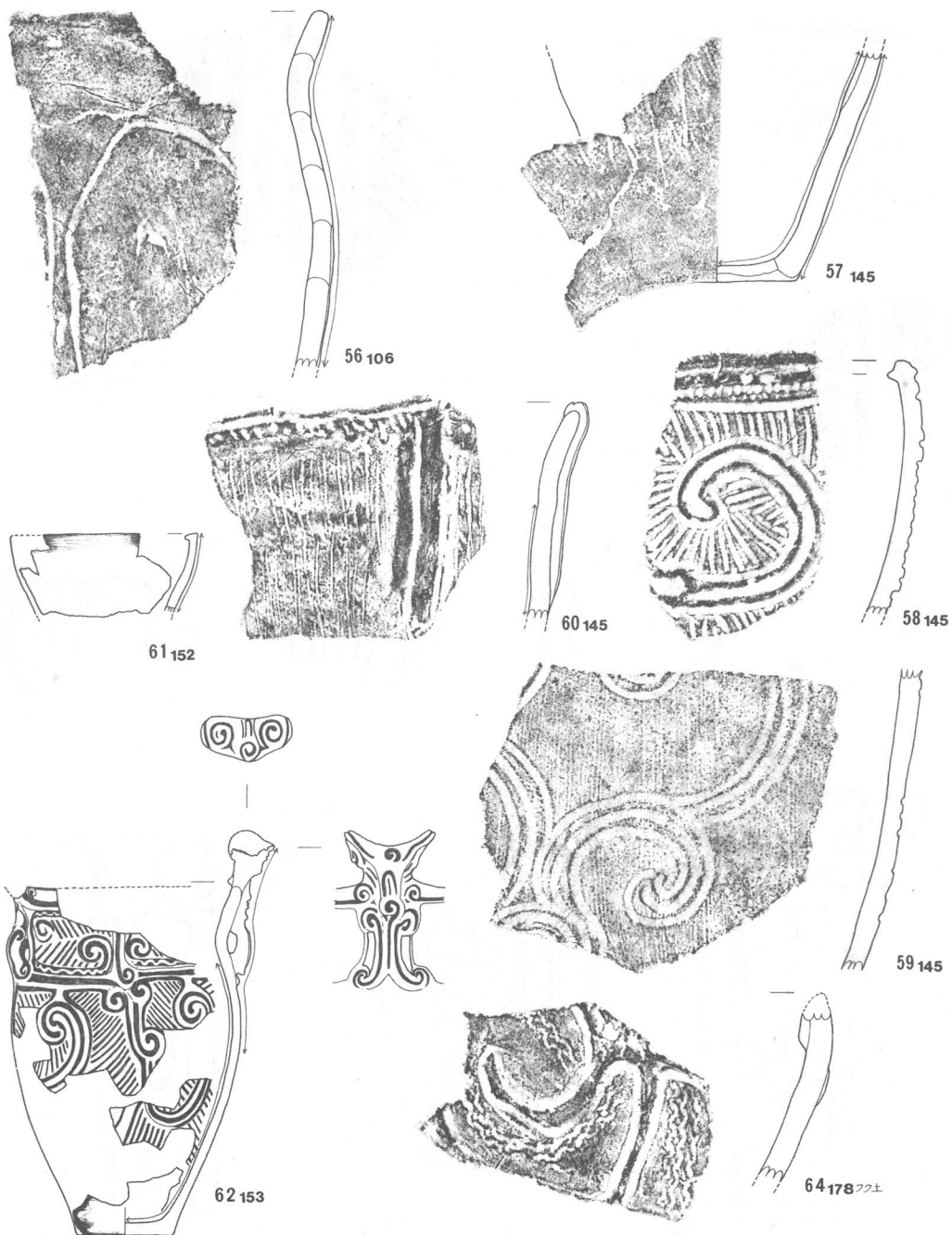
第200図 土坑出土土器 (29のみS =  $\frac{1}{8}$ , その他はS =  $\frac{1}{3}$ )



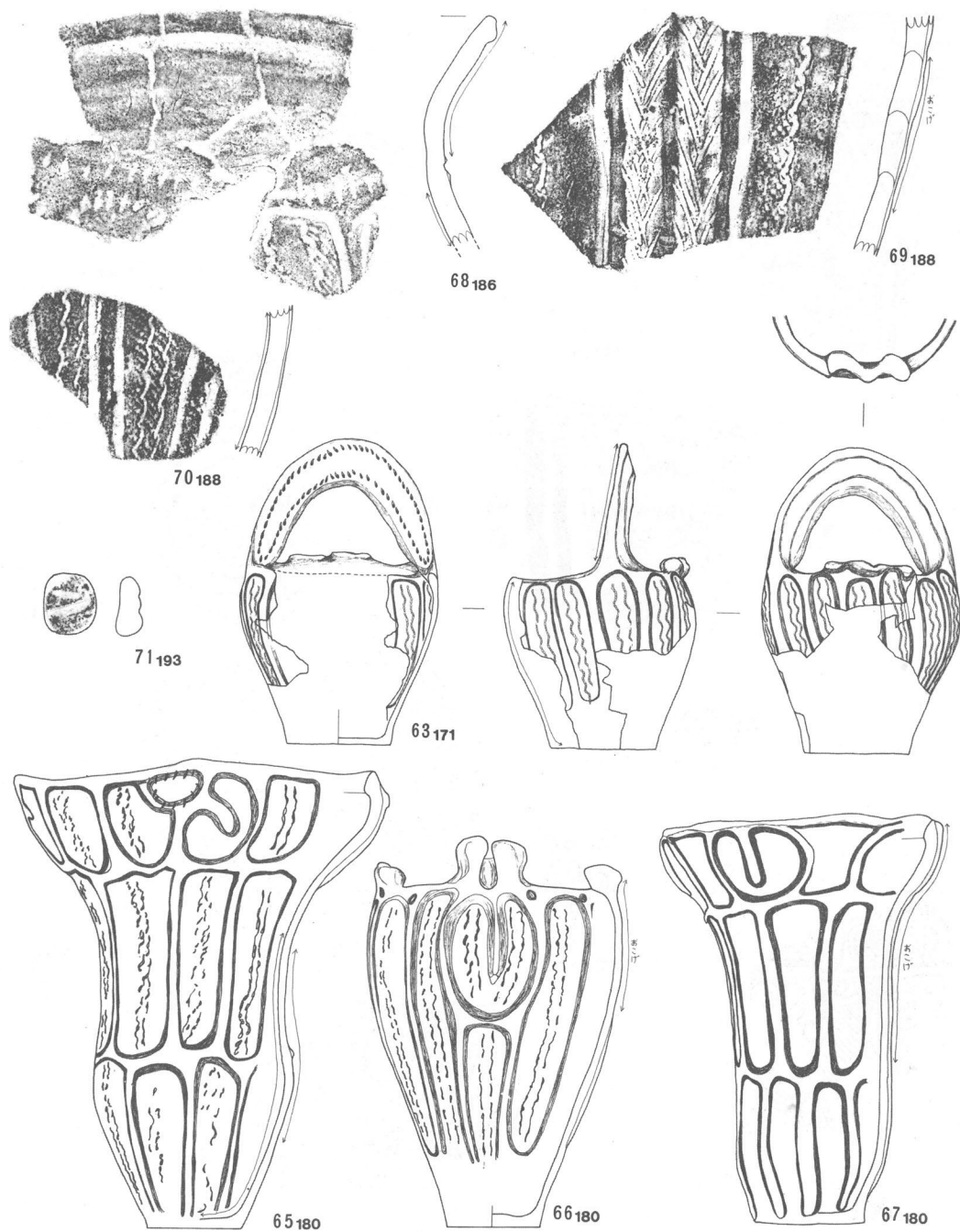
第201図 土壇出土土器 (33のみS =  $\frac{1}{8}$ , その他はS =  $\frac{1}{3}$ )



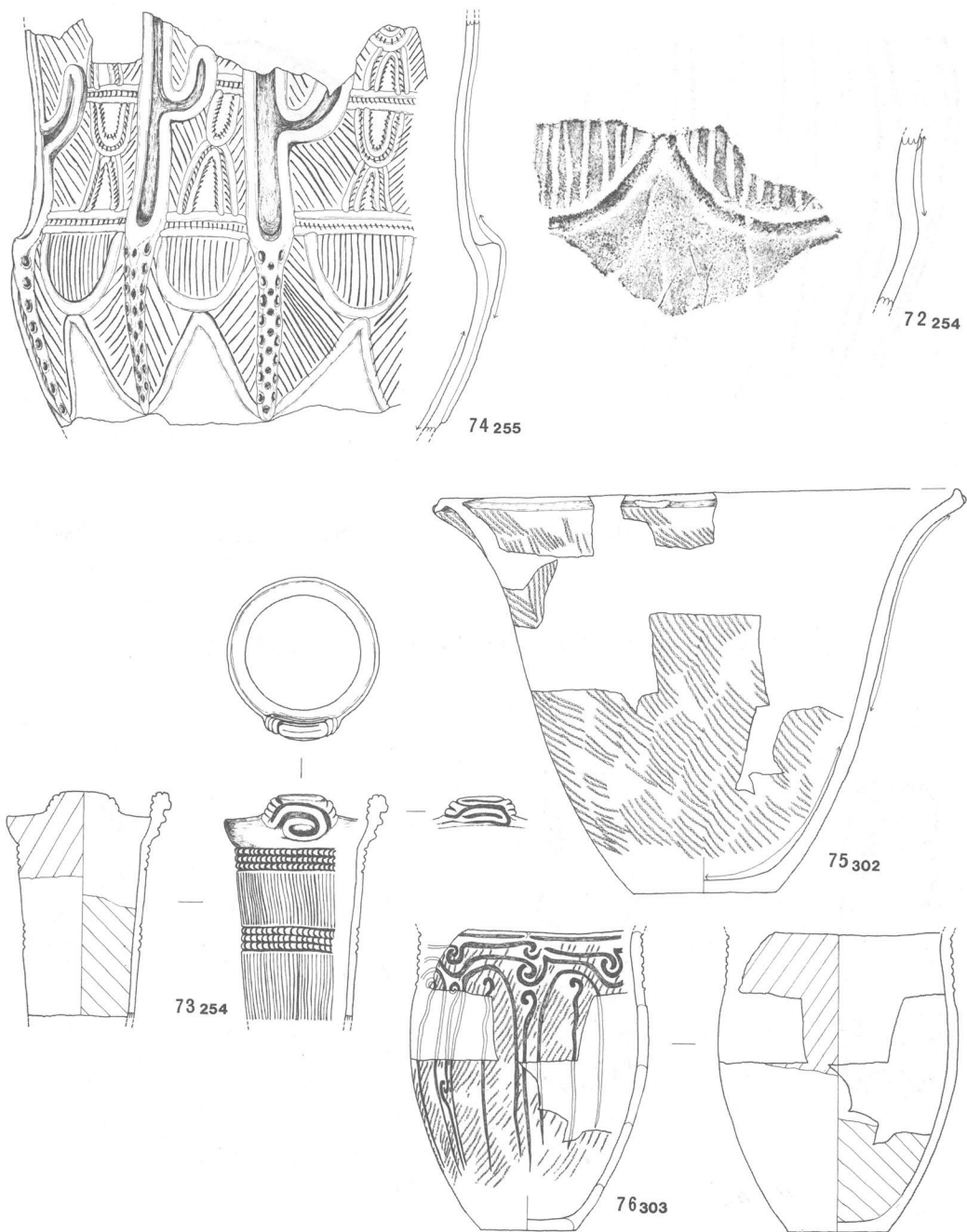
第202図 土壇出土土器 (52のみS =  $\frac{1}{8}$ , その他はS =  $\frac{1}{3}$ )



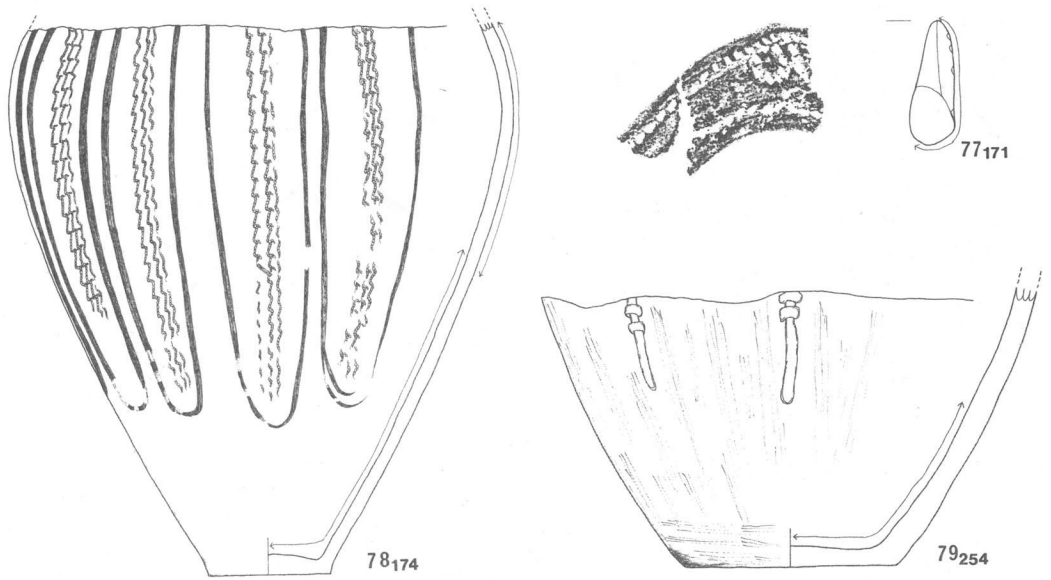
第203図 土壇出土土器 (61・62はS =  $\frac{1}{8}$ , その他はS =  $\frac{1}{3}$ )



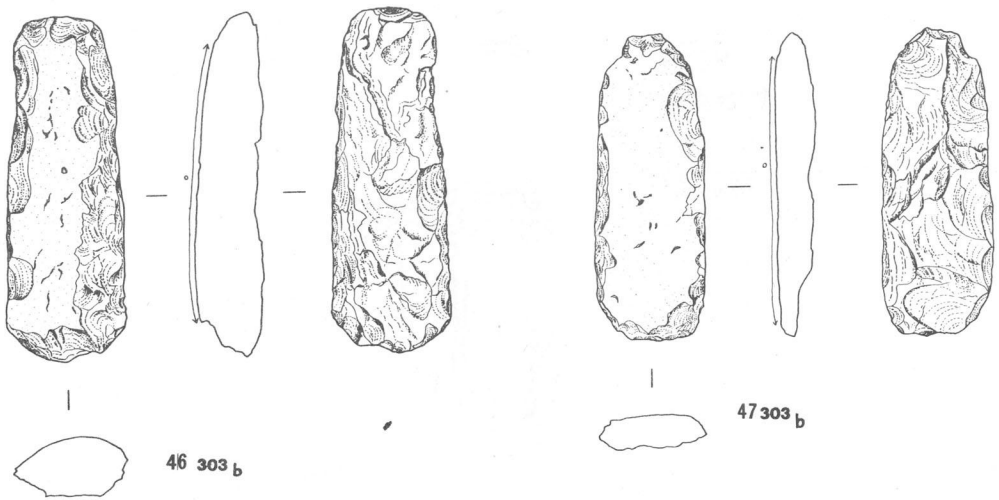
第204図 土壇出土土器 (63・65~67は $S = \frac{1}{8}$ , その他は $S = \frac{1}{3}$ )



第205図 土壇出土土器 (72のみ $S = \frac{1}{3}$ , その他は $S = \frac{1}{8}$ )

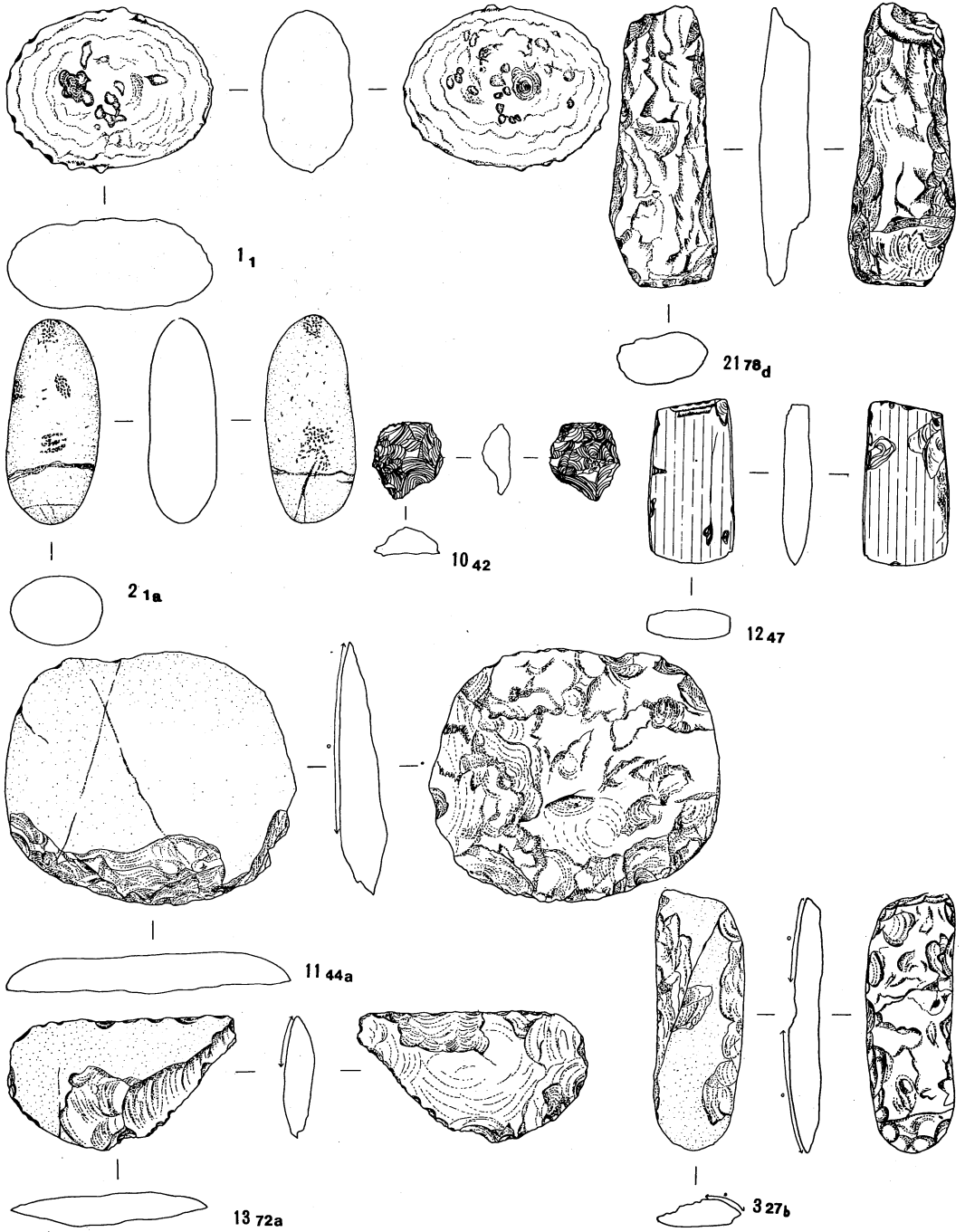


第205図 土壇出土土器 (78のみ $S = \frac{1}{8}$ , その他は $S = \frac{1}{3}$ )



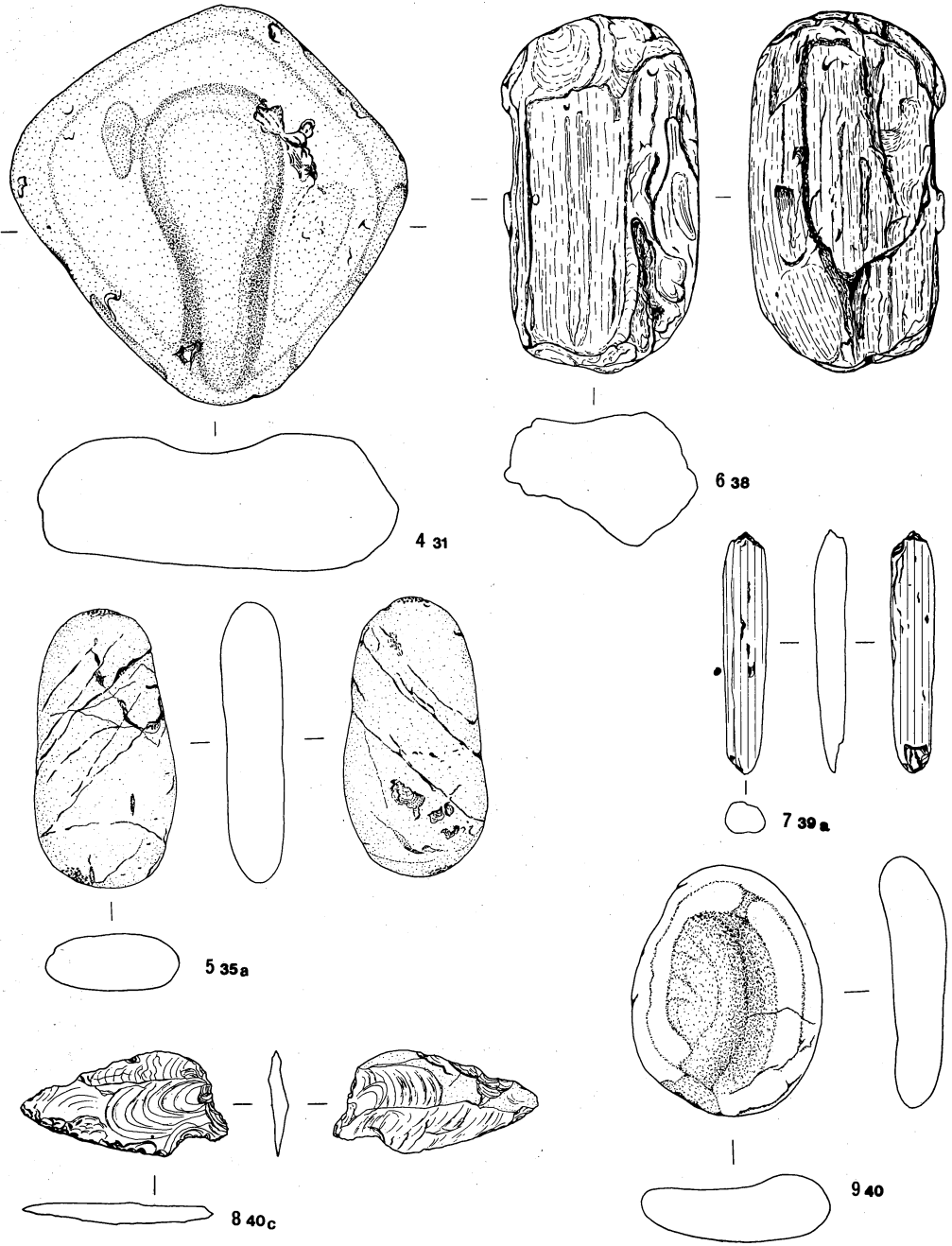
第207図 土壇出土石器 ( $S = \frac{1}{3}$ )

(註) 実測図断面図中,  $\leftrightarrow$  は, 自然面を意味する。

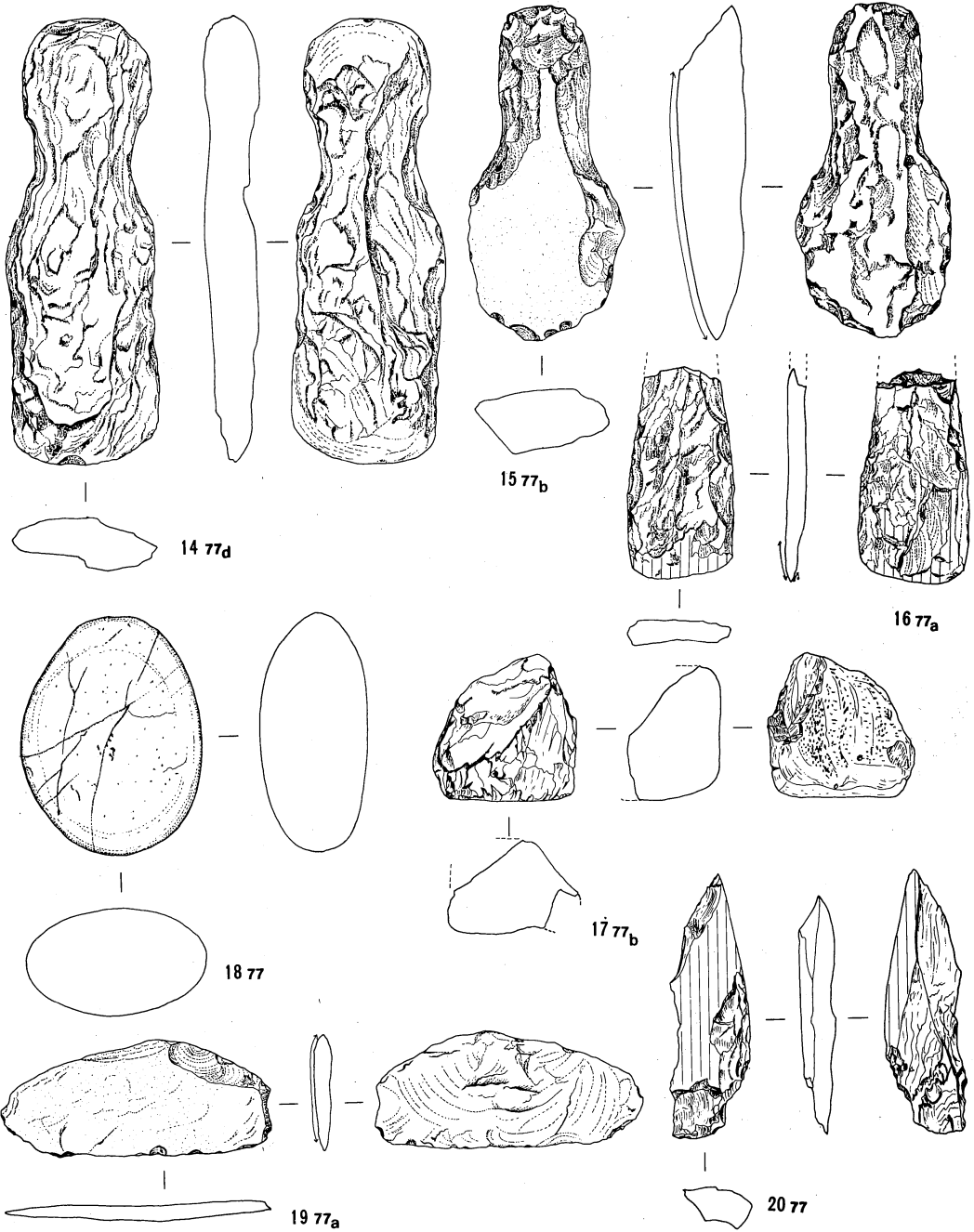


第208图 土坛出土石器 (S = 1/3)

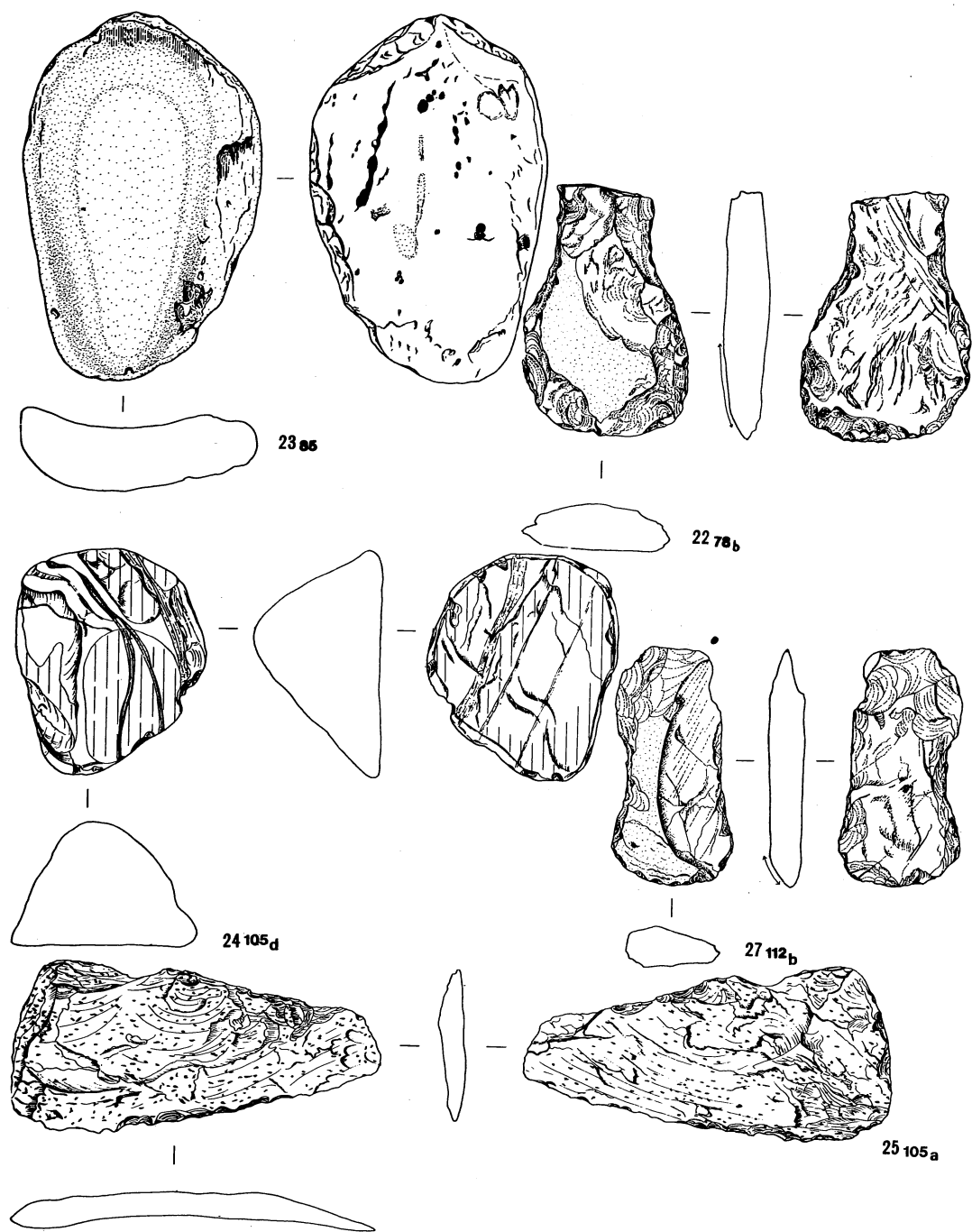




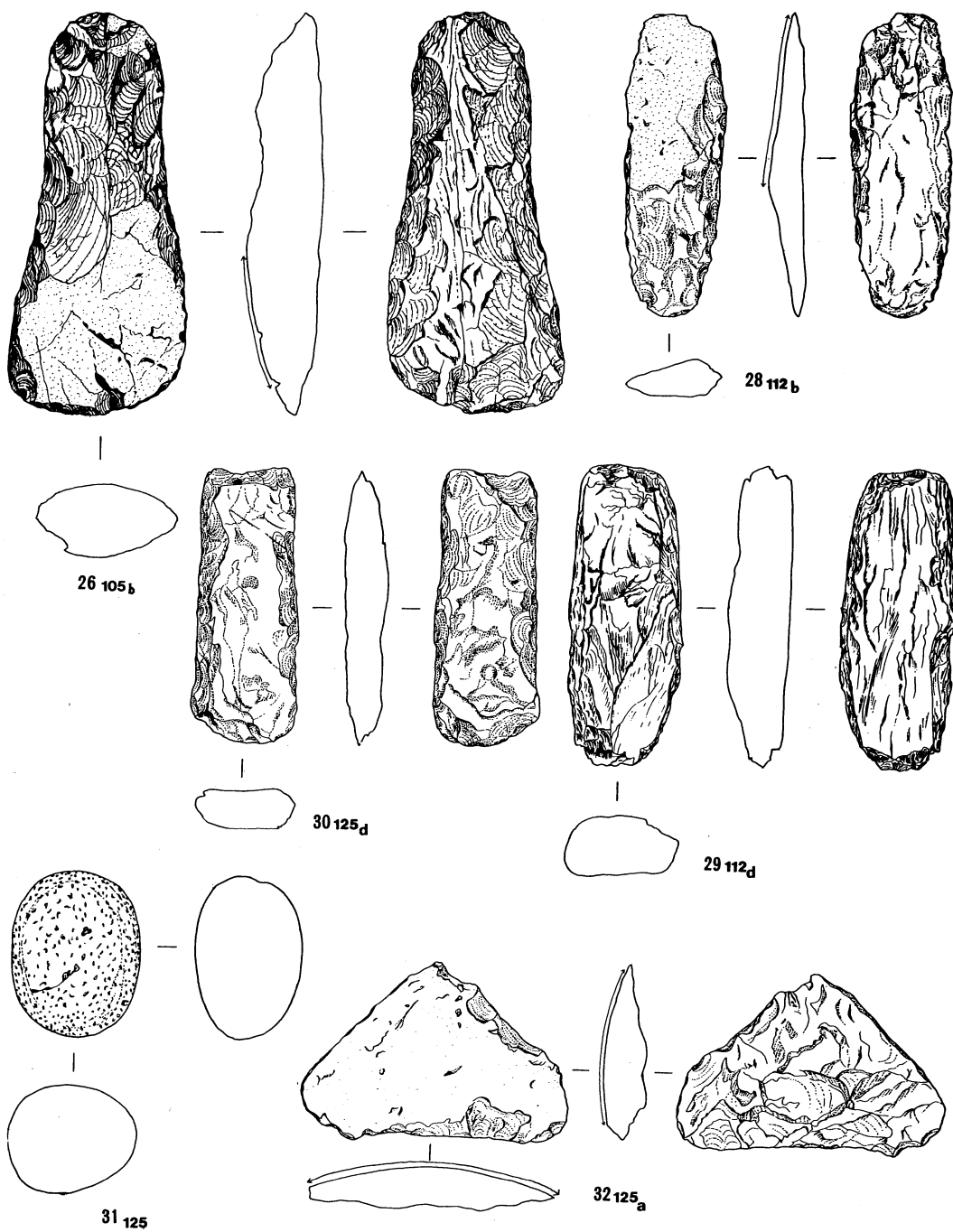
第209図 土塚出土石器（4・6・9は $S = \frac{1}{8}$ ，その他は $S = \frac{1}{3}$ ）



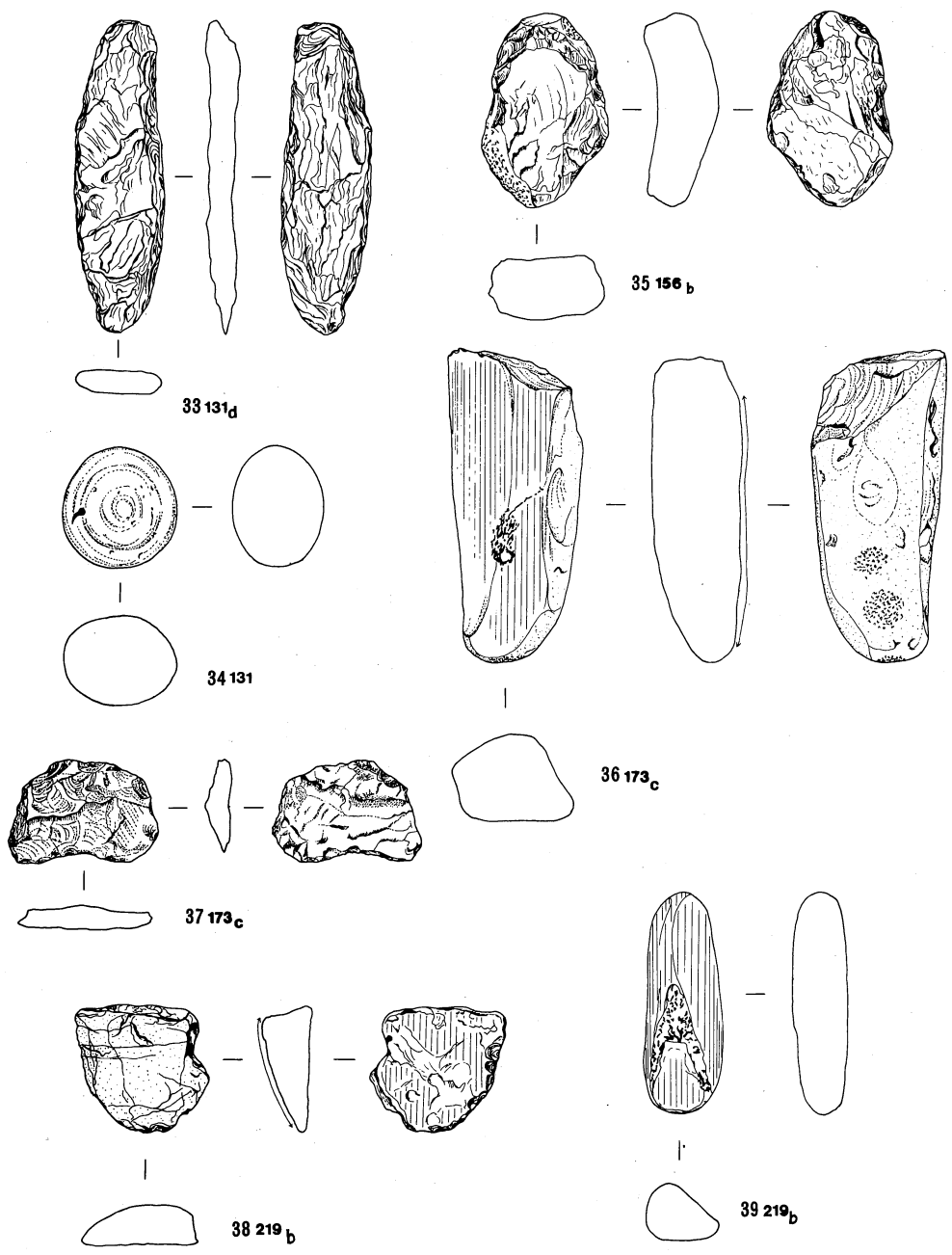
第210图 土坑出土石器 (S = 1/3)



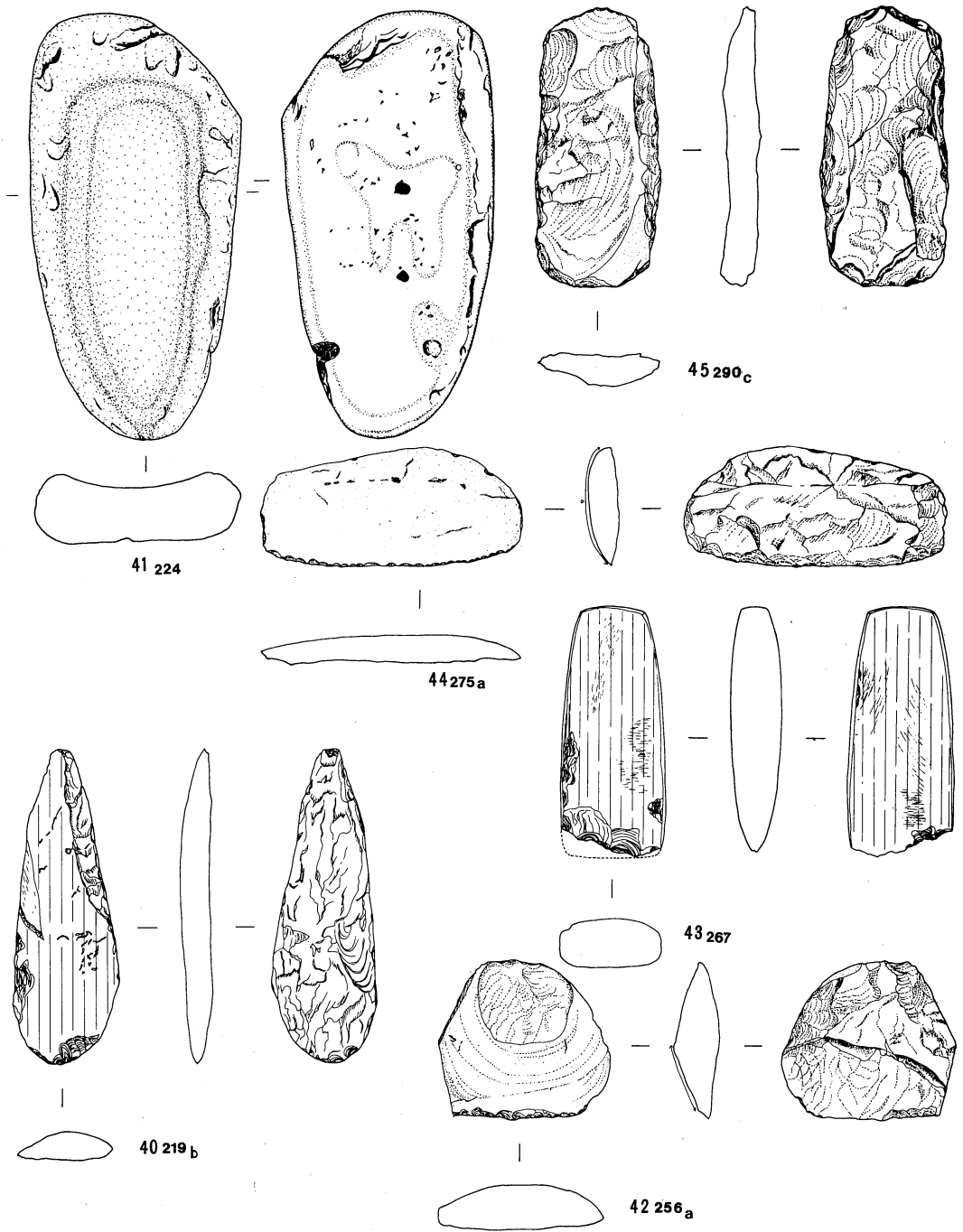
第211図 土坑出土石器 (23のみS =  $\frac{1}{8}$ , その他はS =  $\frac{1}{3}$ )



第212图 土坛出土石器 (S = 1/3)



第213图 土坑出土石器 (S = 1/3)



第214図 土坑出土石器 (41のみS =  $\frac{1}{8}$ , その他はS =  $\frac{1}{3}$ )

## 5 炭化遺体出土の土坑（第215図～218図）

今まで述べてきた土坑のなかで、特殊なものとして、炭化遺体を出土した土坑が4基ある。84, 88, 96, 97がそれである。これらの土坑は多くの土坑群の中に位置するもので、特別かけ離れたといった位置関係はない。4基の土坑は同一時代のものと考えられ、土坑中より縄文中期の土器の細片が出土していることからして、縄文時代中期のものであることは間違いないところであろう。96は精査の結果、栗並びに不明遺体はなく木炭のみであった。

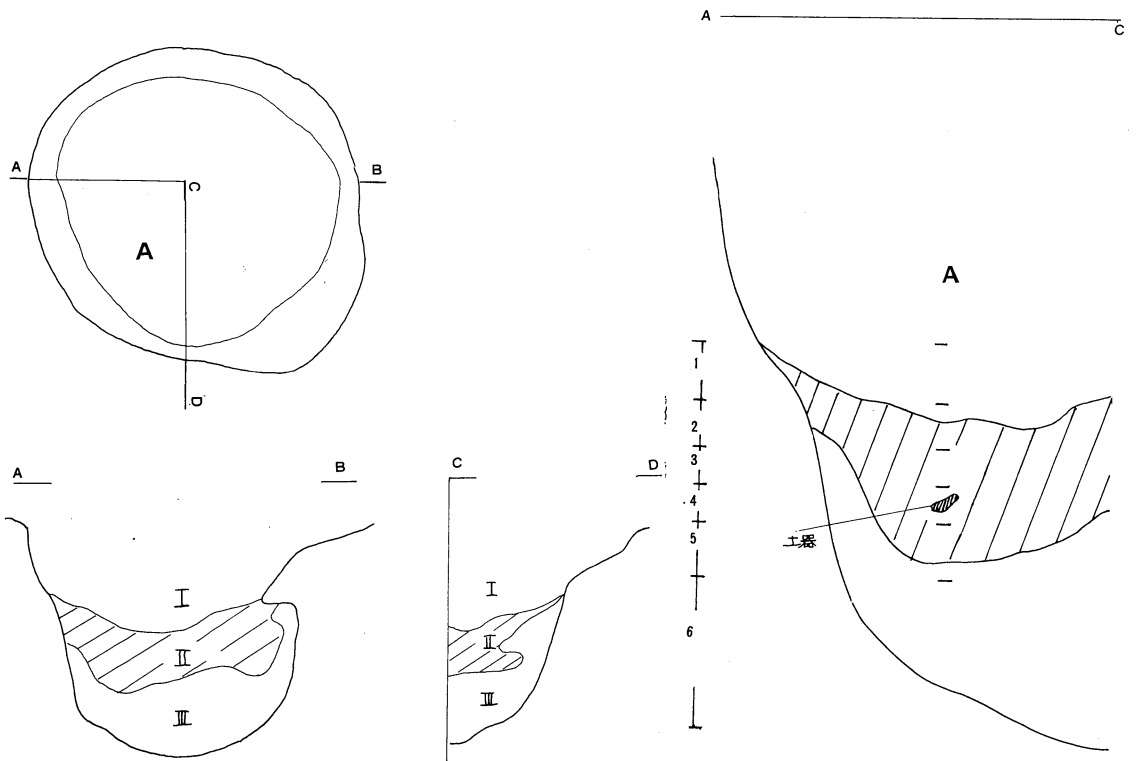
土坑の形状・炭化物の推積状態は一様でない。

出土した炭化遺体は栗と不明遺体である。不明遺体については木の実説、パン状炭化物説両者あり、今だ明確となっていない。図版24—右上のように楕円形を呈している。同定は今後の作業に待ちたいと思う。

### ① 土坑84（第215図，図版22）

当土坑は第20住居址の東にあり、土坑86, 126, 83に囲まれた状態である。平面形は95×85で楕円形に近い。底は丸底を呈し最も深い所で65cmを測る。壁は丸味を持ち一部袋状を呈している。

調査方法は土坑を4分割し、その1区（角）—A区のみを分層調査を行った。ボロボロで空



第215図 土坑84実測図（ $S = \frac{1}{20}$ ，右断面図 $S = \frac{1}{8}$ ）

気にふれるとすぐ壊れてしまうため、作業は非常に困難をきわめた。

土壌の層序はⅠ層—炭化物わずかに炭化物を含んでいる。Ⅱ層—炭化物層。Ⅲ層—暗褐色土で固くしまっており、炭化物はまったく検出されていない。となっており、第Ⅱ層中に炭化物が集中しており、塊状となっていた。出土した炭化物は表にみるとおり栗と不明遺体・木炭である。表にあらわしたものは土壌の約4分の1にあたるA区のもののみのものである。量が多く全体の精査はできなかったが、大体的見当はつくと思われる。

不明遺体一覧表にみるとおり、その重量は非常にバラついていることがわかる。単純に平均値をもって測ることは問題あるが目安として不明遺体総重量を平均値(257mg)でわってみると571個となり、土壌全体では2,300個体ほどのぼう大な個体数となる。

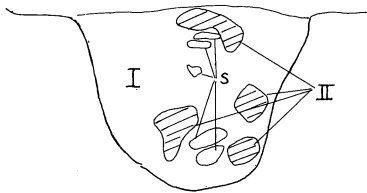
	絶 対 重 量 (g)						炭化物重量比 $\frac{\text{総炭化物}}{\text{土総炭化物}} \times 100$	炭化物中の クリ重量比 $\frac{\text{クリ}}{\text{総炭化物}} \times 100$	炭化物中の不明 遺体重量比 $\frac{\text{不明遺体}}{\text{炭化物}} \times 100$
	栗	不明遺体	木炭	総炭化物	土	土器片 ( )内は個体 数			
1	8.7	8.5	1.1	18.3	422	0	4.2	47.5	46.4
2	29.6	37.0	5.7	72.3	1,356	0	5.1	40.9	51.2
3	60.7	69.4	11.4	141.5	1,060	6.8(1)	11.8	42.9	49.0
4	15.5	28.7	4.1	48.3	792	29.2(1)	5.8	32.1	59.4
5	15.6	3.2	0	3.8	395	0	1.0	15.8	84.2
	115.1	146.8	22.3	284.2	4,025	36.0(2)	7.0	40.5	51.7
6	3,100								

土壌84—A区の推積物比較表(重量1～5層は水洗後乾燥したものである)

① 土壌88(第216図, 図版23)

当土壌は土壌84の南西にあり, 土壌125と接している。

平面形はほぼ円形で径60cmをはかる。底は丸底でU字状の断面を呈している。土壌内は暗褐色土(Ⅰ層)が充満し, 部分的に炭化物(Ⅱ層)が入っている。Ⅰ層中より細片のためはつきりしないが縄文式土器が6片出土している。



第216図 土壌88断面図 (S = 1/20)

炭化物の出土状態が層をなしていないため, 炭化物を大きな塊で一括取り上げてある。

表にみるとおり, クリが非常に多い。不明遺体は総量で4.5g, 個体数にして17.5個体分である。クリは完形に近い状態のものが多かったがほとんどがぐずれてしまっている。



絶 体 重 量 (g)				炭化物中のクリ 重量比	炭化物中の不明遺体の 重量比
ク リ	不明遺体	木 炭	総炭化物	$\frac{\text{クリ}}{\text{総炭化物}} \times 100$	$\frac{\text{不明遺体}}{\text{総炭化物}} \times 100$
95.0	4.5	2.3	101.8	93.3	

土塚88出土炭化物比率表（重量は水洗後乾燥したものである）

### ③ 土塚96

当土塚は第20号住居址の東、土塚88の南西にあり土塚146に接している。上部から多量の炭化物を検出したので、精査を行い、土塚中の炭化物の選別を試みたが、クリ・不明遺体の炭化遺体はまったく検出されなかった。縄文中期の土器片が4片出土している。

### ④ 土塚97（第217図，図版24）

当土塚は第13号住居址竈の東側にあり、土塚上部には封土がおおっていた。

平面プランは75×50cmの長楕円形を呈し、筒状をなしているが、壁は非常に凹凸が激しい。底はほぼ平らで、深さは92cmを測る。

土塚の層序はⅠ層—炭化物層、Ⅱ層—ロームブロック  
Ⅲ層—ロームふらん土である。断面図にみるとおり、炭化物層は上部と下部とに大きく分かれその間にはロームブロックが間層として入っている。またロームブロック中に炭化物がブロックとしてはさまっている。ロームブロック中からもわずかであるが炭化物が検出されている。

炭化物中より縄文中期土器片が4点出土している。

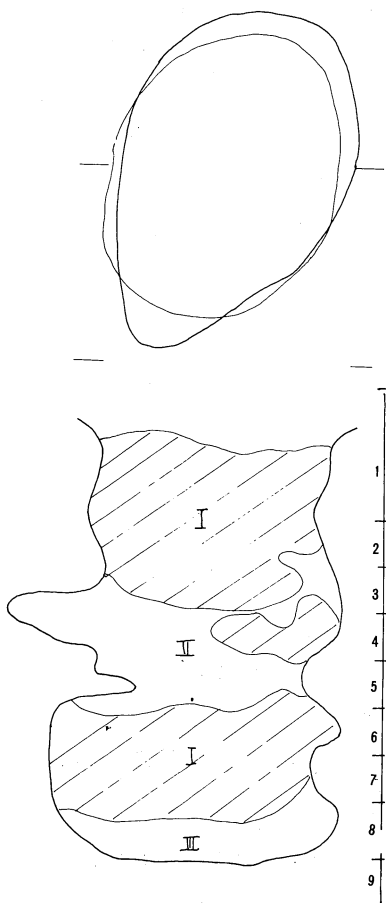
検出された炭化物はクリと木炭のみで、土塚84・88から検出された不明遺体はまったく検出されていない。

### ⑤ 出土炭化遺体と土塚について

土塚96を除いた3基の土塚よりクリ・不明遺体の炭化遺体が検出されているが、推積状態など一様でない。

また土塚84からはクリと多量の不明遺体が発見されているのに反し、土塚97からは不明遺体の発見はなくクリのみであったことはどういうことであろうか。

はたしてこれらの炭化遺体が貯蔵されていたものであるかははっきりしない。土塚97にみられる間層としての



第217図 土塚97実測図（S =  $\frac{1}{8}$ ）

層位	乾物重量 (g)						炭化物中のクリ重量比	
	* クリ	* 木炭	* 総炭化物重	* 土	石	土器片 (( )内は個数)	$\left(\frac{\text{クリ}+\text{木炭}}{\text{土}+\text{クリ}+\text{木炭}}\times 100\right)$	$\left(\frac{\text{クリ}}{\text{クリ}+\text{木炭}}\times 100\right)$
1	148.7	4.6	153.3	2153.0	42.0(1)	2.0(1)	7.0	97.0
2	26.3	9.9	36.2	878.1	0	0	4.0	72.7
3	10.2	0.4	10.6	1410.5	0	0	0.8	96.2
4	16.1	0.6	16.7	1613.9	10.0(3)	0	1.0	96.2
5	24.3	6.8	31.1	1235.5	0	2.0(1)	2.5	78.1
6	47.4	5.6	53.0	1037.5	0	0	4.9	89.4
7	8.0	0.2	8.1	1288.4	0	6.0(2)	0.6	98.0
8	3.1	0.1	3.2	861.2	0	0	0.4	97.5
9	0.5	0.0	0.5	698.4	0	0	0.1	100.0
合計	284.6	28.2	312.7	11176.5	52.0	10.0	2.8	91.0
ローム中	18.2	1.5	20.7	—————	—————	—————	—————	92.8

土坑97堆積物比較表 (\* 絶乾重量に換算した値である)

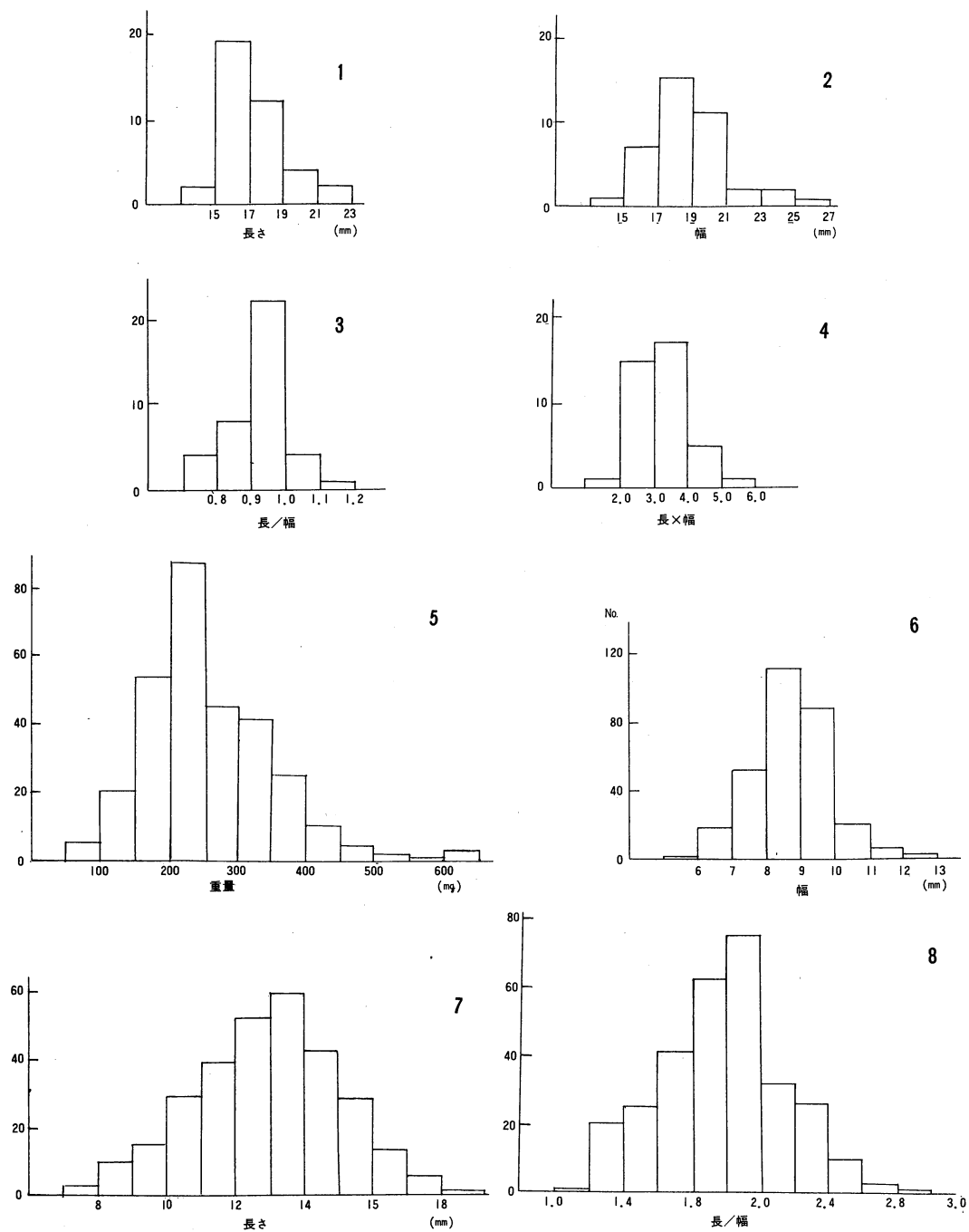
ロームブロックが上部のおおいとも考えられないこともないが、岡山県南方前池遺跡例<sup>※1</sup>、山口県岩田遺跡例<sup>※2</sup>、佐賀県坂の下遺跡例<sup>※3</sup>からすると非常に簡単な気がする。しかし出土が住居址でなく、土坑しかもある程度まとまって出土していることからすると偶然でなくある目的をもっていたことは間違いない。

つぎにクリないし不明遺体が、土坑の中においてどのような状態のとき炭化するのだろうか。焼けるという現象が起きないと炭化するという事は考えられないのではなかろうか。今回検出された土坑において焼土・焼石はなく焼かれた形跡はまったくない。このような状態で炭化遺体が発見されたことに非常に疑問を持っている。仮に焼かなくても炭化現象が起きるとすればまた別問題であるが、後述するが、皮をはいでゆでて乾燥状態で貯蔵した場合に起きるかということも一つの考え方である。この両者が否定されるとすれば、炭化したものがある目的によって埋めたとしか考えられないわけである。

クリのみについてみれば、皮がむかれしぶ皮のついた状態で土坑から発見された例としては長野県有明山社大門北遺跡例<sup>※4</sup>が知られている。今後の研究に待ちたい。

つぎに炭化遺体について述べることにする。

クリであるが、すべて先に述べたように皮はむかれしぶ皮のついた状態で真黒である。これは有明山社大門北遺跡例をまったく同じ状態である。江坂輝弥氏<sup>※5</sup>は「日本の山野に自生する柴栗を茹でて渋皮まで剥いて蔭干しにして乾燥したものを、籠にでも入れて天井裏に保存したものが、火災で屋根が焼け落ちた……………火災で焼け炭化したため今日まで残存したものであろう」と述べられている。渋皮はあるにせよ同様な保存加工が行われたものと考えられる。



第218図 クリ・不明遺体の個体変異図 (1~4はクリ, 5~8は不明遺体)

炭化遺体という性質上、生のものとの比較はできない訳であるが、第217図—1～4をみると、ほぼ一定したものであることがわかる。5～8に比べて変異差の少ないことがわかり不明遺体の同定、性格をみる上での基準になるのではないと思われる。土壇出土のすべてではないが、クリの完形遺体39個体によるものである。

不明遺体であるが、同定作業は行っているが今だ結論を得ていない。今後早急に作業を進めたいと考えているので、改めて報告したい。

不明遺体については、木ノ実説とパン状炭化物に類似したものという説のあることを併記しておきたい。<sup>※6</sup>

第218図—5～8にみるとおり、クリに比べて個体変異差が大きいことが知られる。重量であるが、土壇全部からのものではないが296個の完形遺体の平均値が257mgとなっている。しかしながら軽いものは100mg以下、重いものでは600mgを超えるものと非常にばらついている。長さは10～15mmに集中するがやはりかなりの変化がみられる。幅は7～10mmに集中する傾向がみられ、長さほどのばらつきはみられない。とりわけ重量にかなりのばらつきがみられ、また長さ、幅にも安定性のないことから考えるとパン状炭化物のたぐいとする説が大きいような気もしている。重量に関しては比重の問題もありこれを裏付けるものではないだろうか。

いずれにしろ、多量に発見された不明遺体の同定作業をいそぎたい。(気賀沢進)

※1 ① 吉田格「縄文時代の生活社会—2 日常生活用具」—日本の考古学Ⅱ縄文時代所収—  
昭和40年 河出書房新社

② 渡辺誠「縄文時代の植物植物食—考古学選書13」—昭50年 雄山閣

③ 江坂輝弥「縄文の栽培植物と利用植物」—どるめんNo.13所収—昭和52年 JICC (ジック)  
出版局

※2 ※1—②に同じ

※3 ※1—②・③に同じ

※4 中島豊明「第2節自然遺物」—「有明山社—長野県北安曇郡松川村有明山社大門北遺跡—緊急発掘調査報告—長野県考古学会研究報告書9」所収—昭和45年 長野県考古学会

※5 ※1—③に同じ

※6 炭化物の精査を依頼した小林喜美江氏が平安博物館の渡辺誠氏にサンプルの一部を送付したところ「はっきり断定できないが……………」とのことであった。





原垣外遺跡出土石器一覽表 (単位cm. g.( )は現在値)

出土地	挿図番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量
14号住	13-1	床面	打製石斧	逆撈形	d	完形	硬砂岩	13.8	6.3 4.5	3.0	250
〃	13-2	〃	〃	撈形	〃	〃	〃	9.8	1.5 4.5	1.3	55
〃	13-3	〃	磨製石斧	定角	一	刃部欠	緑泥片岩	(2.7)	2.0	1.3	(10)
15号住	16-1	覆土	打製石斧	逆撈形	b	完形	硬砂岩	12.5	5 2.5	2.3	170
〃	16-2	〃	〃	分銅形	d	〃	緑泥片岩	9.8	3 3.5	1.1	62
〃	16-3	〃	〃	短冊形	〃	〃	硬砂岩	10.6	3.5 4.5	1.8	125
〃	16-4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	11.8	3.5 5.1	1.6	115
〃	16-5	〃	大形粗製石匙	横形	〃	〃	〃	10	8	2.3	70
〃	16-6	〃	敲打器	〃	a	頭部欠	〃	(10.1)	6.7	3.9	(317)
〃	16-7	〃	〃	〃	〃	完形	〃	11.4	6.1	6.3	600
〃	17-8	〃	横刃石器	〃	c	〃	〃	11.9	4.8	1.3	95
〃	17-9	〃	〃	〃	a	〃	〃	7.2	6.3	1.3	60
〃	17-10	床面	磨き石	〃	c	半折	〃	(9.1)	8.9	3.1	(450)
〃	17-11	〃	大形粗製石匙	横形	b	完形	〃	9.0	4.5	3.1	60
〃	17-12	〃	横刃石器	〃	c	〃	〃	8.6	4.5	1.1	65
〃	17-13	〃	磨石	〃	〃	〃	砂岩	9.4	6.3	3.7	280
〃	18-14	〃	搔器	〃	〃	〃	黒耀石	2.3	2.7	0.2	3
〃	18-15	〃	〃	〃	〃	〃	〃	2.0	2.0	0.4	2
〃	18-16	〃	〃	〃	〃	〃	〃	2.6	1.2	0.5	2
〃	18-17	〃	〃	〃	〃	〃	〃	3.2	1.4	0.4	2
〃	〃	覆土	打製石斧	短冊形	d	刃部欠	緑泥片岩	(12.1)	5.8	2.3	(235)
〃	〃	〃	〃	〃	〃	頭部欠	硬砂岩	(11.3)	5.3	2.3	(180)
〃	〃	〃	〃	〃	〃	刃部欠	〃	(8.3)	4.1	1.2	55
〃	〃	〃	〃	〃	b	頭部欠	〃	(9.5)	6.7	1.8	(170)
〃	〃	〃	〃	〃	d	〃	〃	(6.5)	4.8	1.0	(40)
16号住	21-1	〃	〃	〃	b	完形	緑泥片岩	11.0	2.5 3.5	1.5	75
〃	21-2	〃	〃	〃	d	〃	粘板岩	9.8	2.7 3.6	1.5	55
〃	21-3	〃	凹石	片面のみ	〃	〃	砂岩	9.9	6.7	4.4	405
17号住	23-1	〃	敲打器	〃	a	〃	硬砂岩	12.3	6.3	5.4	600
〃	23-2	〃	横刃石器	〃	d	〃	〃	6.9	5.6	1.2	55
〃	23-3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	9.4	7.3	1.3	125
〃	23-4	〃	石核	〃	a	〃	〃	10.9	5.4	5.4	440
〃	23-5	床面	打製石斧	短冊形	c	完形	〃	11.8	4.0 5.1	1.6	110
〃	23-6	〃	磨製石斧	定角	〃	刃一部欠	緑泥片岩	7.4	2.5 3.7	1.4	75
〃	23-7	〃	横刃石器	〃	a	〃	〃	6.5	7.1	1.2	80
〃	〃	覆土	打製石斧	短冊形	d	胴のみ	硬砂岩	(7.2)	4.3	1.5	(80)
〃	〃	〃	〃	分銅形	d	刃部欠	〃	(7.4)	6.5	2.4	(55)
〃	〃	〃	〃	短冊形	b	〃	砂岩	(10.7)	3.6	1.1	(60)
〃	〃	〃	石核	〃	c	〃	硬砂岩	6.9	5.2	2.9	225
〃	〃	床面	打製石斧	短冊形	b	頭部欠	〃	(7.6)	4.1	1.5	(75)
〃	〃	覆土	剥片	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
18号住	26-1	〃	打製石斧	短冊形	b	頭の一部欠	〃	10.0	3.5 4.2	1.5	80
〃	26-2	〃	〃	〃	d	刃部欠	緑泥片岩	(10.3)	3.9	1.3	(80)
〃	26-3	〃	敲打器	〃	c	頭部欠	凝灰炭	(7.9)	3.1	2.0	(95)
〃	26-4	〃	横刃石器	〃	a	〃	硬砂岩	7.9	4.9	1.8	80
〃	〃	〃	打製石斧	短冊形	d	刃部欠	〃	(7.1)	3.1	1.4	(50)
〃	〃	〃	〃	〃	d	〃	〃	(7.7)	3.1	1.5	(50)
〃	〃	〃	〃	〃	〃	頭部欠	〃	(7.9)	4.9	2.1	(80)
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(5.5)	5.0	1.2	(65)
〃	〃	〃	剥片3点	(a-2, b-1)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
21号住	28-1	床面	打製石斧	短冊形	d	頭部欠	〃	(7.7)	6.3	2.1	(150)
〃	28-2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(10.7)	3.9	1.4	(80)
〃	28-3	〃	〃	〃	b	刃部欠	〃	(10.7)	4.9	2.0	(140)
〃	28-4	〃	敲打器	〃	a	完形	砂岩	10.7	3.4	3.3	170
22号住	31-1	〃	大形粗製石匙	縦形	d	〃	硬砂岩	10.5	12.6	1.4	210
〃	31-2	〃	横刃石器	〃	a	〃	〃	10.2	6.9	1.3	120
〃	〃	〃	剥片(a-1)	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

出土地	挿図番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量
33号住	34-1	覆土	打製石斧	撓形	c	*頭部欠	硬砂岩	(10.0)	5.8	1.4	(100)
〃	34-2	〃	横刃石器	〃	a	〃	〃	9.0	5.8	1.8	110
〃	34-3	〃	〃	〃	〃	〃	緑泥片岩	6.7	4.6	0.7	30
〃	34-4	〃	〃	〃	c	〃	硬砂岩	12.6	6.8	1.5	170
〃	34-5	床面	打製石斧	短冊形	b	完形	〃	18.2	5.5 7.3	2.0	370
〃	34-6	〃	〃	〃	d	刃部欠	〃	(15.9)	4.5	1.9	(260)
〃	34-7	〃	〃	〃	c	完形	〃	12.4	3.0 4.7	1.9	150
〃	34-8	〃	〃	〃	d	〃	〃	11.5	3.7 4.2	2.2	140
〃	34-9	(pit内)	石皿	〃	〃	破片	花崗岩	〃	〃	〃	〃
〃	34-10	〃	〃	〃	〃	半折	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	覆土	打製石斧	短冊形	c	刃部欠	硬砂岩	(9.2)	4.0	2.2	(110)
〃	〃	〃	〃	〃	d	胴のみ	〃	(9.0)	4.8	1.2	(85)
〃	〃	〃	〃	〃	b	刃のみ	〃	(6.7)	5.7	0.9	(50)
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(4.0)	4.0	1.1	(30)
〃	〃	〃	〃	〃	d	刃部欠	〃	(9.6)	3.9	1.6	(90)
〃	〃	〃	剥片 (a類3片)			〃	〃	〃	〃	〃	〃
24号住	39-1	カマド跡上	石皿	〃	〃	半折	花崗岩	〃	〃	〃	〃
26号住	42-1	覆土	搔器	〃	〃	〃	黒耀石	6.5	3.5	2.1	48
〃	42-2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	5.1	4.1	1.9	40
〃	42-3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	2.9	1.7	0.4	2
〃	42-4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	2.3	2.1	0.5	2
〃	42-5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	4.2	2.1	0.9	8
〃	42-6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	3.3	4.3	2.0	30
〃	42-7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	3.3	2.7	0.6	6
25号住	72-1	覆土	打製石斧	短冊形	b	完形	硬砂岩	12.8	4.3 6.5	2.0	250
〃	-2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	11.8	4.0 4.0	1.7	120
〃	-3	〃	〃	分銅形?	〃	頭部欠	〃	(13.8)	10.5	2.6	(680)
〃	-4	〃	〃	短冊形	〃	完形	〃	10.7	3.5 5.1	1.5	120
〃	-5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	10.8	4.3 5.2	2.2	150
〃	73-6	〃	〃	〃	c	〃	〃	11.8	4.0 5.3	1.7	170
〃	-7	〃	〃	〃	d	〃	〃	12.3	3.0 3.4	1.9	100
〃	-8	〃	〃	〃	〃	〃	緑泥岩	12.0	3.5 3.5	0.6	70
〃	-9	〃	〃	撓形	〃	頭部欠	硬砂岩	(9.7)	5.2	1.2	(80)
〃	-10	〃	〃	卵形	〃	完形	〃	11.0	3.5 5.0 3.5	1.4	(100)
〃	-11	〃	〃	撓形	〃	測面欠	〃	11.1	3.3 6.8	2.6	(225)
〃	-12	〃	〃	〃	〃	完形	緑泥岩	12.2	2.5 5.0	1.5	120
〃	-13	〃	〃	短冊形	〃	〃	硬砂岩	12.5	4.0 4.7	1.7	150
〃	-14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	12.7	3.3 4.8	2.0	(120)
〃	74-15	〃	磨製石斧	定角形	〃	頭部欠	松泥岩	(5.7)	6.9	2.0	(200)
〃	-16	〃	〃	〃	〃	完形	緑泥岩	8.1	2.5 3.2	1.1	50
〃	-17	〃	〃	〃	〃	〃	〃	4.9	2.0 2.4	0.8	20
〃	-18	〃	〃	〃	〃	〃	〃	4.7	1.7 2.8	0.7	20
〃	-19	〃	〃	〃	〃	頭部欠	〃	(5.5)	2.8	0.8	(30)
〃	-20	〃	〃	乳棒状形	〃	完形	〃	18.3	3.0 5.0	3.5	430
〃	-21	〃	大形粗製石匙	横形	a	〃	〃	7.0	5.5	0.6	30
〃	-22	〃	〃	縦形	c	〃	硬砂岩	6.0	7.0	1.3	60
〃	-23	〃	〃	横形	〃	刃部欠面	〃	8.0	7.3	1.5	(60)
〃	-24	〃	石錘	縦形	〃	完形	〃	5.7	4.3	1.7	60
〃	-25	〃	〃	〃	〃	片面欠	〃	6.0	5.9	(1.2)	(65)
〃	75-26	〃	敲打器	〃	a	頭部欠	凝灰岩	(12.7)	4.6	2.9	(270)
〃	-27	〃	〃	〃	b	片面欠	緑泥岩	7.5	6.5	(3.5)	(270)
〃	-28	〃	〃	〃	c	頭部欠	〃	18.6	6.5	3.7	(850)
〃	-29	〃	特殊敲打器	〃	a	完形	〃	5.4	6.3	1.6	100
〃	76-30	〃	磨石	〃	〃	〃	花崗岩	16.6	7.2	5.0	1175
〃	75-31	〃	凹石	〃	〃	〃	〃	9.8	5.2	2.8	260
〃	75-32	〃	〃	〃	〃	〃	〃	9.3	7.6	3.1	310
〃	76-33	〃	磨き石	〃	d	〃	硬砂岩	8.0	4.4	3.8	220
〃	-34	〃	石棒	〃	〃	破片	花崗岩	(8.5)	8.5	4.0	430
〃	-35	〃	石核	〃	a	〃	硬砂岩	〃	〃	〃	〃



出土地	挿図番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量
25号住	77-36	覆土	横刃石器		a		硬砂岩	14.0	8.8	2.5	340
〃	-37	〃	〃		〃		〃	8.5	6.2	2.1	150
〃	-38	〃	〃		〃		〃	8.7	4.9	1.3	60
〃	-39	〃	〃		〃		〃	7.8	6.2	1.3	70
〃	-40	〃	〃		〃		〃	9.3	6.0	1.2	70
〃	78-41	〃	石 鎌			完形	黒耀石	1.7	1.5	0.3	1
〃	-42	〃	〃			脚一部欠	〃	(28)	1.4	0.6	2
〃	-43	〃	搔 器				〃	2.9	1.0	0.5	1
〃	-44	〃	〃				〃	8.6	2.9	1.0	32
〃	-45	〃	〃				〃	1.8	1.9	0.3	2
〃	-46	〃	〃				〃	2.7	1.4	0.4	2
〃	-47	〃	〃				〃	2.1	1.7	0.7	2
〃	-48	〃	〃				〃	2.4	1.8	0.5	2
〃	-49	〃	〃				〃	1.4	2.8	0.3	1
〃	-50	〃	〃				〃	2.1	2.0	1.1	3
〃	-51	〃	〃				〃	3.3	3.1	1.6	14
〃	-52	〃	〃				〃	3.1	2.4	1.3	8
〃	-53	〃	〃				〃	3.4	2.8	1.6	18
〃	-54	〃	〃				〃	4.0	2.0	1.3	13
〃	-55	〃	〃				〃	2.3	1.8	0.6	3
〃		〃	打製石斧	撓形	d	頭部欠	硬砂岩	(9.0)		5.2	1.5 (125)
〃		〃	〃	短冊形	b	刃部欠	〃	(10.1)	5.0		1.3 (90)
〃		〃	〃	〃	d	〃	〃	(5.9)	3.0		0.9 (50)
〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	(10.4)	5.4		2.1 (215)
〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	(8.4)	5.6		1.5 (240)
〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	(7.8)	4.2		1.2 (70)
〃		〃	〃	〃	b	胴のみ	〃	(6.3)	4.4		1.2 (60)
〃		〃	〃	〃	〃	頭部欠	〃	(11.3)	5.0		1.8 (110)
〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	(7.4)	5.9		2.0 (120)
〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	(9.1)	3.8 4.3		1.6 (75)
〃		〃	〃	〃	d	刃部欠	〃	(6.9)			1.6 (50)
〃		〃	〃	〃	b	頭部欠	〃	(7.5)	4.5		2.4 (110)
〃		〃	〃	〃	〃	胴のみ	〃	(8.2)	4.7		2.1 (110)
〃		〃	〃	〃	d	刃部欠	緑泥岩	(6.7)	4.5		1.1 (70)
〃		〃	〃	〃	b	〃	硬砂岩	(10.0)	3.8		1.3 (70)
〃		〃	〃	〃	d	頭部欠	緑泥岩	(8.0)	3.4		0.8 (40)
〃		〃	〃	〃	〃	〃	硬砂岩	(8.3)	4.2		1.8 (70)
〃		〃	石 錘	縦形		半折	〃	(5.0)	4.4		1.3 (30)
		剝片	a類-29 (うち1点は緑泥岩他は硬砂岩) b類-12 (硬砂岩12) c類-22 (硬砂岩22)								
1号住	82-1	覆土	打製石斧	短冊形	b	完形	凝灰岩	8.2	3.2 3.8	1.1	60
〃	-2	〃	〃	〃	c	頭一部欠	硬砂岩	11.1	3.5 4.0	2.1	(110)
〃	-3	〃	〃	〃	c	完形	〃	9.9	2.8 3.9	1.8	80
〃	-4	〃	〃	〃	d	〃	〃	9.8	3.8 4.0	1.3	70
〃	-5	〃	〃	卵形	〃	〃	〃	11.0	3.5	1.5	60
〃	-6	〃	〃	撓形	〃	〃	〃	10.7	2.0 5.0	1.7	90
〃	-7	〃	磨製石斧	定角	〃	〃	緑泥岩	12.6	3.2 3.8	1.0	90
〃	-8	〃	〃	〃	〃	頭部欠	〃	(9.9)	3.8	0.8	(55)
〃	-9	〃	〃	乳棒状	〃	〃	〃	(14.9)	4.9	4.7	(570)
〃	83-10	〃	大形粗製石匙	横形	c	完形	硬砂岩	9.0	6.2	1.0	50
〃	-11	〃	石 錘	礫石錘	縦形	〃	〃	6.7	3.5	1.9	80
〃	-12	〃	敲打器	〃	a	半折	緑泥岩	(11.9)	2.2	2.2	(140)
〃	-13	〃	〃	〃	b	完形	〃	10.9	4.8	4.5	350
〃	-14	〃	横刃石器	〃	a	〃	硬砂岩	9.8	6.0	0.9	70
〃	-15	〃	〃	〃	〃	〃	〃	9.3	7.4	1.8	130
〃	-16	〃	〃	〃	〃	〃	〃	12.6	7.8	2.1	250
〃	-17	〃	〃	〃	c	〃	〃	8.7	6.5	1.7	130
〃	84-18	床面	打製石斧	短冊形	a	〃	緑泥岩	10.0	3.7 3.9	1.6	130
〃	-19	〃	〃	〃	c	〃	硬砂岩	10.2	3.5 4.7	2.1	120
〃	-20	〃	磨製石斧	定角	〃	〃	緑泥岩	8.9	2.9	0.6	30

出土地	挿図番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量	
1号住	84-21	床面	大形粗製石匙	横形	a	完形	硬砂岩	7.0	7.5	1.3	70	
	84-22	〃	敲打器	〃	b	〃	緑泥岩	10.5	6.4	6.0	680	
	84-23	〃	石棒	有頭	〃	基部欠	花崗岩	(13.9)	8.8	9.2	(1360)	
	84-24	〃	凹石	〃	〃	完形	〃	14.2	8.7	2.4	510	
	85-25	〃	横刃石器	〃	a	〃	硬砂岩	8.6	4.7	1.0	60	
	85-26	〃	〃	〃	c	〃	〃	9.6	6.3	1.3	90	
	85-27	〃	石皿	〃	b	一部欠	花崗岩	9	〃	〃	〃	
	〃	〃	覆土	打製石斧	短冊形	b	頭部欠	硬砂岩	(10.7)	5.1	1.7	(120)
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(11.9)	4.8	2.7	(120)	
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(14.5)	4.6	2.1	(100)	
	〃	〃	〃	〃	撓形	〃	〃	(9.4)	6.9	2.8	(360)	
	〃	〃	〃	〃	短冊形	〃	刃部欠	〃	(7.3)	4.4	1.5	(100)
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(.4)	3.5	1.0	(40)	
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	頭部欠	〃	(4.3)	3.8	1.4	(30)
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	頭部のみ	〃	(9.3)	4.0	1.2	(80)
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	頭部欠	〃	(10.2)	4.7	2.1	(125)
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	刃部欠	〃	(9.6)	4.3	1.8	(100)
	〃	〃	〃	〃	〃	d	〃	(7.2)	3.6	1.7	(60)	
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(6.5)	4.0	1.3	(45)	
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	頭部欠	〃	(11.0)	4.7	1.5	(120)
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	刃部欠	〃	(6.9)	3.5	1.4	(55)
	〃	〃	〃	〃	〃	b	頭部欠	〃	(12.0)	4.0	1.7	(65)
	〃	〃	床面	〃	〃	c	〃	〃	(12.2)	4.0	2.1	(140)
	〃	〃	〃	〃	〃	d	〃	〃	(9.8)	4.3	1.5	(60)
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	刃部欠	〃	(6.5)	4.0	1.3	(45)
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	(9.9)	3.7	1.8	(100)
	〃	〃	〃	〃	〃	a	〃	緑泥岩	(10.0)	3.9	1.6	(130)
〃	〃	覆土	剥片 a類-24 (硬砂岩22, 緑泥岩1, 砂岩1) b類-8 (硬砂岩) c類-6 (硬砂岩5, 緑泥岩1)									
〃	〃	床面	〃 a類-22 (硬砂岩20, 緑泥岩2) b類-3 (硬砂岩) c類-2 (硬砂岩)									
3号住	87-1	覆土	打製石斧	短冊形	b	完形	硬砂岩	11.9	3.8	4.0	1.2	90
	87-2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	11.0	3.0	4.1	1.7	90
	87-3	〃	〃	撓形	〃	〃	〃	12.4	3.0	5.5	1.2	100
	87-4	〃	〃	〃	c	〃	〃	12.8	4.0	8.0	2.1	240
	87-5	〃	〃	短冊形	〃	〃	〃	9.3	3.3	4.4	1.1	60
	87-6	〃	〃	〃	d	〃	〃	11.3	2.7	3.7	1.7	120
	87-7	〃	磨製石斧	定角	〃	〃	緑泥岩	9.7	2.5	4.7	2.1	185
	87-8	〃	〃	乳棒	〃	〃	凝灰岩	9.8	2.5	1.6	80	
	88-9	〃	磨石	〃	〃	一部欠	花崗岩	(9.9)	5.5	3.1	(315)	
	88-10	〃	磨き石	〃	d	完形	硬砂岩	12.7	5.7	3.4	380	
	88-11	〃	横刃石器	〃	a	〃	〃	6.9	5.0	0.7	30	
	88-12	〃	〃	〃	〃	〃	〃	8.7	5.2	1.6	70	
	88-13	床面	打製石斧	短冊形	b	〃	〃	11.3	4.0	4.5	1.9	160
	88-14	〃	〃	撓形	〃	刃部欠	〃	(12.2)	5.0	2.1	(270)	
	89-15	〃	〃	短冊形	〃	完形	緑泥岩	9.8	2.8	4.0	1.4	90
	89-16	〃	〃	〃	d	刃部一部欠	硬砂岩	12.3	3.3	4.5	1.2	100
	89-17	〃	〃	撓形	〃	完形	粘板岩	10.6	1.5	3.8	0.9	40
	89-18	〃	磨製石斧	蛤刃	〃	〃	緑泥岩	11.5	4.7	3.0	250	
	89-19	〃	敲打器	〃	a	〃	〃	12.2	4.3	3.8	370	
	89-20	〃	〃	〃	〃	一部欠	〃	12.1	5.9	2.0	(225)	
	89-21	〃	〃	〃	〃	完形	蛇紋岩	14.6	3.0	2.0	190	
	90-22	〃	石核	〃	〃	〃	硬砂岩	17.0	10.1	2.0	395	
	90-23	〃	〃	〃	〃	〃	〃	10.7	8.1	2.5	340	
	90-24	〃	〃	〃	c	〃	〃	7.6	7.4	2.4	180	
	91-25	〃	石鏃	〃	〃	完形	黒耀石	1.8	1.6	0.2	2	
	91-26	〃	挿器	〃	〃	〃	〃	3.3	2.0	1.0	8	
	91-27	〃	〃	〃	〃	〃	〃	3.5	3.3	0.3	2	
〃	〃	覆土	打製石斧	短冊形	b	刃部欠	硬砂岩	(10.2)	4.6	2.3	(220)	
〃	〃	〃	〃	d	胴のみ	〃	(7.8)	4.9	1.0	(60)		
〃	〃	〃	〃	〃	〃	頭部欠	緑泥岩	(9.9)	3.6	0.9	(50)	

出土地	挿図番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量
3号住		覆土	打製石斧	短冊形	d	刃部のみ	硬砂岩	(5.8)	4.5	1.8	(70)
〃		〃	〃	〃	〃	頭部欠	〃	(12.4)	4.8	2.0	(180)
〃		床面	〃	〃	〃	頭部のみ	〃	(5.4)	4.1	1.3	(50)
〃		〃	〃	〃	〃	刃部欠	緑泥岩	(7.7)	3.3	0.7	(30)
〃		〃	〃	〃	b	〃	硬砂岩	(9.3)	4.8	1.7	(115)
〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	(9.4)	4.8	1.8	(110)
〃		〃	〃	〃	〃	〃	〃	(10.5)	4.4	1.9	(140)
〃		〃	〃	〃	d	頭部欠	〃	(7.5)	4.3	1.3	(70)
〃		覆土	剥片 a類19(硬砂岩17, 砂岩2) b類2(硬砂岩) c類7(硬砂岩6, 砂岩1)								
〃		床面	〃 a類8(硬砂岩) b類3(硬砂岩) c類1(硬砂岩)								
2号住	94-1	覆土	磨き石		a	完形	花崗岩	6.5	9.4	2.9	260
〃	-2	〃	横刃石器		〃	〃	硬砂岩	7.5	6.4	1.2	60
〃	-3	床面	打製石斧	短冊形	〃	〃	〃	12.3	5.9 6.2	1.9	190
〃	-4	〃	〃	〃	c	刃部欠	〃	(7.6)	3.6	2.1	(110)
〃	-5	〃	敲打器		b	片面欠	緑泥岩	10.8	4.3	2.6	180
〃	-6	〃	磨製石斧	定角	〃	刃部欠	〃	(7.4)	3.0	1.1	(50)
〃		覆土	打製石斧	短冊形	b	〃	硬砂岩	(10.8)	3.5	1.8	(110)
〃		〃	〃	〃	d	〃	〃	(5.5)	4.2	1.4	(60)
〃		床面	〃	〃	b	〃	緑泥岩	(8.8)	5.0	2.2	(150)
〃			剥片 a類6(硬砂岩4, 緑泥岩2) b類3(硬砂岩) c類2(硬砂岩)								
4号住	98-1	覆土	打製石斧	短冊形	b	完形	硬砂岩	12.7	3.8 5.5	1.9	150
〃	-2	〃	〃	〃	〃	〃	緑泥片岩	10.4	3.0 4.1	1.1	80
〃	-3	〃	〃	〃	〃	〃	緑泥岩	7.9	2.6 2.6	1.3	35
〃	-4	〃	〃	〃	d	〃	硬砂岩	11.6	3.0 4.6	2.2	140
〃	-5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	10.7	3.6 3.8	1.5	100
〃	-6	〃	〃	〃	〃	〃	緑泥片岩	9.4	3.1 2.8	0.7	30
〃	-7	〃	〃	〃	〃	〃	緑泥岩	9.2	2.0 2.5	0.6	20
〃	-8	〃	磨製石斧	定角	〃	刃部欠	〃	(7.3)	2.4	2.0	(92)
〃	-9	〃	大形粗製石匙	横形	b	完形	〃	6.8	5.1	1.1	30
〃	99-10	〃	敲打器	〃	〃	半折	硬砂岩	5.1	5.8	3.9	(180)
〃	-11	〃	〃	〃	〃	完形	緑泥岩	8.6	5.5	3.0	240
〃	-12	〃	〃	〃	c	〃	〃	10.8	3.9	2.7	210
〃	-13	〃	特殊敲打器	〃	b	〃	硬砂岩	6.4	4.6	1.2	50
〃		〃	打製石斧	短冊形	〃	頭部欠	〃	(11.4)	8.2	3.7	(430)
〃		〃	〃	〃	d	斜折	〃	(11.8)	(2.0) 3.9	1.2	(60)
〃		〃	〃	〃	c	刃部欠	〃	(11.9)	5.8	2.0	(220)
〃		〃	〃	〃	d	〃	〃	(7.2)	3.0	1.5	(60)
〃		〃	〃	撓形	〃	〃	〃	(9.3)	4.2	1.8	(110)
〃		〃	〃	短冊形	〃	〃	〃	(5.3)	4.4	1.4	(60)
〃		〃	〃	〃	〃	頭部のみ	〃	(6.0)	4.4	1.2	(50)
〃		〃	〃	〃	〃	胴のみ	〃	(7.6)	3.0	1.4	(55)
〃		〃	剥片 a類9(硬砂岩8, 緑泥岩1) b類2(硬砂岩1, 緑泥岩1) c類8(硬砂岩5, 緑泥岩3)								
6号住	103-1	覆土	打製石斧	短冊形	b	完形	硬砂岩	11.8	3.0 3.6	1.9	115
〃	-2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	10.2	3.3 4.5	1.4	80
〃	-3	〃	〃	〃	d	〃	〃	11.6	4.0 5.6	1.7	150
〃	-4	〃	敲打器	〃	b	片面割	緑泥岩	7.9	5.6	(2.5)	(240)
〃	-5	床面	打製石斧	短冊形	〃	完形	硬砂岩	14.6	3.3 5.5	1.6	170
〃	-6	〃	〃	撓形	〃	〃	〃	14.4	2.0 4.4	1.9	150
〃	-7	〃	〃	短冊形	〃	刃部欠	緑泥片岩	(10.8)	3.2	1.2	(85)
〃	-8	〃	〃	〃	c	完形	硬砂岩	10.9	3.7 4.1	1.3	80
〃	104-9	〃	磨製石斧	乳棒状	〃	髀雷灸	蛇紋岩	(7.4)	3.0	(2.6)	(140)
〃	-10	〃	敲打器	〃	b	完形	緑泥岩	7.0	5.4	4.4	330
〃	-12	〃	砥石	〃	〃	砂岩	〃	〃	〃	〃	〃
〃	-11	〃	横刃石器	〃	a	完形	硬砂岩	9.0	5.9	1.0	60
〃		〃	打製石斧	短冊形	d	胴部のみ	緑泥片岩	(9.1)	3.8	1.3	(80)
〃		覆土	剥片 a類3(硬砂岩)								
〃		床面	〃 a類9(硬砂岩7, 緑泥岩2) b類1(硬砂岩) c類3(硬砂岩2, 緑泥岩1)								
8号住	107-1	床面	打製石斧	短冊形	b	完形	緑泥片岩	13.2	2.5 4.0	2.3	180
〃	-2	〃	〃	〃	〃	〃	硬砂岩	14.4	4.2 4.2	1.8	130

出土地	挿図番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量	
8号住	107-3	埋襲中	打製石斧	短冊形	d	完形	緑泥岩	12.3	2.8 3.1 2.8	1.2	60	
	〃	-4	床面	〃	b	〃	硬砂岩	11.8	3.0 4.0	1.9	130	
	〃	-5	〃	〃	〃	〃	〃	11.9	3.7 6.0	1.7	160	
	〃	-6	〃	〃	〃	〃	蛇紋岩	11.7	4.0 5.0	1.1	100	
	〃	-7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
	〃	108-8	〃	磨製石斧	撓形	〃	頭部欠	硬砂岩	(11.2)	4.4 7.9	2.3	(240)
	〃	-9	〃	敲打器	蛤刃	〃	刃部一部欠	緑泥岩	19.4	3.0 6.8	3.1	(610)
	〃	-10	〃	〃	〃	a	頭部欠	硬砂岩	(10.6)	5.1	2.9	(280)
	〃	-11	〃	〃	〃	〃	〃	(5.6)	3.3	2.2	(50)	
	〃	109-11	〃	〃	〃	c	完形	緑泥岩	25.7	9.2	6.0	2560
	〃	-12	〃	磨き石	〃	a	〃	硬砂岩	13.3	3.7	4.4	380
	〃	108-13	〃	横刃石器	〃	〃	〃	〃	13.8	7.3	2.1	240
	〃	-14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	10.0	7.8	1.7	175
	〃	〃	〃	打製石斧	短冊形	b	刃部欠	緑泥片岩	(13.5)	3.7	1.3	(120)
	〃	〃	〃	〃	〃	d	〃	硬砂岩	(7.4)	3.4	1.3	(50)
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	緑泥岩	(7.3)	4.0	1.3	(80)
〃	〃	〃	〃	〃	〃	頭部欠	砂岩	(11.9)	4.4	1.8	(103)	
剥片 a類11(硬砂岩8, 緑泥岩3) b類3(硬砂岩3) c類2(硬砂岩2)												
9号住	113-1	覆土	打製石斧	短冊形	d	完形	緑泥岩	11.1	2.5 4.0	1.6	90	
	〃	-2	〃	大形粗製石匙	横形	〃	硬砂岩	8.8	6.6	1.4	90	
	〃	-3	〃	横刃石器	〃	a	〃	6.5	5.2	1.1	50	
	〃	-4	〃	〃	〃	b	〃	11.0	6.9	1.8	160	
	〃	-5	床面	打製石斧	短冊形	d	〃	10.5	2.5 4.3	1.6	70	
	〃	〃	覆土	〃	〃	〃	刃部のみ	(4.4)	6.2	1.1	(40)	
	〃	〃	〃	〃	〃	b	頭部欠	(6.9)	5.2	1.6	(85)	
	〃	〃	覆土	〃	〃	d	刃部欠	(9.5)	4.7	2.6	(115)	
剥片 a類6(硬砂岩4, 凝灰岩1, 緑泥片岩1) b類1(硬砂岩1) c類5(硬砂岩5)												
10号住	116-1	覆土	打製石斧	短冊形	c	石刃部欠	硬砂岩	11.5	3.9 4.1	1.9	(120)	
	〃	-2	〃	〃	〃	〃	〃	(9.7)	3.5	1.5	(70)	
	〃	-3	〃	〃	d	頭部欠	緑泥岩	(7.4)	3.1	0.8	(30)	
	〃	-4	〃	〃	〃	完形	凝灰岩	18.3	3.7 4.0	1.8	205	
	〃	-5	〃	〃	〃	〃	硬砂岩	12.6	3.4 3.5	1.4	115	
	〃	-6	〃	磨製石斧	定角形	〃	〃	10.4	1.8 2.2 1.5	0.9	40	
	〃	-7	〃	〃	乳棒状	〃	胸のみ	緑泥片岩	(6.4)	6.1	3.0	(150)
	〃	-8	〃	〃	〃	〃	頭一部欠	凝灰岩	16.6	5.9	4.8	(745)
	〃	119-9	〃	大形粗製石匙	横形	d	完形	硬砂岩	9.0	7.1	1.1	50
	〃	-10	〃	〃	〃	b	〃	緑泥岩	7.5	7.5	1.4	90
	〃	-11	〃	敲打器	〃	a	〃	硬砂岩	16.8	5.5	2.6	370
	〃	-12	〃	横刃石器	〃	〃	〃	緑泥岩	8.5	8.0	1.2	90
	〃	-13	〃	〃	〃	〃	〃	硬砂岩	6.5	6.0	1.1	60
	〃	-14	〃	〃	〃	〃	〃	12.5	7.1	1.3	165	
	〃	〃	〃	打製石斧	短冊形	b	頭部のみ	〃	(8.7)	6.3	1.7	(140)
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	本淵一部欠	〃	10.3	(2.2) 4.0	1.1	(60)
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	刃部欠	凝灰岩	(8.5)	6.2	1.7	(185)
	〃	〃	〃	〃	〃	c	〃	硬砂岩	(5.2)	3.9	2.1	(50)
	〃	〃	〃	〃	〃	d	〃	砂岩	(9.9)	3.8	2.2	(97)
	〃	〃	〃	〃	〃	〃	頭部欠	硬砂岩	(8.8)	5.1	2.2	(120)
剥片 a類12(硬砂岩9, 緑泥片岩2, 砂岩1) b類1(硬砂岩1) c類5(硬砂岩5)												
11号住	121-1	覆土	打製石斧	短冊形	b	完形	緑泥岩	9.0	2.5 3.7	1.0	55	
	〃	-2	〃	〃	d	頭部欠	硬砂岩	11.0	8.3	2.7	(270)	
	〃	-3	〃	〃	〃	〃	砂山	10.8	2.6 3.7	1.2	(60)	
	〃	-4	〃	敲打器	短冊形	a	完形	緑泥岩	15.4	8.2	5.3	875
	〃	-5	〃	石錘	タテ形	〃	〃	砂岩	5.4	4.4	1.4	60
	〃	-6	〃	磨き石	〃	a	〃	〃	7.5	2.6	1.8	63
	〃	-7	〃	特殊敲打器	〃	〃	〃	〃	4.6	6.0	1.1	60
	〃	-8	〃	横刃石器	〃	〃	〃	硬砂岩	8.2	5.6	1.4	80
	〃	122-9	〃	扶入横刃石器	〃	〃	〃	緑泥岩	10.5	11.2	1.1	180
	〃	-10	床面	打製石斧	撓形	d	頭部欠	緑泥片岩	8.4	4.1	1.3	(60)
	〃	-11	〃	〃	短冊形	b	完形	〃	12.9	2.7 3.8	1.3	83
	〃	-12	〃	〃	〃	d	〃	安山岩	10.8	2.8 3.1	1.8	78

出土地	挿図番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量	
11号住	122-13	床面	磨製石斧	特殊形	a	完形	緑泥岩	10.8	2.1	4.3	1.6	85-
	-14	"	"	定角	"	頭部欠	"	(6.7)	1.4	2.7	1.2	(30)
	-15	"	"	"	"	完形	"	3.5	0.9	1.3	0.5	10
	-16	"	大形粗製石匙	横形	c	"	硬砂岩	11.1	7.2	1.2	100	
	"	123-17						敲打器	a	頭部欠	"	(10.1)
	-18	"	石皿	"	一部欠	砂岩	20.1	12.0	3.1			
	-19	"	多孔石	"	完形	花崗岩	23.1	19.0	3.4			
	"		覆土	打製石斧	短冊形	b	頭部欠	硬砂岩	(14.7)	7.5	2.7	(490)
	"	"	"	"	"	"	刃部欠	"	(12.0)	4.3	2.0	(160)
	"	"	"	"	"	"	"	"	(8.2)	5.1	1.5	(80)
	"	"	"	"	"	"	"	"	(8.8)	4.8	1.3	(65)
	"	"	"	"	"	"	頭部欠	"	(8.0)	5.2	2.0	(105)
	"	"	"	"	"	"	刃部欠	"	(8.4)	4.1	1.7	(80)
	"	"	"	"	"	"	頭部欠	"	(7.4)	4.0	1.4	(40)
	"	"	"	撓形	"	"	"	"	(9.2)	6.1	1.7	(105)
	"	"	"	短冊形	c	"	"	"	(9.1)	6.3	1.3	(140)
	"	"	"	"	"	"	刃部欠	"	(15.1)	6.8	2.6	(400)
	"	"	"	"	"	"	頭部欠	"	11.0	8.5	2.6	(285)
	"	"	"	"	"	"	刃部欠	"	5.1	3.2	1.3	(25)
	"	"	"	"	"	"	"	"	(10.9)	3.0	1.1	(80)
	"	"	"	敲打器	"	c	胴のみ半欠	緑泥岩	(7.2)	4.9	(1.9)	(65)
"	"		剥片 a類21(硬砂岩16, 緑泥岩4, 砂岩1) b類7(硬砂岩5, 緑泥岩2) c類3(硬砂岩2, 緑泥岩1)									
"	"	床面	" a類13(硬砂岩11, 緑泥岩2) b類1(砂岩) c類1(緑泥岩)									
12号住	126-1	床面	打製石斧	特殊大形	b	完形	緑泥片岩	36.7	6.5	9.2	3.7	1970
	-2	"	"	撓形	"	"	硬砂岩	10.9	2.2	5.9	1.6	100
	-3	"	"	短冊形	"	"	"	10.6	2.8	3.8	1.4	60
	-4	"	"	"	"	"	"	12.3	2.5	4.4	1.6	115
	-5	"	"	"	"	c	"	8.5	3.0	3.7	1.5	55
	-6	"	"	"	"	d	"	11.7	3.0	3.6	1.7	90
	127-7	"	敲打器	"	a	半折	砂岩	(16.9)	6.0	3.6	(550)	
	-8	"	"	"	"	一部欠	緑泥岩	(9.1)	3.9	3.1	(200)	
	-9	"	砥石	"	"	完形	砂岩	21.0	16.2	3.8		
	-10	覆土	石棒	有頭	"	基部欠	花崗岩	(29.0)	16.0	14.2		
	"	床面	打製石斧	短冊形	b	胴のみ	硬砂岩	(7.6)	5.7	1.7	(98)	
"	"	"	"	"	"	"	(10.8)	3.9	1.3	(80)		
"	"	"	"	"	"	緑泥岩	(12.4)	6.6	3.3	(4)		
"	"		剥片 a類5(硬砂岩) b類1(硬砂岩)									
19号住	134-1	覆土	石錘	縦形	"	完形	硬砂岩	5.7	3.8	1.4	60	
	-2	"	敲打器	"	a	"	砂岩	9.7	3.0	1.7	85	
	-3	"	"	"	b	"	緑泥岩	8.5	7.0	3.7	375	
	-4	"	"	"	c	半折	"	(15.7)	4.9	2.5	(450)	
	-5	"	凹石	"	"	完形	砂岩	11.2	8.9	3.8	590	
	-6	"	"	"	"	"	花崗岩	9.6	8.6	5.3	690	
	-7	"	横刃石器	"	"	"	硬砂岩	12.0	6.3	1.9	200	
	135-8	床面	打製石器	短冊形	"	"	"	13.3	3.3	4.1	1.5	120
	-9	"	"	"	"	"	"	13.8	3.5	4.2	1.6	180
	-10	"	敲打器	"	a	頭部欠	砂岩	8.4	2.4	2.7	(80)	
	-11	"	打製石斧	短冊形	d	完形	硬砂岩	10.9	3.0	4.5	1.6	115
	-12	"	大形粗製石匙	横形	b	頭部欠	"	"	(6.5)	1.5	(90)	
	"	覆土	打製石斧	短冊形	b	頭部のみ	"	(9.4)	4.9	2.3	(170)	
	"	"	"	"	d	"	"	(5.8)	3.4	1.6	(50)	
	"	"	磨製石斧	乳棒状	"	"	緑泥岩	(5.6)	2.5	3.0	(110)	
	"	床面	打製石斧	短冊形	b	頭部欠	硬砂岩	(8.2)	4.4	1.6	(80)	
	"	"	"	"	"	胴部のみ	緑泥岩	(10.8)	4.8	1.9	(200)	
	"	"	"	撓形	"	頭部欠	硬砂岩	(6.7)	7.0	2.5	(145)	
	"	"	"	短冊形	d	胴部のみ	"	(4.9)	4.3	0.9	(35)	
	"	"	"	"	"	"	緑泥片岩	(8.0)	5.8	1.3	(100)	
	"	"	"	"	"	"	硬砂岩	13.6	(2.0)	(4.0)	1.8	(100)
"	覆土	剥片	a類4(硬砂岩2, 砂岩2) c類2(硬砂岩)									

片面すつてある  
裏面砥石状

両面使用  
一部すつてある

片面すつてある

銅若干くびれる

出土地	捕図番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量
19号住		床面	剥片 a類3 (硬砂岩1, 緑泥岩2)								
20号住	140-1	覆土	打製石斧	短冊形	d	完形	硬砂岩	10.5	3.2 4.5	1.1	60
〃	-2	〃	磨製石斧	定角形		頭部一部剥落	緑泥岩	7.1	3.0	0.8	(30)
〃	-3	〃	横刃石器		a		硬砂岩	9.0	3.8	1.8	70
〃	-4	〃	〃		a		〃	10.1	7.7	2.4	210
〃	-5	床面	打製石斧	短冊形	a	完形	緑泥片岩	11.3	3.3 3.8	1.5	100
〃	-6	〃	〃	〃	a	〃	硬砂岩	13.1	4.0 4.5 4.2	1.7	150
〃	-7	〃	〃	〃	a	〃	凝灰岩	14.0	2.5 4.0	1.5	130
〃	-8	〃	〃	〃	a	〃	緑泥片岩	11.7	3.0 2.8 4.0	1.8	110
〃	-9	〃	〃	〃	b	刃部欠	緑泥岩	8.5	2.5	1.8	(50)
〃	-10	〃	〃	撓形		完形	硬砂岩	10.3	2.2 4.8	1.4	75
〃	-11	〃	〃	短冊形		〃	〃	10.1	2.5 4.2	1.3	60
〃	-12	〃	〃	〃		〃	〃	12.1	3.0 4.2	1.7	110
〃	-13	〃	〃	分銅形	d	〃	〃	11.0	3.8 3.2 4.3	1.1	80
〃	-14	〃	磨製石斧	定角形		刃部剥落	緑泥岩	7.5	2.5 3.2	1.1	50
〃	-15	〃	大形粗製石匙	縦形	d	完形	硬砂岩	4.2	10.9	1.3	70
〃	-16	〃	磨石			〃	花崗岩	11.7	9.8	5.2	880
〃	141-17	〃	磨き石		a	〃	硬砂岩	10.7	5.2	3.0	260
〃	-18	〃	横刃石器			〃	〃	6.2	5.5	1.3	80
〃	-19	〃	石皿多孔石			〃	花崗岩				
〃		覆土	打製石斧	短冊形	b	胴部のみ	硬砂岩	8.0	4.1	1.5	(70)
〃		〃	〃	〃	d	刃部欠	緑泥岩	13.6	2.5	1.3	(125)
〃		床面	〃	〃	b	〃	硬砂岩	9.5	5.0	2.3	(170)
〃		〃	〃	〃	d	頭部欠	〃	10.6	3.5	1.2	(70)
〃		〃	〃	〃		〃	〃	8.9	4.1	1.0	(60)
〃		〃	〃	〃		〃	緑泥片岩	9.2	3.7	1.1	(50)
〃		〃	〃	〃		刃部のみ	硬砂岩	4.7	4.8	0.8	(30)
〃		〃	〃	〃	c	頭部欠	〃	10.1	4.6	2.3	(140)
〃		〃	〃	〃	d	刃部のみ	〃	5.2	3.6	1.5	(40)
〃		〃	〃	〃	b	〃	〃	5.5	3.8	0.9	(40)
〃		〃	〃	〃	d	〃	〃	7.6	6.9	1.1	(110)
〃		〃	磨製石斧	乳棒状		破片	凝灰岩	7.2	(2.6)	(2.3)	(40)
〃		〃	大形粗製石匙	縦形	d	刃部欠	粘板岩		(8.9)	1.7	(45)
〃		〃	〃	横形	b	〃	硬砂岩		(6.3)	0.8	(25)
		覆土	剥片 a類5 (硬砂岩) b類2 (硬砂岩)								
		床面	〃 a類24 (硬砂岩21, 砂岩1, 緑泥岩1) b類6 (硬砂岩5, 緑泥岩1) c類5 (硬砂岩4, 緑泥岩1)								
27号住	147-1	覆土	打製石斧	分銅形	b	頭一部欠	硬砂岩	13.8	(4.5 7.5)	2.5	(260)
〃	-2	〃	敲打器			完形	緑泥岩	12.3	6.8	1.6	650
〃	-3	竈袖石	石皿			半欠	花崗岩				
30号住	154-1	覆土	打製石斧	短冊形	a	完形	緑泥岩	10.2	1.8 2.6	1.4	40
〃	-2	〃	〃	〃	b	〃	〃	13.7	2.5 4.1	1.9	260
〃	-3	〃	〃	撓形		〃	〃	10.6	1.5 3.5	1.3	50
〃	-4	〃	〃	短冊形		〃	硬砂岩	12.3	3.8 5.0	2.2	170
〃	-5	〃	〃	〃		〃	〃	9.3	3.0 4.5	1.6	90
〃	-6	〃	〃	〃	d	〃	砂岩	10.1	3.3 4.5	1.5	80
〃	-7	〃	〃	〃		〃	緑泥片岩	15.2	3.0 4.8	2.7	310
〃	-8	〃	敲打器		a	〃	緑泥岩	8.8	2.1	2.2	75
〃	-9	〃	磨製石斧	定角形		銅片辺のみ	松脂岩	(6.0)	(2.7)	1.3	(30)
〃	-10	〃	大形粗製石匙	横形	b	完形	硬砂岩	8.1	4.7	1.0	40
〃	-11	〃	特殊敲打器		a	〃	砂岩	8.4	9.0	1.7	210
〃	-12	〃	敲打器			一部破損	〃	14.8	4.5	1.8	(230)
〃	-13	〃	横刃石器			〃	硬砂岩	9.1	7.9	2.0	210
〃	-14	床面	大形粗製石匙	横形	d	完形	緑泥片岩	6.0	3.7	0.7	20
〃	-15	〃	〃	縦形	a	刃部欠	砂岩	(3.0)	4.4	0.8	(15)
〃	-16	〃	特殊敲打器		a	完形	硬砂岩	5.0	4.2	0.9	30
〃	-17	〃	〃		b	〃	〃	5.0	4.1	1.0	35
〃	-18	〃	磨製石斧	乳棒状		刃部欠	緑泥岩	(12.9)	4.7	3.6	(400)
〃	-19	〃	敲打器		a	完形	硬砂岩	12.5	6.6	4.5	720
〃	156-20	〃	石皿			〃	花崗岩				

出土地	挿図番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量	
30号住		覆土	打製石斧	短冊形	d	刃部欠	硬砂岩	(15.4)	5.5	6.5	(545)	
〃		〃	〃	〃	〃	〃	緑泥片岩	(7.1)	2.2	1.2	(20)	
〃		〃	〃	〃	b	〃	硬砂岩	(6.6)	3.7	1.7	(70)	
〃		〃	〃	〃	c	胴のみ	〃	(10.1)	4.8	1.2	(90)	
〃		〃	〃	〃	d	刃部欠	〃	(6.4)	3.6	2.0	(90)	
〃		〃	〃	〃	b	〃	緑泥片岩	(6.8)	3.3	0.9	(40)	
〃		床面	〃	〃	c	〃	〃	(10.8)	4.3	1.5	(125)	
〃		〃	〃	〃	d	頭部欠	硬砂岩	(13.5)	5.3	1.8	(160)	
〃		覆土	剥片 a類8 (硬砂岩6, 緑泥岩2) b類2 (硬砂岩) c類2 (硬砂岩)									
〃		床面	〃 a類5 (硬砂岩) b類1 (硬砂岩)									
31号住	159-1	床面	打製石斧	短冊形	a	完形	緑泥岩	10.9	3.0 3.5	1.3	80	
〃	-2	〃	〃	〃	b	〃	硬砂岩	13.5	3.5 4.8	1.9	120	
〃	-3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	10.7	3.7 4.3	1.5	90	
〃	-4	〃	〃	〃	〃	〃	緑泥岩	10.9	3.0 3.5	1.3	120	
〃	-5	〃	〃	〃	c	〃	緑泥片岩	9.7	3.5 4.0	1.2	60	
〃	-6	〃	〃	〃	d	〃	硬砂岩	11.7	3.3 5.7	1.8	120	
〃	-7	〃	磨製石斧	撓形	d	〃	緑泥岩	6.4	1.3 1.8	0.8	20	
〃	-8	〃	特殊敲打器	定角	a	〃	硬砂岩	6.0	3.2	1.2	30	
〃	-9	〃	横刃石器	〃	〃	〃	〃	11.0	5.1	1.1	53	
〃		〃	打製石斧	短冊形	b	刃部欠	〃	(6.6)	4.8	1.5	(60)	
〃		〃	〃	〃	d	〃	〃	(10.0)	4.7	1.5	(80)	
〃		〃	〃	〃	〃	胴のみ	凝灰岩	(8.9)	4.8	1.1	(60)	
〃		〃	〃	〃	〃	刃部欠	緑泥岩	(7.5)	3.6	0.9	(30)	
〃		〃	〃	〃	〃	胴のみ	緑泥片岩	(5.6)	4.8	1.4	(50)	
〃		〃	剥片 a類23 (硬砂岩21, 砂岩2) b類4 (硬砂岩) c類4 (硬砂岩3, 緑泥片岩1)									
32号住	162-1	覆土	打製石斧	撓形	d	完形	硬砂岩	15.6	4.3 7.9	2.8	370	
〃	-2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	15.6	4.1 8.0	2.2	340	
〃	-3	〃	〃	短冊形	b	〃	緑泥岩	11.7	3.0 4.2	1.1	100	
〃	-4	〃	〃	〃	〃	〃	〃	9.4	2.4 3.8	1.0	50	
〃	-5	〃	大形粗製石匙	横形	〃	〃	硬砂岩	7.3	4.5	1.1	60	
〃	-6	〃	磨製石斧	乳棒状	〃	胴のみ	凝圧岩	(5.2)	3.7	2.7	(70)	
〃	-7	〃	石錘	縦形	〃	完形	硬砂岩	6.7	3.8	1.6	70	
〃	-8	〃	横刃石器	〃	c	〃	〃	8.7	5.6	0.7	50	
〃	163-9	床面	打製石斧	短冊形	b	〃	〃	13.7	3.4 4.3	1.6	110	
〃	-10	〃	〃	〃	〃	〃	安山岩	10.8	3.0 4.0	1.3	70	
〃	-11	〃	〃	〃	〃	〃	緑泥岩	8.5	3.0 3.7	1.4	60	
〃	-12	〃	〃	〃	d	〃	硬砂岩	11.3	3.0 4.3	1.2	70	
〃	-13	〃	磨製石斧	定角	〃	刃部のみ	緑泥岩	(3.9)	1.8	1.0	(10)	
〃	-14	〃	〃	蛤刃	〃	完形	〃	14.3	4.7 5.2	3.7	450	
〃	-15	〃	敲打器	〃	c	頭部欠	〃	(9.8)	2.2	1.3	(55)	
〃	-16	〃	横刃石器	〃	a	〃	硬砂岩	9.3	5.1	1.1	70	
〃	-17	〃	石皿	〃	〃	完形	砂岩	〃	〃	〃	〃	
〃		覆土	打製石斧	短冊形	b	頭部欠	硬砂岩	(8.8)	4.9	1.3	(70)	
〃		〃	〃	〃	d	〃	〃	(11.1)	4.2	1.6	(110)	
〃		〃	〃	〃	〃	胴のみ	〃	(9.3)	5.7	1.2	(90)	
〃		床面	〃	〃	b	縦われ	緑泥岩	10.1	(3.4)	1.4	(85)	
〃		〃	〃	〃	〃	刃部欠	硬砂岩	(4.9)	3.8	1.1	(40)	
〃		〃	〃	〃	d	胴のみ	〃	(7.8)	3.4	1.2	(60)	
〃		〃	〃	〃	〃	〃	緑泥片岩	(6.8)	4.1	1.7	(100)	
〃		〃	大形粗製石匙	?	d?	つまみのみ	砂岩	?	?	1.0	(45)	
〃		覆土	剥片 a類12 (硬砂岩10, 緑泥岩2) b類7 (硬砂岩6, 緑泥岩1) c類3 (硬砂岩)									
〃		床面	〃 a類9 (硬砂岩) b類3 (硬砂岩) c類1 (硬砂岩)									
33号住	165-1	床面	打製石斧	短冊形	a	完形	緑泥岩	9.4	2.0 2.5	0.8	35	黒色塗彩
〃	-2	〃	〃	〃	b	〃	硬砂岩	14.9	3.7 4.4	1.8	180	黒色塗彩
〃	-3	〃	〃	〃	c	〃	〃	12.0	3.3 3.7	1.3	70	〃
〃	-4	〃	〃	〃	c	〃	〃	11.4	4.0 4.7	1.7	130	〃
〃	-5	〃	〃	〃	d	〃	緑泥岩	8.8	2.6	0.7	20	黒色塗彩
〃	-6	〃	〃	撓形	b	〃	硬砂岩	12.4	2.6 5.2	2.0	120	〃
〃	-7	〃	〃	〃	d	〃	〃	15.3	5.2 5.2	2.4	220	黒色塗彩

出土地	挿凶番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量	
33号住	165-8	床面	磨製石斧	定角		完形	緑泥岩	7.8	1.7	0.8	15	黒色塗彩
〃	-9	〃	〃	〃		刃部一部欠	〃	8.8	1.8	0.5	(35)	〃
〃	-10	〃	〃	〃		完形	〃	6.3	2.1	1.1	15	〃
〃	-11	〃	〃	〃		頭部欠	〃	(4.2)	1.8	0.5	8	〃
〃	-12	〃	〃	〃		完形	〃	5.2	1.2 1.7	0.8	15	〃
〃	-13	〃	〃	〃		〃	〃	4.3	2.0	0.4	10	〃
〃	-14	〃	〃	〃		刃部欠	〃	(3.4)	1.5	0.9	(15)	〃
〃	166-15	〃	〃	蛤刃		頭一部刃部欠	〃	18.3	3.8 5.8	3.5	(580)	黒色塗彩
〃	-16	〃	敲打器		a	頭部欠	硬砂岩	(8.9)	6.8	4.7	(500)	〃
〃	-17	〃	横刃石器		b		〃	10.3	4.7	1.3	60	黒色塗彩
〃	〃	〃	打製石斧	短冊形	c	刃部欠	緑泥片岩	(7.7)	3.3	1.1	(65)	〃
〃	〃	〃	〃	〃	d	〃	硬砂岩	(7.2)	4.0	1.3	(65)	〃
〃	〃	〃	剥片 a類3(硬砂岩) b類4(硬砂岩) c類2(硬砂岩1, 砂岩1)									
34号住	169-1	床面	打製石斧	短冊形	b	完形	硬砂岩	11.8	4.4 6.2	2.8	260	
〃	-2	〃	〃	〃	〃	〃	〃	12.3	3.8 4.7	2.2	140	
〃	-3	〃	〃	〃	〃	〃	〃	11.1	3.0 5.0	1.6	118	
〃	-4	〃	〃	〃	c	〃	〃	12.4	3.0 5.1	2.2	150	
〃	-5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	8.8	2.9 3.9	1.5	75	
〃	-6	〃	〃	〃	d	〃	〃	10.1	2.8 4.0	1.2	60	
〃	-7	〃	大形粗製石匙	横形	b	刃一部欠	〃	(6.0)	4.5	1.4	90	
〃	170-8	〃	敲打器		a		緑泥岩	16.8	4.2	3.0	320	
〃	-9	床面	横刃石器		b		硬砂岩	9.7	6.4	1.4	80	
〃	〃	〃	打製石斧	短冊形	c	頭部のみ	〃	(5.2)	4.4	1.9	40	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	刃部欠	〃	(7.2)	4.4	2.3	120	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	頭部欠	〃	(11.6)	3.9	2.2	110	
〃	〃	〃	〃	〃	d	〃	〃	(9.0)	7.0	2.1	150	
〃	〃	〃	剥片 a類1(硬砂岩) b類2(硬砂岩) c類4(硬砂岩)									
土壌1	208-1	〃	凹石			完形	砂岩	7.1	7.0	4.2	90	
〃	-2	〃	敲打器			〃	硬砂岩	9.0	4.0	0.9	180	
土壌6	〃	〃	〃		c	半折胴われ	凝灰岩	(8.4)	5.2	(1.7)	(140)	
〃	〃	〃	打製石斧	撓形	〃	刃部のみ	硬砂岩	(4.7)	6.3	1.3	(60)	
土壌7	〃	〃	〃	〃	d	胴のみ	緑泥岩	(6.6)	4.0	1.1	(42)	
〃12	〃	〃	〃?	〃	b	刃部のみ?	硬砂岩	(5.5)	6.5	2.2	(120)	
〃27	208-3	〃	〃	〃	〃	完形	〃	11.1	3.9 3.5	1.3	90	
〃32	〃	〃	扶入横刃石器		a		〃	6.0	4.2	0.7	30	
〃31	209-4	〃	石皿			完形	花崗岩					
〃35	-5	〃	敲打器		a	〃	硬砂岩	11.8	5.3	2.5	290	
〃38	-6	〃	砥石			〃	砂岩	30.0	16.0	11.0		
〃39	-7	〃	敲打器		d	〃	緑泥岩	10.2	1.8	1.5	40	
〃40	-8	〃	大形粗製石匙	横形	c	〃	〃	8.0	4.4	0.8	32	
〃	-9	〃	石皿			〃	砂岩					
〃42	208-10	〃	搔器			〃	チャート	3.2	3.0	1.2	10	
〃44	〃	〃	打製石斧	撓形	b	刃部欠	硬砂岩	(11.4)	5.0	1.5	(170)	
〃	208-11	〃	横刃石器		a	〃	〃	11.0	11.0	1.8	392	
〃47	-12	〃	磨製石斧	定角		完形	緑泥岩	7.0	3.7	1.2	(70)	
〃52	〃	〃	打製石斧	撓形	b	頭部欠	硬砂岩	(11.0)	5.0	0.9	(82)	
〃72	208-13	〃	横刃石器		a	〃	〃	8.8	5.7	1.2	82	
〃39	211-21	〃	〃		c	〃	〃	5.7	7.5	1.6	70	
〃77	210-14	〃	大形粗製石匙	縦形	d	完形	〃	6.0	19.1	2.1	378	
〃	-15	〃	打製石斧	撓形	b	〃	〃	14.3	3.3 5.8	2.9	298	
〃	-16	〃	〃	短冊形	a	頭部欠	安山岩	(9.0)	4.4	0.9	(70)	
〃	-18	〃	磨石			完形	〃	10.2	7.7	4.6	520	
〃	-17	〃	敲打器		b	半割れ	砂岩	6.2	4.4	(4.2)	200	
〃	-19	〃	横刃石器		a	〃	硬砂岩	11.3	5.0	0.7	55	
〃	-20	〃	磨製石斧	定角		半割れ	緑泥岩	10.8	3.0	1.5	(85)	
〃78	208-21	〃	打製石斧	撓形	b	頭部欠	硬砂岩	(10.9)	7.2	2.0	(210)	
〃	211-22	〃	〃	短冊形	d	完形	〃	12.2	3.5 4.6	2.2	(175)	
〃85	-23	〃	石皿			〃	花崗岩	33.0	21.0	5.0		
〃105	-24	〃	磨き石		d	〃	緑泥岩	10.0	9.3	5.0	530	



出土地	挿図番号	出土層位	種類	形態	形式	残存状態	石質	長さ	幅	厚さ	重量
土壌105	212-26		打製石斧	撓形	b	完形	硬砂岩	17.7	4.3 8.0	3.2	505
〃	211-25		〃	〃	d	〃	完山岩	15.9	3.0 7.6	1.2	130
土壌112	-27		〃	短冊形	b	〃	硬砂岩	10.4	4.0 5.5	1.7	120
〃	212-28		〃	〃	〃	〃	〃	13.4	3.6 4.3 3.6	1.6	100
〃	-29		〃	〃	d	〃	緑泥岩	13.3	4.0 4.5	2.7	320
土壌125			〃	〃	b	頭部欠	硬砂岩	(9.0)	4.5	1.1	(80)
〃			〃	〃	〃	〃	〃	(7.3)	4.0	1.1	(50)
〃			磨製石斧	乳棒状石斧		刃部欠	緑泥岩	(12.6)	4.3	1.8	(200)
〃	212-30		打製石斧	短冊形	d	完形	硬砂岩	12.0	4.0 4.5	1.7	150
〃	-31		磨石	〃	〃	〃	花崗岩	7.2	5.6	4.7	290
〃			打製石斧	短冊形		頭部欠	硬砂岩	(7.3)	4.0	1.4	(50)
〃	-32		横刃石器	〃	a	〃	〃	11.0	7.8	1.7	165
土壌131	213-33		打製石斧	短冊形	d	完形	砂岩	12.9	2.5 3.7 2.5	1.0	65
〃	-34		磨石	〃	〃	〃	〃	5.0	4.6	3.7	115
土壌156	-35		敲打器	〃	b	破片	緑泥岩	8.0	5.1	(2.5)	(180)
土壌173	-36		磨き石	〃	c	完形	硬砂岩	12.6	5.4	3.6	380
〃	-37		横刃石器	〃	〃	〃	〃	4.9	4.0	1.0	28
土壌219	-38		特殊敲打器	〃	b	〃	緑泥岩	5.2	5.0	2.0	75
〃	-39		磨き石	〃	〃	〃	硬砂岩	9.2	3.2	2.3	95
〃	214-40		打製石斧	短冊形	〃	頭部割れ	緑泥片岩	13.9	3.9	1.3	(110)
〃			〃	〃	d	胴のみ	〃	(12.1)	3.9	1.2	(125)
土壌224	214-41		石皿	〃	〃	〃	花崗岩	〃	〃	〃	〃
土壌240			打製石斧	短冊形	b	頭部欠	頁岩	(9.8)	3.8	1.1	(60)
土壌256	214-42		横刃石器	〃	a	〃	硬砂岩	6.0	7.5	2.0	(125)
土壌257			打製石斧	短冊形	d	胴のみ	緑泥片岩	(7.7)	(4.2)	0.9	(90)
〃			〃	撓形	b	刃部欠	硬砂岩	(12.7)	3.8	2.2	(220)
〃			〃	短冊形	〃	頭部欠	緑泥片岩	(9.5)	3.7	1.1	(60)
土壌267	214-43		磨製石斧	定角		刃部欠	〃	(11.1)	3.5 4.7	2.1	(220)
土壌275			打製石斧	短冊形	d	〃	緑泥岩	(10.6)	4.4	1.3	(90)
〃	214-44		横刃石器	〃	a	〃	硬砂岩	10.3	5.2	1.3	100
〃			打製石斧	短冊形	b	刃部欠	〃	(8.6)	3.8	1.3	(70)
〃			〃	〃	d	〃	砂岩	(11.2)	3.3	1.2	(105)
土壌290	214-45		〃	〃	c	完形	硬砂岩	12.3	4.8 5.0	1.3	150
〃			〃	〃	d	胴のみ	〃	(8.2)	5.0	0.9	(50)
土壌303	201-46		〃	〃	b	刃一部欠	〃	13.7	3.8 4.8	2.3	(246)
〃	-47		〃	〃	〃	完形	〃	12.1	3.5 4.1	1.3	110

片面すってある

## 第IV章 おわりに

発掘前予想した以上に大きな成果を挙げて調査を終えることができ、また報告書が刊行されるに至り大変嬉しく思うと同時に思うことの、考えることの半分も書けずに終わったことを残念に思います。限られた日数故、資料報告という形で報告書をまとめてみましたが、今回提起された問題は非常に大きな、また多くの問題があります。

今後の課題として真剣に取り組まねばと考えております。

発掘調査から整理作業の間多くの皆さまからご教示、ご指導いただきましたことに対し心から感謝申し上げおわりといたします。

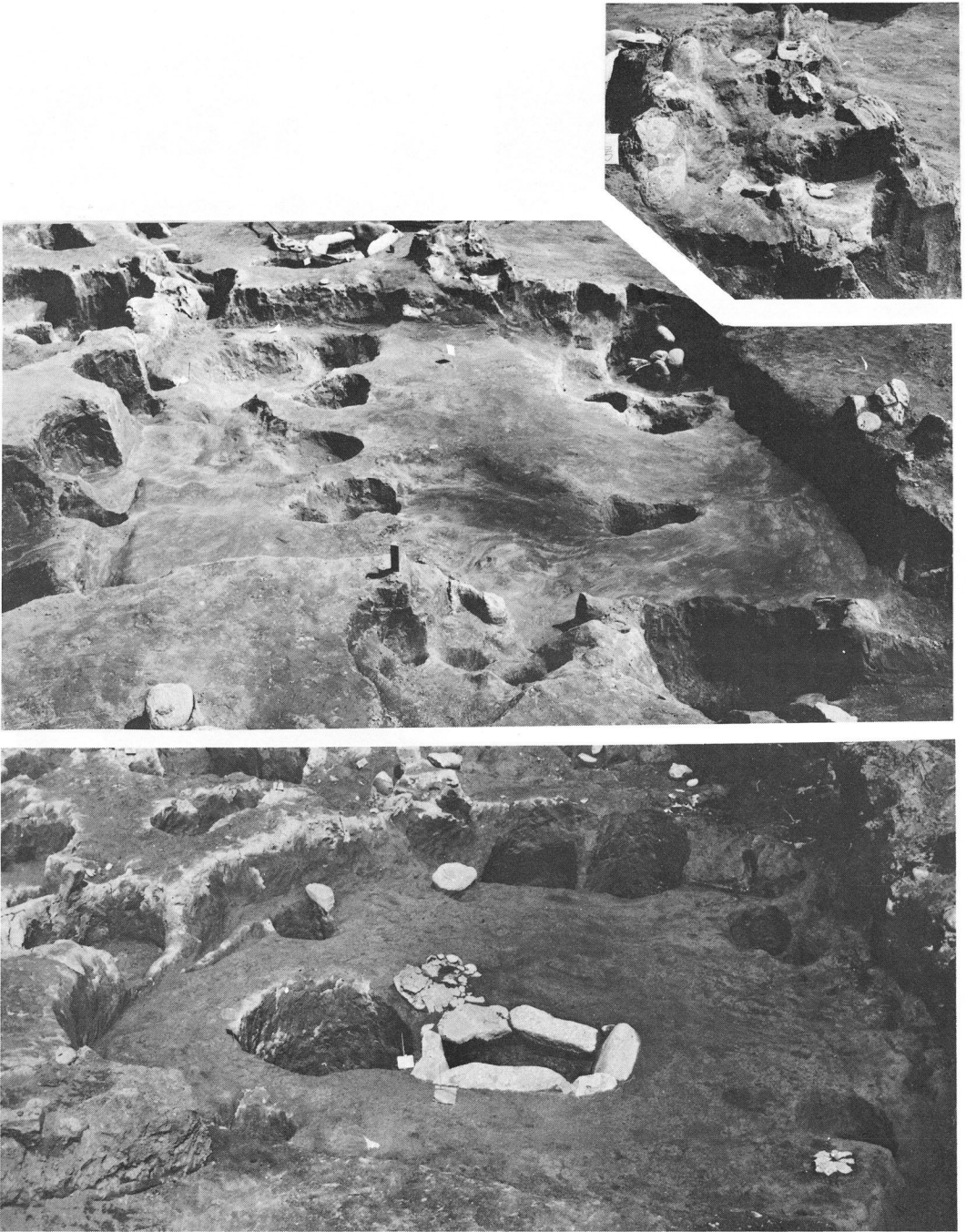
# 圖 版



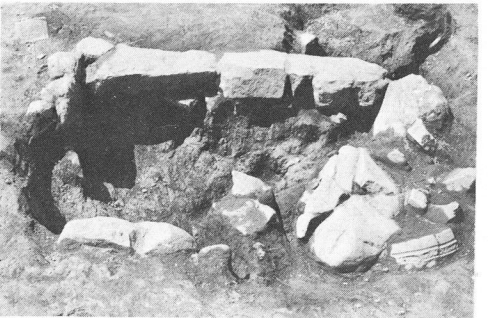
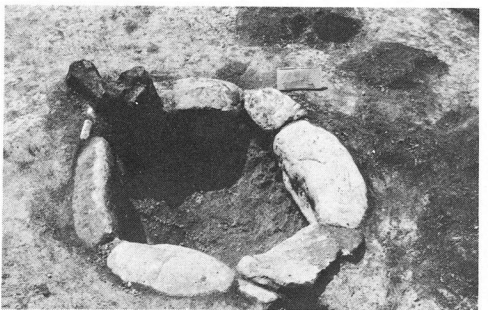
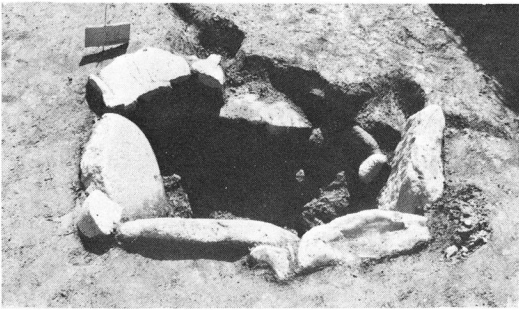
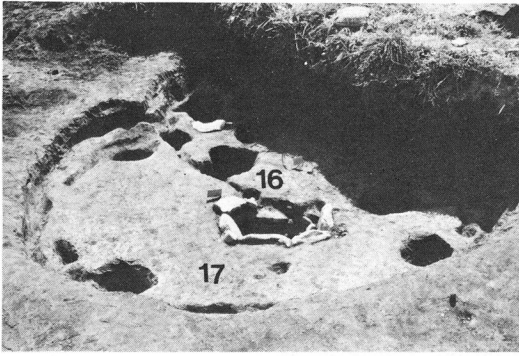
図版1 原垣外遺跡遠景（上は南東より、下は東より）



図版 2 原垣外遺跡遺構全景（上は南より、下は西より）



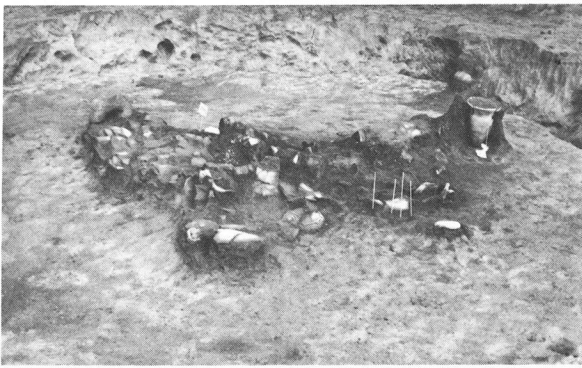
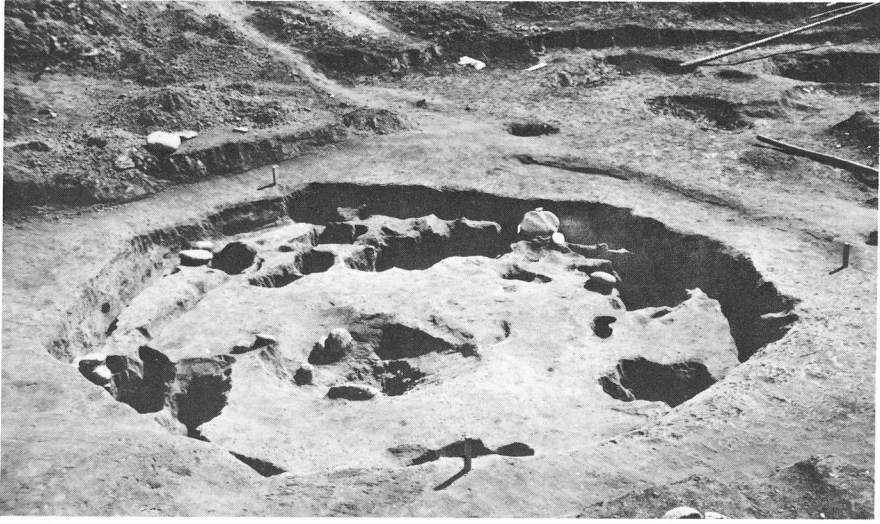
図版3 第14・15号住居址（上は第14号住居址(西より)、右下同竈 下は第15号住居址(南より)）



図版4 第16・17・18、第22・26号住居址（上左は第17号、上右は18号、下は第22号住）

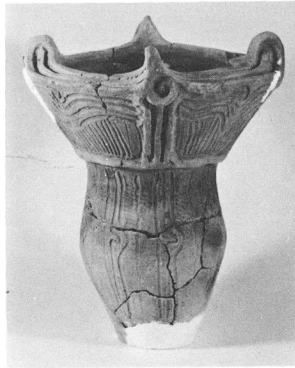
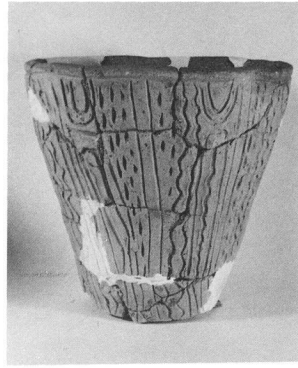


図版 5 第22・23号住居址（上は第17号住(北より)中は同埋竈、下は第23号住)

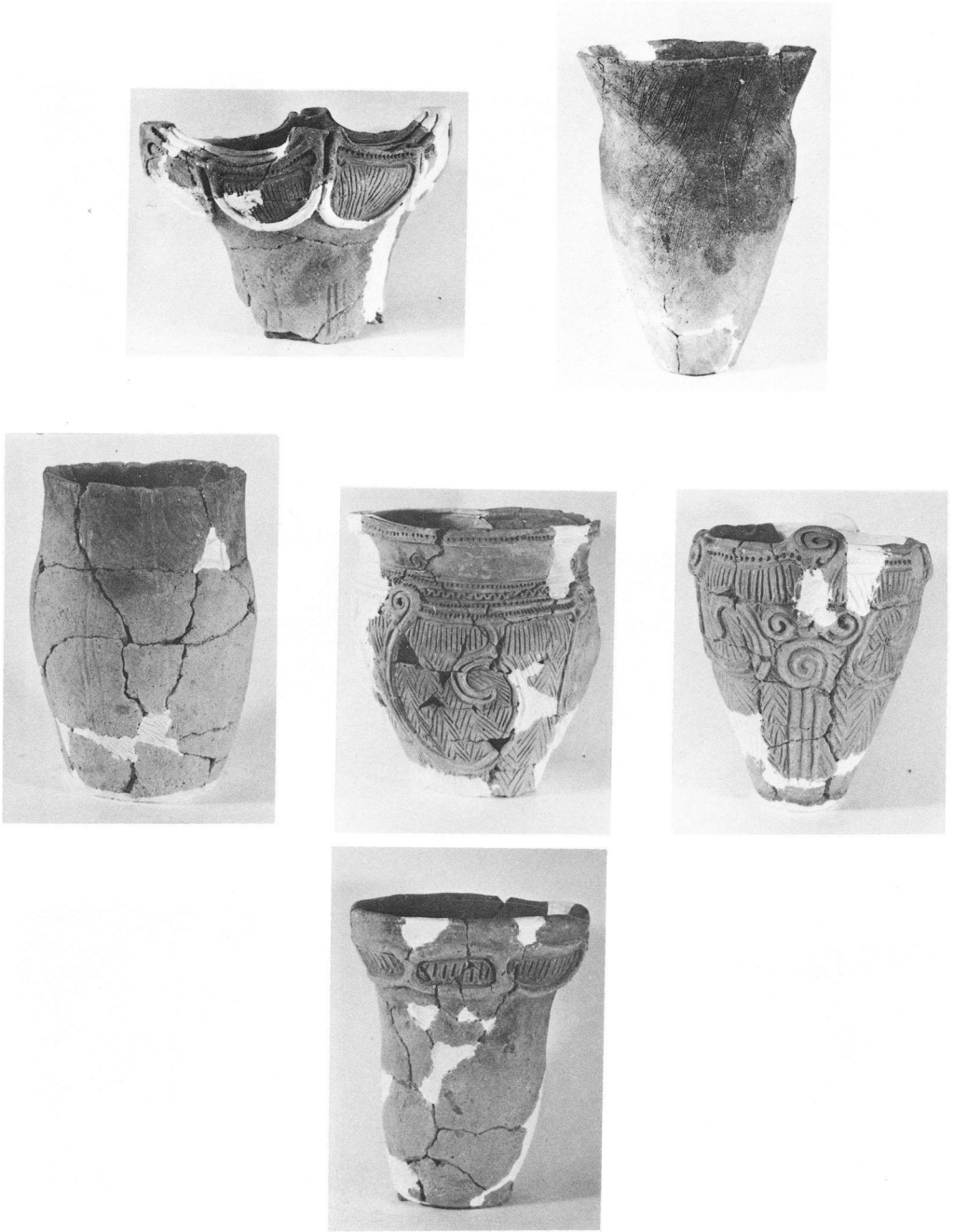


图版 6 第25号住居址





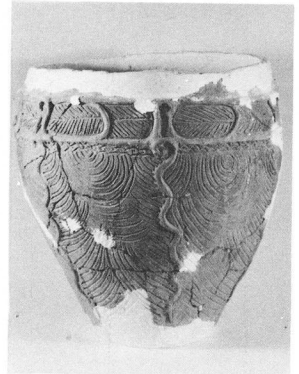
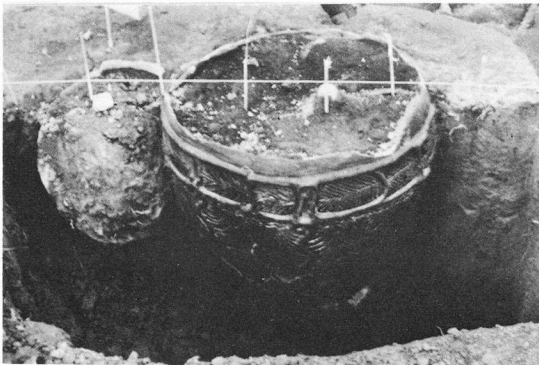
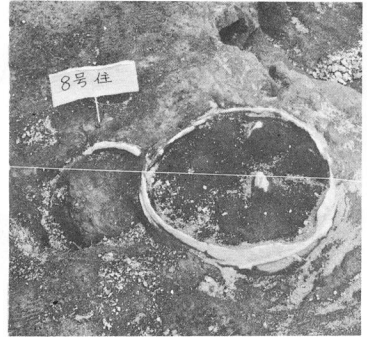
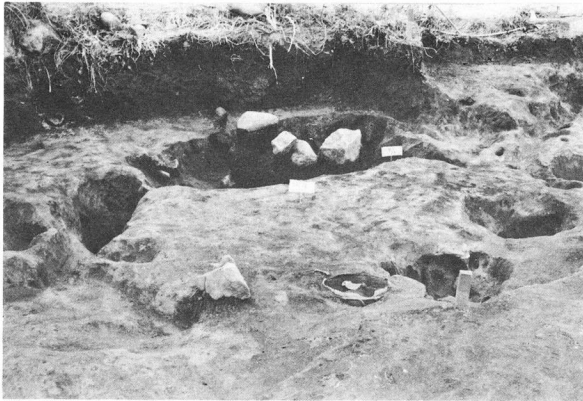
图版7 第25号住居出土土器



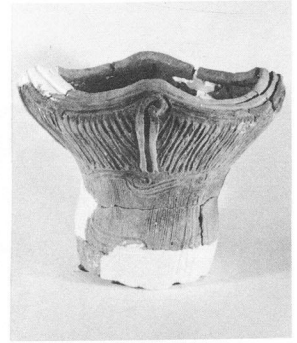
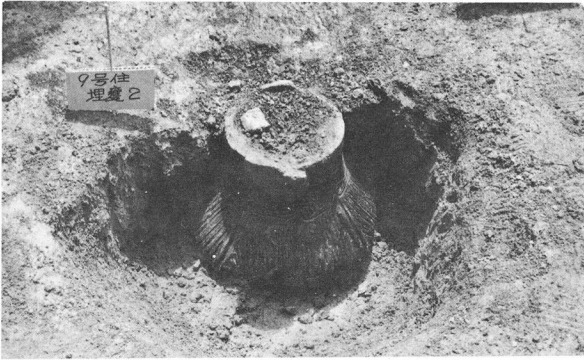
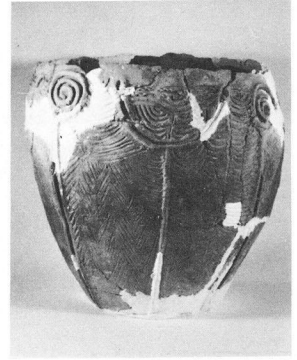
图版 8 第25·26号住居址出土土器（上、中段25号、下段26号）



図版9 第1・3・4・6号住居址（西より）



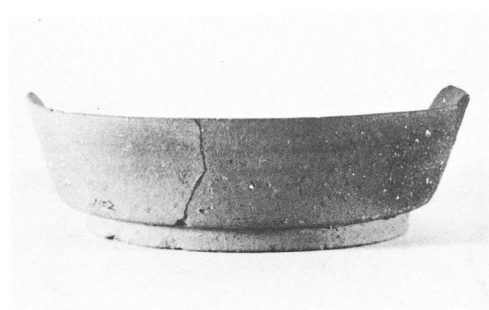
図版10 第1号・2号・8号住居址（上左は1号住炉、上右は2号住、中・下段は8号住）



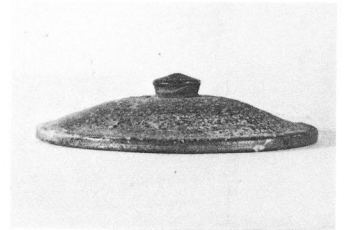
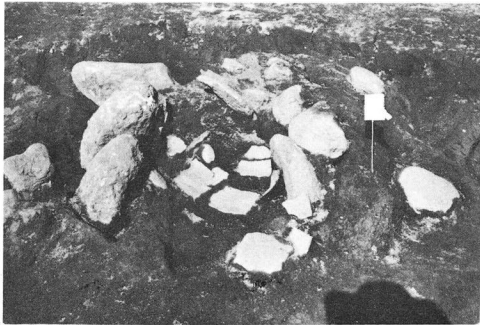
図版11 第9号住居址埋蔵



図版12 第11号・12号住居址（上左11号炉、上右12号炉、下段12号住）



図版13 第19号住居址と出土土器



図版14 第20号・27号住居址（上段20号、中・下段27号住居址）